

さん こう
三 光 遺 跡

— 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 —

2011.3

山梨県教育委員会
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

さん こう
三 光 遺 跡

— 山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書 —

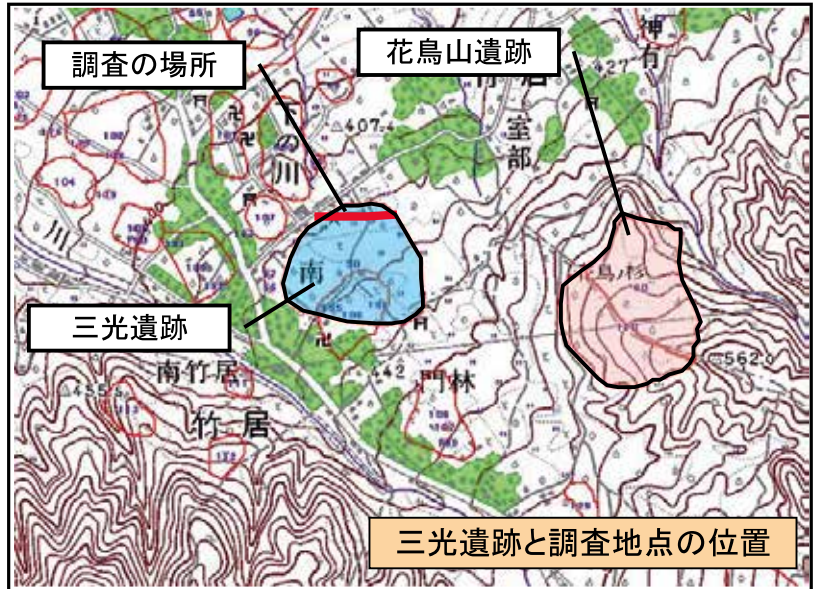
2011.3

山梨県教育委員会
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

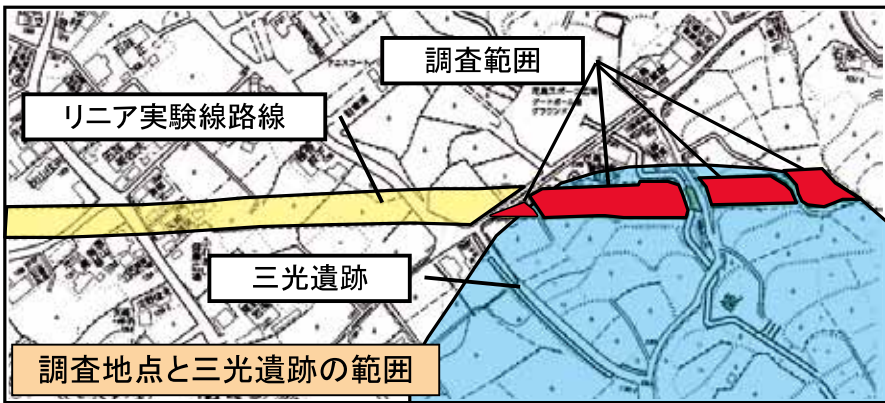
三光遺跡発掘調査の概要

三光(さんこう)遺跡は、笛吹市御坂町竹居地区にあります。山梨リニア実験線建設に伴って、平成20・22年に発掘調査されました。ここでは、発掘調査の手順や成果など、そのあらましについて紹介します。

遺跡の位置は、笛吹市御坂町の甲府盆地を見下ろす北向きの緩い斜面にあります。この地域では、桃やブドウなどの果樹栽培が盛んに行われています。三光遺跡の周囲には、多くの遺跡の存在が明らかとなっています。南側には、縄文時代前期を主体とする花鳥山遺跡が望め、北側には、柚木遺跡(縄文・平安・近世)や後藤遺跡(縄文・平安・中世・近世)などが確認されています。



発掘調査の手順



試掘調査の結果をもとに約2,200㎡が調査範囲として設定されました。



重機を利用して住居跡や土坑が確認できるまで地面を掘り下げます。



遺構の大きさや位置を確認します。



確認された遺構を掘り下げて、形や出土品の位置などを写真や図面に記録します。



土器などの出土品の正確な図面や、記録類の整理をして発掘調査報告書を作成します。

検出された遺構や遺物



縄文時代中期前半の住居跡



第1次調査では時代の異なる2軒の住居跡が発見されました。残念なことに、ここからの出土品は、ほとんどありませんでした。



Ⅱ区西側の縄文時代住居跡と土坑



平安時代の住居跡と調査風景



第30号土坑

石棒



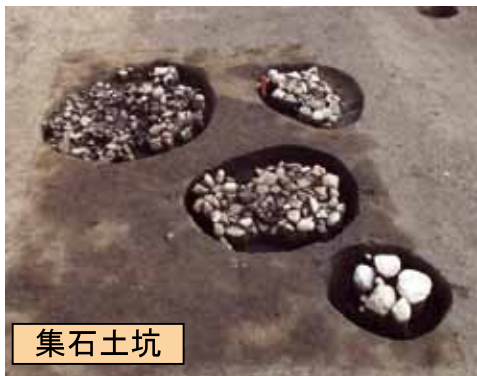
第29号土坑

扁平な自然石



Ⅱ区の西側には、縄文時代中期前半の住居跡や土坑群が接近した状態で検出されました。土坑には、扁平な自然石や、端部を欠いた石棒が入られたものもありました。これは、当時の信仰や葬送儀礼などを感じさせるものです。

人が余裕で入る大きさ



集石土坑

焼けた石が多く入っており、縄文時代の石蒸し料理をした痕跡かと想像させます。



土器集中区



つぶされた様子が良く分かる縄文時代中期前半の五領ケ台式深鉢型土器。

序 文

本書は、山梨リニア実験線建設に伴う三光遺跡の発掘調査の成果をまとめたものであります。

三光遺跡は、笛吹市御坂町竹居地区にあり、今回の調査地点より南側に向かって広がりを見せている遺跡で、昭和50年に発掘調査が実施され、縄文時代後期を中心とした遺構・遺物が数多く検出されています。中でも鯉節型の硬玉製大珠の大きさには目を見張るものがあります。また、御坂町は当遺跡のほかにも、花鳥山遺跡や桂野遺跡など縄文時代の大集落遺跡が点在する地域として非常に有名な場所です。

今回の発掘調査は、平成20年6月から11月と平成22年6月の二か年度にわたる期間を要し、その間の基礎的整理作業と、その後の本格的整理作業を経て本書の刊行に至りました。

調査の結果、縄文時代中期前半五領ヶ台式期に位置付けられる住居跡や中期から後期と推される多数の土坑、集石土坑など多様な遺構が確認されました。その中でも石棒が埋納された第30号土坑は本県でも7例目の貴重な資料であり、祭祀の埋葬に使うのか、さらに検討が進められなければならないと思われます。また、遺物は五領ヶ台式期や曾利V式期・加曾利E4式期といった縄文時代中期の土器類のほか石器類などが出土しております。

今回の調査によって、以上のような成果が得られたことは、三光遺跡のある笛吹市御坂町の縄文時代遺跡では欠くことのできない歴史資料の追加となることは間違いないものと思われます。

末筆ではありますが種々のご協力ご助言を賜りました独立法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構および関係者の皆様に厚く御礼を申し上げます。

平成23年3月

山梨県埋蔵文化財センター

所 長 小 野 正 文

例 言

- 1 本書は山梨県笛吹市御坂町竹居地内に所在する三光遺跡の発掘調査報告書である。
- 2 調査は独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構から山梨県教育委員会が委託を受け山梨県埋蔵文化財センターが発掘調査を実施したものである。
- 3 発掘調査期間および整理作業期間は以下のとおりである。
【平成20年度】
発掘調査（第一次） 平成20年6月12日～11月28日
基礎的整理作業 平成20年12月1日～3月28日
【平成21年度】
本格的整理作業 平成21年8月1日～11月30日
【平成22年度】
発掘調査（第二次） 平成22年6月1日～6月30日
本格的整理作業 平成22年8月1日～11月30日
- 4 本書の執筆・編集は山梨県埋蔵文化財センターの吉岡弘樹・皆川賢司が担当した。
- 5 遺構写真・調査風景写真は吉岡・皆川・奥石逸子が撮影した。
- 6 報告書掲載遺物写真は吉岡・皆川が撮影した。
- 7 発掘調査における世界測地系測量・グリッド杭設定・標高杭設定については株式会社昭和測量に委託した。
- 8 発掘調査および整理作業においては次の方々と機関にご協力、ご教示を賜った。記して感謝の意を表す次第である。
独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構 笛吹市教育委員会 御坂リニア対策協会 笛吹市御坂町竹居区 株式会社昭和測量 有限会社手塚建材興業 五洋・安部日鋼・大日本土木建設工事共同企業体 小淵忠秋 伊藤修二 内田裕一 野崎 進 瀬田正明 望月和幸 大木丈夫（笛吹市教育委員会） 岩田英介 小松広季 和田晃一（五洋・安部日鋼・大日本土木建設工事共同企業体） 中村公紀（御坂リニア対策協会会長） 石原光章（竹居区長） 高野貞信 村松正広 永野友規 鶴味一雄（隣接地地権者）
- 9 本遺跡に関わる出土品および記録図面・写真類などは一括して山梨県埋蔵文化財センターに保管してある。

凡 例

- 1 本報告書の挿図等に関する指示は下記のとおりである。なお、主要遺構・遺物の挿図縮尺は基本的に次に示すとおりであるが、資料の大きさなどにより適宜、変化を持たせてある。また、ドットマークなどその他の指示については、図中に示してある。
遺構 住居跡：1／40 土坑・ピット：1／40 集石土坑：1／20
配石遺構：1／40 溝状遺構：1／40
遺物 土器類および拓影：1／2 1／3 1／4 石器類：1／1 1／2
土製品類：1／1 1／2

目 次

序文

例言・凡例

目次

第1章 調査の経緯と組織	1
第1節 調査に至る経緯	1
第2節 調査の組織	1
第2章 遺跡の概観	3
第1節 地理的環境	3
第2節 歴史的環境	3
第3章 調査の方法と基本層序	5
第1節 調査の方法	5
第2節 基本層序	5
第4章 発見された遺構と遺物	7
第1節 第一次調査	7
第1項 住居跡	7
第2項 土 坑	7
第3項 集石土坑	14
第4項 配石遺構	15
第5項 ピット	15
第6項 溝状遺構	15
第7項 暗 渠	15
第8項 遺物集中区	16
第2節 第二次調査	16
第1項 土 坑	16
第2項 集石土坑	18
第5章 まとめ	19

挿 図 目 次

第1図	遺跡位置図	20
〔第一次調査〕		
第2図	基本層序観察地点	21
第3図	基本層序柱状図	21
第4図	第一次発掘調査区設定図	22
第5図	遺構配置図	23
第6図	住居跡配置図	23
第7図	土坑配置図	24
第8図	溝状遺構配置図	24
第9図	配石遺構配置図	25
第10図	集石土坑配置図	25
第11図	ピット配置図	26
第12図	試掘トレンチ・暗渠配置図	26
第13図	第1号住居跡・第46号土坑平・断面図	27
第14図	第1号住居カマド平・断面図	28
第15図	第2号住居跡・炉・第39号土坑平・断面図	29
第16図	第1～4・6～11号土坑平・断面図	30
第17図	第12～19号土坑平・断面図	31
第18図	第20～26号土坑平・断面図	32
第19図	第27～31・40号土坑平・断面図	33
第20図	第32～38号土坑平・断面図	34
第21図	第41～45・51・52号土坑平・断面図	35
第22図	第47～50号土坑平・断面図	36
第23図	第50号土坑平・断面図	37
第24図	第53～58号土坑平・断面図	38
第25図	第1～3号溝状遺構平・断面図	39
第26図	第4号溝状遺構・第2号配石遺構平・断面図	40
第27図	第5・6号溝状遺構・第2号暗渠平・断面図	41
第28図	第5号土坑・第1号暗渠平・断面図	42
第29図	第3号暗渠平・断面図	43
第30図	第1・3・4号配石遺構平・断面図	44
第31図	第1・3・4号配石遺構断面図	45
第32図	第1・2号集石土坑平・断面図	46
第33図	第3・4号集石土坑平・断面図（1）	47
第34図	第5・6号集石土坑平・断面図（2）	48
第35図	第3～6号集石土坑完掘平・断面図（3）	49
第36図	土器集中区第59・60号土坑平・断面図	50
第37図	土器集中区平・断面図	51
第38図	遺構出土遺物（1）	52
第39図	遺構出土遺物（2）	53
第40図	遺構出土遺物（3）	54
第41図	遺構出土遺物（4）	55
第42図	遺構出土遺物（5）	56

第43図	遺構出土遺物（6）	57
第44図	遺構外出土遺物（1）	58
第45図	遺構外出土遺物（2）	59
第46図	遺構外出土遺物（3）	60
第47図	遺構外出土遺物（4）	61
第48図	遺構外出土遺物（5）	62
第49図	試掘トレンチ出土遺物（1）	63
第50図	試掘トレンチ出土遺物（2）	64
第51図	試掘トレンチ出土遺物（3）	65
第52図	試掘トレンチ出土遺物（4）	66
第53図	出土土器土製品・石器（1）	67
第54図	出土石器（2）	68
第55図	出土石器（3）	69
第56図	出土石器（4）	70
〔第二次調査〕		
第57図	第二次調査位置図	83
第58図	遺構配置図	83
第59図	基本層序観察地点	83
第60図	基本層序柱状図	83
第61図	第二次発掘調査区設定図	84
第62図	第1～3・8～11号土坑平・断面図	85
第63図	第1～5・12～16号土坑平・断面図	86
第64図	第1号集石土坑平・断面図	87
第65図	土器集中区平・断面図	88
第66図	遺構出土遺物（1）	89
第67図	遺構出土遺物（2）・遺構外出土遺物（1）	90
第68図	遺構外出土遺物（2）	91
第69図	遺構外出土遺物（3）	92
第70図	遺構外出土遺物（4）	93
第71図	遺構外出土遺物（5）	94
第72図	遺構外出土遺物（6）	95
第73図	出土石器	96

表 目 次

〔第一次調査〕		
第1表	土坑一覧表	71
第2表	PIT一覧表	72
第3表	出土土器観察表	74
第4表	出土石器・土製品観察表	82
〔第二次調査〕		
第5表	土坑一覧表	97
第6表	出土土器観察表	97
第7表	出土石器・土製品観察表	101

第1章 調査の経緯と組織

第1節 調査に至る経緯

リニア実験線は昭和52年に、宮崎県に本格的設備が開設され、平成9年から技術開発を山梨へ移し、先行区間18.4kmで車両開発や電力供給装置や列車のコントロール装置、完全管理システム等の開発実験を行ってきた。平成19年（2007）1月、JR東海の山梨実験線建設計画などを国土交通大臣が承認したことから、現在、一般区間の工事が平成25年度完成を目指して行われている。その距離は先行区間も含め総延長42.8kmに延伸となり、これを受けて試掘・確認調査が行われ、本線部分や仮設道路建設地にある周知の埋蔵文化財の発掘調査が実施されることとなった。

調査地点は御坂山地に源流を持つ浅川扇状地の扇頂部近くの笛吹市御坂町竹居に位置しており、周辺は葡萄や桃などの果樹経営が非常に盛んな地域である。この竹居地内は前述の山梨リニア実験線建設ルートである。しかしながら、この周辺は多くの周知の埋蔵文化財包蔵地が存在する所として知られており、昭和50年上に作付転換に伴って発掘調査がされ、縄文時代中期から晩期までの大量の土器類とともに、特に長さ10.9cmの鯉節型硬玉製大珠が発見され全国的にも有名になった「三光遺跡」の範囲内にあたり、埋蔵文化財保護措置が必要となるため、平成19年度に実施された試掘・確認調査結果などに基づいた協議の結果、事前の発掘調査が必要となった。その後、学術文化財課により協議を重ねた上で調査範囲・調査期間・経費等予算積算作業などがなされ山梨県埋蔵文化財センターによって、平成20年度に第一次発掘調査および基礎的整理作業、平成21年度に本格的整理作業を実施し、平成22年度に報告書を刊行することとなった。平成20年度は平成20年4月16日に現地にて協議を行った後、平成20年6月12日から11月28日まで発掘調査、平成20年12月1日から3月28日まで基礎的整理作業を実施した。また、平成21年度は平成21年8月1日から11月30日までの4ヶ月間を本格的整理作業期間と定めて記録図面の整理や出土遺物の図化、原稿執筆などを行い翌平成22年度に本書の刊行となった。

また、仮設用道路建設に伴って平成22年6月から約1ヶ月間（第二次）の追加調査が実施されたことも付け加えておく。

なお、法的な手続きは以下に示す。

【第一次調査】

平成20年6月12日

文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成20年12月2日

文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を甲府警察署長に通知する。

【第二次調査】

平成22年6月12日

文化財保護法第99条第1項に基づく埋蔵文化財発掘調査の報告を山梨県教育委員会教育長に提出

平成22年7月1日

文化財保護法第100条第2項の規定により埋蔵文化財発見の通知を甲府警察署長に通知する。

第2節 調査の組織

調査主体 山梨県教育委員会

調査機関 山梨県埋蔵文化財センター

調査担当

【平成20年度】

【第一次発掘調査】

主査・文化財主事 吉岡弘樹

主任・文化財主事 輿石逸子

【基礎的整理作業】

主査・文化財主事 吉岡弘樹

【平成21年度】

【本格的整理作業】

主査・文化財主事 吉岡弘樹

主査・文化財主事 皆川賢司

【平成22年度】

【第二次発掘調査・本格的整理作業】

主査・文化財主事 吉岡弘樹

主査・文化財主事 皆川賢司

発掘作業員（短期間非常勤嘱託職員）

【平成20年度】

【発掘調査・重機運転・土砂運搬】

功刀正彦 村田勝利

【発掘調査】

石田洋一 一ノ瀬政次 伊藤知子 大森ふじの 岡部豊雄 小澤明子 小澤正臣 加賀美昌友 梶原初美
北野礼子 小林としみ 五味 護 齋藤里美 佐藤武光 清水勝正 武井裕子 中沢 保 中村仁美
広瀬ありさ 深沢和樹 深山邦夫 望月幸次 望月敏子 矢崎 緑 吉田地恵美 渡辺麗子

【基礎的整理作業】

小澤明子 梶原初美 齋藤里美 中川美千子 矢崎 緑 渡辺麗子

【平成21年度】

【本格的整理作業】

梶原初美 平川涼子

【平成22年度】

【発掘調査・重機運転・土砂運搬】

村田勝利

【発掘調査】

伊藤知子 北野礼子 齋藤里美 中沢 保 望月幸次

【本格的整理作業】

梶原初美 平川涼子

第2章 遺跡の概観

第1節 地理的環境

本遺跡の所在する笛吹市は2004年10月12日に東八代郡石和町、御坂町、一宮町、八代町、境川村及び東山梨郡春日居町が合併して発足した市である。その後、2006年8月1日に東八代郡芦川村を編入して現在に至っている。笛吹市は甲府盆地の中央部やや東寄りに位置し、東は甲州市および大月市に、西は甲府市に、北は山梨市に、南は富士河口湖町に接している。

中でも本遺跡が所在する旧御坂町は笛吹市の南西部にあり、東西約16km、南北約4kmで、面積は約64km²である。また、山梨県を国中地方と郡内地方に分断する御坂山塊の北西斜面に立地し、八町峠に源を発する金川と神有東方三ツ沢より発する天川が代表的な河川であり、扇状地形を作り出している。金川扇状地は甲府盆地の陥没によってできた断層崖下に、金川が運んできた土砂が堆積してできたもので、盆地東南縁の扇状地のうちで最も規模が大きい。一方、天川扇状地は山麓に近い部分を旧御坂町が占めており、傾斜は金川扇状地より急角度である。遺跡地周辺の地質は、山地の大部分が花崗岩類及び御坂層からなり、一部に小仏層、泥岩層、ローム層が見られる。また、平地はその上方の岩層の碎屑物から成り立っている。

町内の土地は約70%を山林が占める。排水が良好で地層が深いという扇状地の特性を生かして、広く桑が栽培され、明治以降の養蚕の振興につながった。また、昭和30年代以降は養蚕に代わり、モモ、ブドウなどの果樹経営が盛んとなり、現在では耕地の約69%が果樹栽培地へと変容している。人口13,000人の多くは二之宮や成田などの石和町に近い御坂町の南東部に集中する傾向にある。町内には国道20号、137号が主要道路として通じ、中央自動車道の一宮御坂インターチェンジが隣接している。

旧御坂町の歴史をふり返ると、金川の谷に沿って上り、御坂峠を越え、河口に出て籠坂峠を過ぎる御坂道があった。御坂道は、古来重要な交通路であり、それと相まって、当地域は古代における甲斐国の政治、文化の中心地であったことが伺われる。

本遺跡は旧御坂町の西端の、御坂山塊中央部の上座山(1,474m)に源を発し、北西から西北西に流れて笛吹川に注ぐ、全長約12kmの浅川によって造られた扇状地の扇中央部に位置している。遺跡地は標高約427mに位置し、かつては水田や桑畑であったが、現在はほとんどが果樹栽培地として利用されている。

第2節 歴史的環境

三光遺跡①の周辺の縄文時代を主体とする主要遺跡として、銚子原遺跡(八代町)②、花鳥山遺跡(御坂町)③、桂野遺跡(御坂町)④、御坂中丸遺跡(御坂町)⑤、諏訪の原遺跡(御坂町)⑥などがあげられよう。

銚子原遺跡は三光遺跡より西に1,000mほど離れた八代町の上ノ原の丘陵上、標高約430mの位置にある。発掘調査の結果、縄文時代前期末の諸磯式期に位置付けられる住居や中期末の曾利式期に位置付けられる住居が検出されている。併せて、縄文時代前期末と中期の土器のほか、埴輪なども出土している。また、その後の遺跡近隣の試掘調査でも縄文時代前期後葉から中期末の遺物が大量に出土している。これらのことから、銚子原遺跡付近には縄文時代前期後葉から中期末にかけての大集落があったことが伺われる。

縄文時代前期の遺跡として著名な花鳥山遺跡は、三光遺跡より東に1,000mほど離れた、御坂山塊から甲府盆地に向かって北西方向に舌状に張り出した丘陵上、標高500m付近にある。花鳥山遺跡では発掘調査の結果、およそ5,000年前の集落の跡が見つかっている。特に昭和62年に行われた、山梨県教育委員会の発掘調査では幅3m、長さ270mというわずか810m²の調査の中で24軒の住居跡が発見されるとともに、大量の土器が出土している。これらの土器の主体は前期後半諸磯式期であるが、早期中葉の押型文土器や早期末～前期初頭の繊維土器も出土している。また、わずかに中期・後期の土器も見つかっており、長い期間、この地に人々が生活していた様子が伺われる。石器類では狩猟の象徴的道具である石鏃が多数見つかっている一方、植物採取活動(または栽培)に関わる象徴的な道具である打製石斧・石皿・磨石・凹石も多数見つかっており、本遺跡において、採集等が盛

んに行われていたことが推測できる。これを裏付けるように、ドングリ・クリ・クルミの堅果類や球根類、栽培食物のエゴマなどが検出されている。

桂野遺跡は、三光遺跡より東へ約3,000m離れた標高500mほどの金川の扇状地上にある縄文時代中期の遺跡である。4単位の大型把手がつく井戸尻式期の土器などが発見されている。その中でとりわけ胴部に華麗な渦巻文の施された曽利式期の深鉢形土器は有名である。

中丸遺跡は桂野遺跡よりさらに東北にさかのぼった、金川右岸の支谷、相沢の台地上に立地している。相沢を挟んで東側の台地を中丸、西側の台地を上の方と呼び、どちらの台地にも縄文時代の遺跡が認められる。この、双方を一括して御坂中丸遺跡と周知されている。御坂中丸遺跡は、東京国立博物館に収蔵されている「黒駒の土偶」が大正6年に発見された遺跡として有名である。

諏訪の原遺跡は三光遺跡より3,000mほど南の八千蔵地区、通称諏訪の原にある。本遺跡は、扇状地上を流れる天川の浸食作用で細長く帯状に発達した右岸の段丘上に立地している。遺跡の標高は約315mで、花鳥山や桂野遺跡の500m前後と比べるとやや低い環境にある。出土している土器は、桂野遺跡に似た縄文中期の勝坂式期や加曽利E式期が主体である。石器は打製石斧、磨製石斧が発見されている。これらのことから、この遺跡は、縄文中期の最盛期からその終わりにかけて栄えた遺跡の一つであると言えるだろう。

御坂町内では、その他に夏目原の宮の前遺跡⑦、八幡神社周辺からは磨消縄文の非常に精巧な一片が見つまっている。この遺物は、堀之内式期に属すると推測されている。成田の永命遺跡⑧からは石棒の頭の部分が発見されており、勝坂式期の遺跡だと考えられている。井之上の八反久保遺跡⑨からは土師器にまじって加曽利式E式期と思われる土器片がわずかに発見された。また、下野原の狐原遺跡⑩からは花鳥山と同じ前期の諸磯式期や、中期の加曽利E式期の土器片がわずかに出土している。金川原遺跡⑪からも土師器にまじって中期縄文がわずかであるが出土している。その他にも尾山の犬日遺跡⑫、大野寺の向田遺跡⑬、二之宮の太郎治原遺跡⑭からわずかであるが中期縄文らしい土器片が発見されている。

次に旧八代町内に目を向けてみると、前期末及び中期中葉から後期前葉にかけての遺跡が、浅川扇状地の扇頂部と扇央部に点在している。

梨木遺跡⑮は祭祀的な要素をもつ遺跡で、縄文時代前期末の集石土坑や配石土坑等が確認されている。扇央部に位置する堀之内遺跡⑯では中期後半の曽利V式期に属する埋甕と土坑、金地蔵遺跡⑰では詳細な時期までは不明だが落とし穴状の土坑、下長崎遺跡⑱では後期前葉の堀之内式期に属する溝状遺構、夜長遺跡⑲では前期末頃の土坑、東小山B遺跡⑳では中期中葉の新道式期に属する土坑、南居遺跡㉑では中期後半の曽利II～III式期に属する住居跡と土坑状の落ち込みが確認されている。

扇状地の南東側に広がる丘陵上にある、上の平遺跡㉒からは井戸尻式土器や曽利式土器が出土している。

竹居門林地区では後期である加曽利式B1式期耳付注口土器が見つまっている。奈良原地区では縄文中期曽利式期に属する広口甕形土器と深鉢形土器などが見つまっている。岡地区では中期曽利式期の底部穿孔土器が見つまっている。

三光遺跡の至近の位置には、他にも「竹居御崎遺跡㉓」「深沢道上遺跡㉔」「柚木遺跡㉕」「後藤遺跡㉖」「大覚林遺跡㉗」などの遺跡が縄文遺跡として「山梨県遺跡地図」に掲載されている。

山梨県の縄文時代遺跡の集中地区は、大別すると甲府盆地縁辺部・八ヶ岳山麓・桂川流域の3地域に大きく分けることができる。三光遺跡は、3地域の一つである甲府盆地縁辺部の、曾根丘陵から盆地東部の扇状地上に集中して存在した遺跡群の内のひとつだと考えられる。

第3章 調査の方法と基本層序

第1節 調査の方法

1. 調査区とグリッドの設定 (第2図)

調査は笛吹市御坂町竹居地区の東西約210m、南北約20mの内、6箇所に調査区を設定した。その面積約2,000㎡である。

グリッドの設定は、近接して発掘調査されている地点の遺構との関係が容易に判断できるように世界測地系座標に基づいて設定した。



グリッド杭の設置作業

また、本遺跡では調査区が6カ所に及んでいるため混乱を来さないよう順次北から南に向かってアルファベット大文字[A]から[E]まで、西から東方向はアラビア数字を[1]から[44]まで付した。グリッドの呼称は5m間隔で正方形に設置された杭の北東隅の杭の名称をグリッド名とすることとした。

2. 遺構掘削と記録方法

調査地点では近隣の果樹経営や笛吹市道がコンクリート敷き簡易舗装であり、重機の進入などによる影響があることが容易に想定できたため大型重機の使用は不可能であ

った。このため3トン未満の小型重機に平爪バケットを装着し表土の除去を行った。また、東側の調査区にあたる[A・E-29区]から[B・D-44区]までの間は湧水が激しいため適宜、釜場及び排水溝を設置しポンプアップを実施しながら表土剥ぎをし調査時においてもそれを継続することとした。

遺構確認面まで試掘調査結果を基に目視及び土層観察・精査を実施し総合的に土壌の除去深度を決定し、重機により掘削を実施した。それより下層についての掘り下げは人力によってグリッド単位で遺構・遺物の把握に努めた。プランの判明した遺構に対しては、土層堆積確認用のベルトを適宜設け平面・断面図等の図面作成を行っていった。図面は当該遺跡がほぼ平坦であることから図面整理の容易さを考慮し遣り方測量を基本とした。また、危険深度まで達するような遺構については、安全確保の観点から総ての調査終了後、埋め戻し時に安全確保を行った後に重機によって断ち割り写真撮影をすることで対応することを、基本的な考えとして調査にあたることとした。

記録写真は、一眼レフカメラによる35mmモノクロおよびリバーサルフィルム撮影のほか、デジタルカメラ、ネガカラーフィルムによる撮影を基本とし、必要に応じて中判カメラによる撮影も行った。

第2節 基本層序

1. 第一次調査

調査区地表面の標高は最高地点はD-37区付近で約421.9m、最も低い地点はD-5区付近で約417.1mを測りおおよそ4.8mの比高差を有している。

基本層序は調査区が横長なため土層堆積状況の良好な箇所を5地点選定し、調査終了後の埋め戻し直前に深掘り実施し観察することとした。以下がその結果である。

[a 地点]

F-3グリッドにあたる。約50cmの厚い表土層の下に、上方から流入してきたと想定させる摩滅のひどい遺物を包含する第2(淡茶褐色土)～3層(黒褐色土)が約75cm堆積している。さらにその下層の第4層(暗茶褐色土)・第5層(黒褐色土)が続く。

[b 地点]

C-11グリッドにて観察した。調査対象地の中で標高が最も低い地点である。基本的にa地点と同じ堆積を見せている。

[c 地点]

c地点(C-21グリッド)では、a・b地点と異なる堆積を観察することができた。これは、当地点が北へ下る傾斜地であったことに加え東側に大きく湾曲しながら急峻に下る小河川の存在が複合したことが起因と考えられる。

約15cmの薄い表土層の下、第6層(暗黄褐色土)・第7層(淡茶褐色土)がある。この二つの層は当地上方から移入された盛土の可能性が高い。続いて、遺物を包含する第8層(暗黄褐色土)が観察された。さらにここから下は基本的にa・b地点と同じ第2(淡茶褐色土)～3層(黒褐色土)に挟まれた第9・10・11層(暗茶褐色土・黄褐色砂質土・薄茶褐色土)がある。第3層より下層には第12・13層(淡茶褐色砂質土・灰色砂質土)があり、近接して流れる小河川の影響が想定できる。

[d 地点]

当地点(C-33グリッド)は、調査対象地を東西に分断する小河川の東側に位置し、調査地内でも高い標高を示す場所でもある。また、河川の対岸にあたるC地点とは大きく異なる土層が観察できた。

約50cmの表土層下、第14・15層(茶褐色粘質土)がある。これは、果樹経営以前に行われていた水田耕作の床土である。さらに下層の第16層(薄茶褐色土)があり第17～19層(暗茶褐色粘質土・暗黄茶褐色粘質土・暗灰色粘質土)と粘質土の堆積が続く。

[e 地点]

D-42グリッドにおいて観察をした。約20cmの浅い表土層下、元水田の床土と推される第20層(暗褐色粘質土)があり、遺物包含層である第21層(淡茶褐色土)がある。さらに下層には、第19層(暗灰色粘質土)が観察された。

2. 第二次調査

調査区地表面の標高は、概ね417.5mのフラットな地形である。基本層序は、調査区が200㎡と狭い中でも、土層堆積状況の良好な箇所とみられるA-9区をその地点として選定し、調査終了時点で深掘りを実施し観察することとした。以下がその結果である。

[f 地点]

当地点では、暗茶褐色を示す第1層は約10cmの薄い表土層と、約20cmの第2層(明黄褐色土)が表土層+耕作土層にあたる。その下に第3層(暗黄茶褐色土)・第4層(茶褐色土)・第5層(淡茶褐色土)・第6層(暗茶褐色土)・第7層(黒褐色土)と安定した堆積の遺物包含層が続く。この中でも、第5・6層は遺物の混入が多くみられる。さらに下層にある第8土層は、約10cmから人頭大の礫で構成されている地山層である。

第4章 発見された遺構と遺物

第1節 第一次調査

第1項 住居跡（第6図）

第1号住居跡（第6・13・14図）

C-14・D-14・D-13・E-14区にまたがって検出された平安期の住居跡である。他の遺構との重複は北東隅部において、縄文中期と推されるほぼ円形（長軸89cm・短軸85cm・深度70cm）の土坑全体を切り込んで造られている。また、南側コーナーと北東-西壁の中央付近には浅い柱穴状のピットが存在する。さらに近接した位置には第86号ピットが検出されている。平面形は隅丸方形を呈している。規模は、長軸5.03m・短軸4.83mを測り、深度は20cmと浅い。また、試掘トレンチによって削平されているものの、中央よりやや北側に貼床が明確に確認できる。カマドは住居跡北側コーナーに検出され、その構築に使用されたものと推測される被熱された礫が4点と、図示し得ない小土器片が3点検出されている。なお、当住居跡からは、縄文時代後期前葉堀之内2式の小破片が検出されたが明らかに、試掘トレンチなどの埋め戻しによる流れ込みである。

第2号住居跡（第6・15図）

D-6・D-7・E-6・E-7区において検出された。試掘トレンチにより北側を削平されている。また、試掘時に確認されている第39号土坑とも切り合い関係にある。平面形は不整楕円形をとり、長軸は南北に推定4m以上、短軸は東西に3.63mを測る。深度は、上方を耕作等で削平されていたため10cmと浅い検出となった。柱穴は5箇所に配置されている。また、南西壁にも柱穴状の堀込みが認められるが柱穴としての認定は難しい。炉は、中央やや東寄りに不整形に広がる形状で検出された。焼土と焼土混じりの土層とで構成されており、長軸85cm、短軸63cm、深度23cmの規模を持つ。

構築時期については、縄文時代前期後半諸磯から中期前半の五領ヶ台式Ⅱ式古段階の土器が検出された第39号土坑に切られている点と形状が楕円形を示している点などから五領ヶ台式Ⅱ式古段階以前と考えられよう。

第2項 土坑（第7図）

土坑は、第Ⅱ区に集中する傾向を見せ合計60基が検出された。また、構築時期が分かる遺物を混入している土坑は、14基であった。中でも、第39号土坑からは縄文時代中期初頭（五領ヶ台式Ⅱ式）の深鉢型土器が完形に近い状態で出土している。また、第12号土坑からは、古墳時代の祭祀によって埋納されたとみられるミニチュア土器と台付甕の脚部が検出された。

第1・2・3号土坑（第7・16図）

D-44区より近接して3基の土坑が検出された。

第1号土坑は、半分が調査対象地外にあり、上縁・坑底ともに不整円形状をとるものと思われる。底面の状況は平坦であるが4石ほどの礫が検出されている。壁の状況は急傾斜をもって立ち上がっている。規模は、長軸155cm・深度42cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第2号土坑は、上縁・坑底ともにほぼ楕円形状をとる。壁は、やや急傾斜をもって立ち上がっている。規模は長軸112cm・短軸78cm・深度53cmを測る。坑内からの遺物の出土は無かった。

第3号土坑は上縁・坑底ともに不整長楕円形状をとる。坑底は平坦で壁は垂直に立ち上がっている。規模は、長軸66cm・短軸45cm・深度35cmである。遺物の出土は無かった。

第4号土坑（第7・16図）

E-43区に位置している。平面形は不整長楕円形状をとる。壁は、ほぼ垂直に立ち上がるが部分的にオーバー

ハングしている。坑底は平坦である。規模は、長軸95cm・短軸76cm・深度58cmを測る。遺物の出土は無かった。

第5号土坑（第7・28図）

D-42・E-42区に跨って位置している。また、第1号暗渠に近接している。規模は、長軸180cm・短軸140cmで深度は13cmと非常に浅い。平面形は不整形であり、坑底はほぼ平坦で、壁の立ち上がりは緩やかである。遺物の出土はあるが図示し得なく構築時期の特定は難しい。

第6号土坑（第7・16図）

C-43区より検出され、近接した位置に第2・3号ピットがある。平面形は隅丸方形に近い。規模は、長軸150cm・短軸123cm・深度は30cmを測る。坑底の状況は平坦で、壁は東側は緩やかに、西側は急傾斜をもって立ち上がっている。坑内からは礫のほかに縄文土器の破片が出土しているが図示し得ない。

第7号土坑（第7・16図）

第6号土坑と同じC-43区より検出された。近接した位置にピットが確認されている。上縁・坑底ともに不整楕円形状をしており、坑底は平坦で緩やかな傾斜をとって立ち上がっている。規模は長軸81cm・短軸64cmを測り、深度は13cmと浅い。遺物の出土は無い。

第8号土坑（第7・16図）

B-43区より検出された。近接した位置に第10号ピットがある。形状は、上縁・坑底ともに不整形を呈しており、壁は緩傾斜をもって立ち上がっている。規模は長軸115cm・短軸92cmを測り、深度は11cmと非常に浅い。遺物の出土は無い。

第9号土坑（第7・16図）

B-42区に位置している。形状はほぼ楕円形を呈している。規模は長軸123cm・短軸93cm・深度23cmを測る。底面は、わずかに起伏が見られる。壁の立ち上がりは、緩やかな傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は縄文時代と考えられる土器片が2点あったが図示し得るものではない。

第10号土坑（第7・16図）

C-42区より検出された。形状は短軸となる部分に凹みを持つ不整楕円形である。坑底はわずかに傾斜が見られるものの、ほぼ平坦と言えよう。壁の立ち上がりは緩やかである。規模は、長軸136cm・短軸84cm・深度20cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第11号土坑（第7・16図）

E-40・E-41区において検出された。形状は隅丸方形を呈し、底面はわずかに傾斜を持っている。壁の立ち上がりは、緩やかな傾斜となっている。規模は、長軸101cm・短軸88cm・深度21cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第12～18号土坑（第7・17図）

D-36区より6基の土坑が集中して検出された。

第12号土坑は、平面形はほぼ円形を、断面形は播り鉢状を呈している。規模は、直径58cm・深度23cmを測る。坑内からは古墳時代の台付甕を模したミニチュア土器と、台付き甕脚部の2点（第53図No232・233）が出土しており、強く埋納祭祀を推測させるものである。

第13号土坑は、上縁は不整円形を、坑底は中央が凹む長楕円の形状をとる。壁は緩やかに立ち上がっていく。

規模は、長軸95cm・短軸80cm・深度22cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第14号土坑は、第15号土坑と上縁部がわずかに接した位置にある。形状は不整楕円形を呈しており、規模は長軸61cm・短軸50cmを測り、深度4cmと非常に浅い。坑底は平坦で壁は緩やかに立ち上がっていく。遺物の出土はない。

第15号土坑は、不整円形を呈し第14号土坑と接している。規模は、長軸67cm・短軸58cm・深度20cmを測り、坑底は丸底である。壁の立ち上がりは緩やかに上縁に伸びる。遺物の出土は無い。

第16号土坑は、不整円形の形状をとり、坑底は平坦である。長軸62cm・短軸58cm・深度19cmを測る規模である。壁はおおよそ45度の角度で立ち上がっている。

第17号土坑は、第18号土坑と連結した状態で確認された。形状は不整楕円形で、坑底は平坦である。壁の立ち上がりは緩やかである。規模は、長軸100cm・短軸83cm・深度26cmを測る。遺物は縄文時代の土器小破片が1点出土しているが、詳細な時代を決めるのは難しい。

第18号土坑は、規模は長軸57cm・短軸44cm・深度21cmを測り、不整円形状の形態をとっている。坑底は平坦で、壁はやや急傾斜で立ち上がっていく。遺物は、縄文時代の土器小破片が2点出土しているが、図示し得るものではなく時期の特定はできない。

第19号土坑（第7・17図）

E-36区に位置している。第17・18号土坑が北側に近接している。平面形は土坑の一部が調査区外に伸びているので確定はできないが、不整長楕円形を呈しているものと想定できる。規模は短軸44cm・深度12cmで断面形は掘り鉢状となっている。当土坑からは坑底に近い部分から脚部を欠いた古墳時代の高坏（第53図 No234）が1点出土している。

第20号土坑（第7・18図）

E-35・E-36区より検出された。ほぼ、南側半分が調査区外にあるが、平面形は円形を呈するものと想定できる。規模は直径80cm・深度30cmを測る。坑底は平坦であるが東に向かってやや傾斜している。壁の立ち上がりはやや急傾斜をもって立ち上がっていく。なお、遺物の出土は無かった。

第21号土坑（第7・18図）

D-34区から検出され、第6号溝状遺構と接している。双方の新旧の切り合い関係は判断できなかった。平面形は上縁では不整形を呈している。坑底の状況は丸底である。壁の立ち上がりは急傾斜で上縁に向かっている。規模は、長軸83cm・短軸83cm・深度66cmを測る。遺物の出土は無い。

第22号土坑（第7・18図）

C-16区から検出された。北西側のごく一部分が調査区外に残るが、平面形は正円形であることが容易に判断できる。底面は丸底で壁は上縁に向かって傾斜をもって上がっていく。規模は、長軸68cm・短軸68cm・深度31cmを測る。遺物の出土は無い。

第23号土坑（第7・18図）

C-17区より検出された。南西側に近接して第24号土坑が配置されている。平面形は円形に近い楕円形で、長軸75cm・短軸56cmを測り、深度は14cmと浅い。坑底は丸底で壁は緩傾斜で上縁に伸びている。なお、遺物の出土は無かった。

第24号土坑（第7・18図）

C-16・C-17区より確認された。第23号土坑が北東の位置に近接している。平面形は楕円形で、坑底は丸底

になっている。壁は緩い傾斜で立ち上がっている。規模は、長軸70cm・短軸61cmを測り、深度は11cmと第23号土坑と同様に浅い。遺物の出土は土器小破片が1点あるが図示し得るものではない。

第25号土坑（第7・18図）

C-17・C-18区に位置している。平面形は不整円形である。坑底はほぼ平坦で壁は緩やかな傾斜を持って上縁に伸びている。規模は、長軸89cm・短軸89cmを測り、深度は12cmと浅い。土器など、遺物の出土は無かった。

第26号土坑（第7・18図）

C-18区に位置している。東側半分は調査区外にあるため、平面形は不整形としておく。断面は掘り鉢状の丸底を呈している。直径112cm・深度35cmの法量が測定できる。遺物の出土はない。

第27号土坑（第7・19図）

D-8・E-8区より確認された。近接して第28号土坑がある。平面形はほぼ円形で、坑底は平坦である。壁は急角度で立ち上がっている。規模は、長軸132cm・短軸120cm・深度31cmを測る。遺物の出土は無い。

第28号土坑（第7・19図）

D-8・D-9区より確認された。第27・29号土坑に挟まれた位置にある。平面形は、ほぼ円形で、坑底は平坦で壁は傾斜をやや強く立ち上がっている。各部の法量は、長軸107cm・短軸102cm・深度44cmを測る。遺物の出土は無い。

第29号土坑（第7・19図）

D-9区に位置している。第28・30・40号土坑に囲まれている。形状は、ほぼ円形であり坑底は平坦になっている。壁は、ほぼ垂直に立つ。規模は、長軸128cm・短軸122cmを測り、深度は69cmと深い。当土坑からは自然石のほか、12点の土器片が出土している。これらの土器は、五領ヶ台Ⅱ式古段階・曾利Ⅱ～Ⅳ式・称名寺式・堀之内Ⅰ式と時代差が認められる。

第30号土坑（第7・19図）

D-8・D-9区に位置している。第29・31・40号土坑と近接している。形状はほぼ円形で坑底は平坦である。壁はわずかに朝顔状に上縁に向かって広がっていく。規模は、長軸127cm・短軸122cmを測り、深度は92cmと深い。遺物の検出は加曾利E4式・堀之内Ⅰ式の土器片のほか両端部を欠いた石棒も検出されている。

第31号土坑（第7・19図）

D-8区より検出された。周囲には第27・28・29・30号土坑がそれぞれ位置している。形状は不整円形を呈している。坑底は平坦で、壁はおおよそ45度の傾斜で上縁に立ち上がっていく。規模は、長軸151cm・短軸118cm・深度59cmを測る。なお、遺物の出土は無い。

第32・33号土坑（第7・20図）

D-8区より連結した状態で検出された。西側に近接して、第34号土坑がある。形状は双方とも楕円形で坑底は平坦である。規模は、第32号土坑は、短軸74cm・深度12cm、第33号土坑が短軸88cm・深度9cmを測る。壁は上縁に向かって急角度で立ち上がっている。遺物の出土はない。

第34号土坑（第7・20図）

D-8区より検出された。東側に第32・33号土坑が位置している。形状は楕円形である。規模は、長軸64cm・

短軸49cm・深度12cmを測る。坑底は平坦で、壁はやや緩い角度で立ち上がっていく。なお、遺物の出土は無い。

第35号土坑（第7・20図）

D-7区より検出された。近接して第36・38号土坑がある。形状は、楕円形であり、坑底は平坦である。壁の立ち上がりは、上縁に向かって広く開放している。規模は、長軸71cm・短軸57cm・深度25cmを測る。遺物は出土しなかった。

第36号土坑（第7・20図）

D-7区に位置している。近接して、第35・37・38号土坑が検出されている。平面形は、ほぼ円形で、坑底は平坦である。壁の立ち上がりは、第35号土坑よりやや緩く上縁に開いていく。各部の法量は、長軸80cm・短軸71cm・深度25cmを測る。遺物の出土は無かった。

第37号土坑（第7・20図）

D-6・D-7区より検出された。西側に近接して第35・36号土坑が並んで確認されている。規模は、長軸132cm・短軸101cm・深度22cmを測る。形状は楕円形で坑底は平坦である。壁は上縁に向かい角度を付けて広がっていく。遺物は、五領ヶ台式土器の口縁部の小破片が1点出土している。

第38号土坑（第7・20図）

D-7区より検出された。第35・36号土坑と直近の位置にある。規模は、長軸166cm・短軸138cm・深度54cmを測る。形状は不整形円形を呈しており、坑底は平坦である。壁の立ち上がりはやや急角度で広がりを見せている。なお、当土坑からは、7点の土器が検出されている。それらの時期区分としては五領ヶ台Ⅰ式新からⅡ式古段階・五領ヶ台Ⅱ式新段階・堀之内式などが混在している。

第39号土坑（第7・15図）

D-6・D-7区に位置している。試掘調査時に確認されていた土坑で、第2号住居跡に切られている。規模は、長軸135cm・短軸97cm・深度52cmを測る。形状は不整形を呈しており、坑底は平坦である。壁の立ち上がりは緩い角度を持って上縁に向かっていく。遺物は、五領ヶ台Ⅱ式の深鉢型土器が1個体分とⅡ式古段階の口縁部破片が出土している。

第40号土坑（第7・19図）

C-9・D-9区に位置している。南西方向に第30号土坑がある。形状は不整形楕円形を呈し、規模は、長軸183cm・短軸127cm・深度60cmを測る。坑底は平坦で壁の立ち上がりは北側では緩やかに、南側では急峻に開口している。遺物は縄文後期前葉の堀之内Ⅰ式期の深鉢型土器小破片が1点出土している。

第41・42号土坑（第7・21図）

双方とも、E-11区において確認された。切り合い関係は不明確である。

第41号土坑は、不整形の形状を有し、長軸177cm・短軸75cm・深度33cmの規模を持つ。坑底は丸底で緩やかに四方に開口している。遺物の出土は無い。

第42号土坑も形状は、不整形である。規模は長軸90cm・短軸89cmで、深度は8cmと浅い。坑底は、ほぼ平坦で壁は緩やかな斜面をもって開口している。なお、遺物の出土は無い。

第43号土坑（第7・21図）

E-11・E-12・F-11・F-12区に跨って位置している。形状はほぼ円形で坑底は平坦である。壁はほぼ垂

直に立ち上がっている。規模は、長軸130cm・短軸120cm・深度59cmを測る。遺物は、縄文時代後期前葉堀之内1式期の土器底部が出土している。

第44号土坑（第7・21図）

E-12区において検出された。北側には、第51号土坑がある。形状は円形に近く、坑底は平坦である。壁は急角度で立ち上がっている。

第45号土坑（第7・21図）

E-13区において検出された。上縁部で若干の土層の乱れにより不整円形を呈しているように見えるが、本来の姿はほぼ円形と言って良いであろう。坑底は平坦で壁は急角度をもって垂直に立ち上がっている。規模は、長軸145cm・短軸121cm・深度54cmを測る。遺物の出土は無い。

第46号土坑（第7・13図）

D-14区に位置している。当土坑は、第1号住居跡の東側コーナー部に存在する。住居跡との関わりは、住居跡に切られる関係となる。平面形は、ほぼ円形で坑底は平坦である。壁の立ち上がりはやや急な角度をもって朝顔状に上縁に向かって開口していく。規模は、長軸89cm・短軸85cm・深度70cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第47号土坑（第7・22図）

E-10区より検出された。西側に第48号土坑が、南側には第93～100号ピットが展開している。形状は楕円形で、坑底は平坦である。壁は垂直に近い角度で立ち上がる、いわゆるタライ状の土坑である。規模は、長軸103cm・短軸87cm・深度44cmを測る。坑内からは坑底近くより礫が1点検出されたのみで、土器・石器などの遺物の出土は無かった。

第48号土坑（第7・22図）

E-10区より検出され、第47号土坑が東側に、南東方向には第93～100号ピットが展開している。形状は楕円形で、坑底部は中央に向かって隆起している。壁は急角度で立ち上がりを見せている。規模は、長軸133cm・短軸114cm・深度72cmを測る。坑内からは坑底壁寄りから扁平に近い形状の礫が1点検出されたのみで遺物の出土は無かった。

第49号土坑（第7・22図）

E-10区より検出された。第93～100号ピット群の中に存在する。形状は楕円形で坑底は平坦である。壁は、急角度で上縁に向かって開口している。規模は、長軸74cm・短軸62cm・深度30cmを測る。遺物は、縄文時代中期後半加曾利E4式深鉢型土器胴部の破片が2点出土している。

第50号土坑（第7・22・23図）

D-11・D-12区から確認された。東側に近接して第87・88号ピットがある。形状は不整形であるが、端部に正円形の播り鉢状の凹みがある。遺物はこの凹みより出土しているので本来の形状は円形で不整形部分は後に改変された可能性がある。規模は、長軸257cm・短軸131cm・深度79cmを測る。遺物は、完形に近い加曾利式の深鉢型土器の他、曾利V式と縄文時代後期の深鉢型土器の小破片・土製円盤が出土している。

第51号土坑（第7・21図）

D-12・E-12区から確認された。南側に第44号土坑、北側に第89～91号ピットがある。形状は、不整形で東南方向にテラス状の張り出しを持っている。坑底は平坦で壁は垂直に近い急角度で立ち上がっている。規模は、

長軸146cm・短軸113cm・深度77cmを測る。遺物は、縄文時代中期前半五領ヶ台Ⅱ式期の深鉢型土器底部1点と後期前葉堀之内式土器片が2点出土している。

第52号土坑（第7・21図）

D-13区に位置している。平面形はほぼ円形である。坑底はほぼ平坦だが起伏を伴っている。壁はやや角度をもって立ち上がりを見せる。規模は、長軸78cm・短軸74cm・深度25cmを測る。また、坑内上面近くより礫や土器片が検出された。図示し得る遺物は縄文時代中期末の加曽利E4式深鉢型土器の胴部破片があげられる。

第53号土坑（第7・24図）

C-29区に位置しており、周囲に第73～76号ピットが確認されている。平面形は楕円形を呈している。上縁にピット状の落ち込みがあるが、これは攪乱である。坑底は平坦であるが面積は小さい。壁の立ち上がりは緩やかである。規模は、長軸133cm・短軸120cm・深度55cmを測る。遺物の出土は無い。

第54号土坑（第7・24図）

C-30・C-31区に位置している。南に第59号ピットが、東方面に第57・58号ピットの存在が明らかとなっている。平面形は、楕円形状をとる。坑底は平坦で、壁は60度程度の傾斜で立ち上がりを見せている。また、ほぼ中心部上面に礫が検出された。規模は、長軸140cm・短軸105cm・深度37cmを測る。なお、遺物の出土は無い。

第55号土坑（第7・24図）

C-29・D-29区に跨って検出された。当土坑から西方には、第56号土坑と近接して第81号ピットがある。形状はがわずかに楕円形状と言えよう。坑底は平坦で壁はやや急傾斜で上縁に開口する。規模は、長軸77cm・短軸65cm・深度47cmを測る。なお、遺物の出土は無い。

第56号土坑（第7・24図）

C-29・D-29区に位置している。東側に第55号土坑・第81号ピットが、北東に第83号ピットが存在する。当土坑の半分は調査区外にあるが、調査の状況から平面形状は不整長方形としておきたい。規模は、現存長軸120cm・深度39cmを測る。遺物は、縄文時代後期前葉堀之内式土器の口縁部が1点出土している。

第57号土坑（第7・24図）

E-11区に位置している。平面形状はほぼ円形で、坑底は平坦である。壁は非常に緩やかに上縁に向かい開口していく。規模は、長軸95cm・短軸92cmで深度20cmと浅い。遺物は出土していない。

第58号土坑（第7・24図）

D-31・D-32区に跨って位置している。平面形は、ほぼ円形を呈しており、坑底は平坦である。壁は、坑底から上縁に向かうにつれ垂直に近い傾斜を持つ。規模は、長軸50cm・短軸47cm・深度43cmを測る。遺物は、縄文時代中期中葉貉沢式土器の胴部と底部付近の破片が出土している。

第59号土坑（第7・36図）

E-8区に位置している。平面形は楕円形状をとる。坑底は平坦で、壁は急傾斜で立ち上がっている。規模は、長軸140cm・短軸124cm・深度82cmを測る。なお、遺物の出土はない。

第60号土坑（第7・36図）

E-7区に位置している。平面形は楕円形状をとり、坑底は平坦である。壁は急傾斜で立ち上がっている。規

模は、長軸86cm・短軸74cm・深度33cmを測る。なお、遺物の出土はない。

第3項 集石土坑（第10図）

集石土坑はⅡ区において合計6基が検出された。B-20・B-21区に2基およびC-12・C-13・D-12・D-13区に4基集中する傾向を見せている。

第1号集石土坑（第10・32図）

B-20・B-21区に跨って検出され、おおそ半分は調査区外に伸びている。よって全容は明らかとなっていないが検出された平面形の状況から、不整楕円形を呈しているものと想定できよう。近接して第2号集石土坑がある。その規模は直径は115cm・深度60cmを測る。底面は起伏を持って、壁は東側では急峻な角度で、西側は急峻な角度で半ば付近からは緩やかな角度に変換し上縁部に向かって立ち上がっていく。底面に礫の貼付けが若干見られる。坑内の礫は10～35cmの自然石がやや密に充填されている。また、炭化粒子や焼土の混入はほとんど無く、遺物の出土も無かった。

第2号集石土坑（第10・32図）

第1号集石土坑と同じB-20・B-21区に跨って存在し、双方は近接した関係を持っている。正円に近い楕円形状を取り、礫はやや被熱を帯びた5～40cmと不揃いな自然石が密に充填されていた。壁の状況は規則性のない傾斜でいうとすれば中段付近より朝顔状に開きながら上縁部に向かう傾向となる。規模は、長軸143cm・短軸116cm・深度66cmである。なお、出土した土器などの遺物の出土は無かった。

第3号集石土坑（第10・33・35図）

C-12・C-13区に跨る大型の集石土坑である。形状は不整円形で、規模は、長軸236cm・短軸180cm・深度47cmを測る。掘り方は、坑底中央に凹んでいく。壁の立ち上がりは急峻に上縁に立ち上がると言って良いものだろう。礫は拳大から約20cmほどの自然石が主で、被熱を受けている。それは、ほぼ全体から検出されているが、特に坑底の凹み部分と坑内北側に集中度が高い。遺物の出土は縄文時代中期後半と思われる沈線を持つ深鉢型土器の小破片が出土している。

第4号集石土坑（第10・33・35図）

C-12・C-13・D-12・D-13区において検出された。北側約50cmには第3号集石土坑がある。形状は楕円形である。掘り方は坑底がほぼ平坦で壁は急角度で立ち上がる鍋底状を呈している。礫は自然石で比熱され、大きさは拳大が中心となっており、集中は土坑中心部に密に充填されている。規模は、長軸155cm・短軸120cmを測り、深度は20cmと比較的浅い。なお、遺物の出土は無かった。

第5号集石土坑（第10・34・35図）

C-12・D-12区において検出され、西側には約15cmと近接して第6号集石土坑がある。形状は不整楕円形である。規模は、長軸166cm・短軸138cmを測り、深度は34cmを測る。掘り方の断面を見ると坑底は平坦で壁は垂直に近い角度で立ち上がることが理解できよう。充填されている礫は自然石で被熱を受けており、10～20cmのものが中央の遺構検出面付近に集中し、坑底にまでは及んでいない。遺物の出土は無かった。

第6号集石土坑（第10・34・35図）

C-12・D-12区において検出されている。東側直近には大型の第5号集石土坑が確認されている。当遺跡より検出された他の集石土坑と違い15～30cmのやや大振りの自然石を土坑表層部に集中させており、坑底にまでは達していない。平面形はほぼ円形を呈し断面形は鍋底状である。なお、充填されている礫に被熱の痕跡は少な

い。規模は、長軸105cm・短軸90cmを測り、深度は37cmを測る。遺物の出土は無かった。

第4項 配石遺構（第9・26・30・31図）

配石遺構は第Ⅲ区の狭い範囲において4基のまとまりが検出された。当区は湧水地点であり、現在でも、30cm程掘り下げると水が湧き出してくる場所でもある。

第1号配石遺構（第9・30・31図）

C-34・C-35区において検出された。平面形はU字あるいはコの字状と見て取れ、規則性を意識させている。その範囲は、4×1.8mであり掘り込みは無い。拳大から約30cmまでの礫を使用しており、近接する配石遺構と比較すると小振りに感じる。当配石遺構の下部や周囲からは遺物のほか、焼土粒子・炭化粒子などは検出されなかった。

第2号配石遺構（第9・26図）

C-35区において検出された。20～30cm程度の自然礫を概ね25～30cmの間隔を付け直線状に置いている。近接する他の配石遺構とは明らかに区別できる配置である。なお、下部やその周囲から遺物は出土していない。

第3号配石遺構（第9・30・31図）

C-34・C-35・D-34区において検出された。拳大から大きいものでは約50cmの扁平に近い形状の自然石を使用して、北東－南西方向に約4m長径をとり、短径は北西－南東方向に約1.5mの範囲に平面的に構築されているが形状は明確ではない。また、当配石遺構に添うように江戸期と想定できる杭列が約20～40cmで打設されている。この、杭列との関係については、判断が難しい。なお、下部には土坑等の遺構もなかった。遺物は、縄文時代の土器片が1点出土しているが図示し得るものではない。

第4号配石遺構（第9・30・31図）

B-34区において検出されたものであるが、そのほとんどが、調査区外にあるため、全容は明らかではない。検出された範囲は約50～60cmの範囲に、扁平な形状の長径30cm自然石が3石と拳大のものが2石認められたに過ぎなく、下部に土坑などの遺構は無かった。また、遺物の出土も無かった。

第5項 ピット（第11図）

総数で108基のピットが検出されたが、それぞれの相関関係が明確に理解できるものは無かった。しかしながらⅡ区中央部とⅢ区の東西部の2箇所、合計3箇所に集中する傾向がみられるようである。

第6項 溝状遺構（第8・25・26・27図）

溝状遺構は、第Ⅲ区より6条が検出されているが、明確なものは第4号溝状遺構しかない。当遺構は、D-35・36区に跨って確認されている。その距離は約7m程で先端から約3.5mの所で「くの字」状に屈曲しており、深度約20cmで、東南方向で調査区外に延伸している。

第7項 暗渠（第12図）

暗渠は、第Ⅲ区より3基が検出されている。Ⅲ区は湧水があり、近世・近代の農地改変の際に設置されたものと推測している。

第1号暗渠（第12・28図）

D-42・E-36区に跨って第5号土坑を切る形で検出された。形状はV字状に木材を芯として、その両側と上

部を20～30cmの自然石で覆っている。規模は最大長6.8mを測る。遺物の出土は無い。

第2号暗渠（第12・27図）

D-33・34、E-33・34区より検出された。近接して第25～27号ピット、第21号土坑、第5号溝状遺構がある。形状は第1号暗渠と同様にV字状を呈している。礫は、約10～30cmの自然石を主体として直線に並べ使用している。礫の配置には規則性は無いようである。規模は長辺4mと3.5mを、幅は約30～70cmを測る。遺物の出土は無かった。

第3号暗渠（第12・29図）

D-32・33・34、E-31・32区より検出された。当暗渠の形状は第1・2号暗渠と違い明確に溝状遺構の底面に約10～25cmの自然石を主体として設置し、直線状に調査区外まで延伸させている。近接して第25～28号ピットがある。また、第62号ピットと切り合っているが新旧関係は不明である。規模は、長さ17.4m・幅0.6～1.1m・深度約0.2mを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第8項 遺物集中区（第37図）

Ⅱ区E-7区において、深鉢型土器2個体分が横になる形で検出された。また、そのほかに大型破片資料が出土している。その出土状況は平面的な様相を呈している。周囲には第59・60号土坑がある以外、遺構の存在は無かった。ここから、出土した図示し得る資料のほとんどが五領ケ台式期のものである。

第2節 第二次調査

第1項 土坑（第62・63図）

第1号土坑（第63図）

B-8区より検出された。第2から第4号土坑と直列した位置にある。平面形は、上縁・坑底ともに不整円形状をとるものと思われる。底面の状況は平坦で、壁の状況はやや急傾斜をもって立ち上がっている。規模は、長軸50cm・短軸45cm・深度18cmを測る。なお、遺物は縄文時代後期前葉の堀之内1式期の深鉢型土器破片が出土している。

第2号土坑（第63図）

B-8区より検出された。第1から第4号土坑と直列した位置にある。上縁・坑底ともに不整長楕円形状をとり、壁は緩やかに軽く内湾しながら立ち上がっている。規模は長軸115cm・短軸75cm・深度19cmを測る。坑内からは、縄文時代後期前葉の堀之内1式期の深鉢型土器破片が出土している。

第3号土坑（第63図）

B-8区より検出された。第1から第4号土坑と直列した位置にある。平面形は、上縁・坑底ともに不整楕円形状をとる。坑底は丸みを帯びており壁は緩やかに内湾しながら立ち上がって行く。規模は長軸117cm・短軸93cm・深度57cmを測る。遺物は縄文中期から後期前葉（井戸尻式・加曽利E3式・堀之内1式）までの深鉢型土器の破片が出土している。

第4号土坑（第63図）

B-8区にあり、第1から第3号土坑とは直列した位置にある。平面形は上縁・坑底ともに不整楕円形状をとる。壁は緩やかに内湾しながら立ち上がるが、部分的にオーバーハングしている。坑底は丸底である。規模は、長軸93cm・短軸88cm・深度45cmを測る。遺物は縄文後期初頭の関沢類型式の深鉢型土器片が1点出土している。

第5号土坑（第63図）

A-9・B-9区に跨って位置している。規模は、長軸117cm・短軸96cmで深度は17cmとやや浅い。平面形は、不整形であり、坑底は平坦であるがやや傾斜をもっている。壁の立ち上がりは急峻である。遺物は、縄文後期初頭から前葉（加曽利E3式・称名寺式・堀之内1式）の土器片が出土している。

第6号土坑（第62図）

B-7区より検出され、近接した位置に第7号土坑がある。平面形は円形に近い。規模は、長軸42cm・短軸36cm・深度は12cmを測る。坑底の状況は平坦で、壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。坑内からは縄文土器の破片が出土しているが図示し得るものではない。

第7号土坑（第62図）

B-7区より検出され、近接した位置に第6号土坑がある。上縁・坑底ともに隅丸形状を呈しており、坑底は平坦で、壁はやや傾斜をもって立ち上がっている。規模は、長軸43cm・短軸43cmを測り、深度は15cmと浅い。遺物は、縄文土器の破片が出土しているが図示し得るものではない。

第8号土坑（第62図）

B-7区より検出された。近接した位置に第7号土坑がある。形状は、上縁・坑底ともに楕円形を呈しており、壁は緩い傾斜をもって立ち上がっている。規模は、長軸47cm・短軸40cmを測り、深度は15cmと非常に浅い。遺物は、縄文土器の破片が出土しているが図示し得るものではない。

第9号土坑（第62図）

B-7区に位置している。形状は、上縁・坑底ともに楕円形を呈している。規模は長軸53cm・短軸43cm・深度11cmを測る。底面は、平坦であるが、わずかに傾斜している。壁は緩やかな傾斜で立ち上がっている。遺物の出土は縄文時代と考えられる土器片があるが、図示し得るものではない。

第10号土坑（第62図）

B-7区より検出された。形状は、上縁・坑底ともに楕円形を呈している。坑底は、ほぼ平坦である。壁はやや急角度で立ち上がって行く。規模は、長軸57cm・短軸49cm・深度17cmを測る。なお、遺物の出土は縄文時代と考えられる土器片があるが、図示し得るものではない。

第11号土坑（第62図）

B-7・B-8に跨って検出された。南側に近接して第1号土坑・第1号集石土坑がある。形状は上縁・坑底ともに隅丸形状を呈し、底面平坦である。壁の立ち上がりは、緩やかな傾斜となっている。規模は、長軸53cm・短軸47cm・深度13cmを測る。なお、遺物の出土は無かった。

第12号土坑（第63図）

B-8区より検出された。南側に近接して第4号土坑が存在している。平面形は上縁部が円形となっている。断面形を見ると播り鉢の形状となっている。規模は、長軸63cm・短軸53cm・深度32cmを測る。遺物は、縄文時代後期前葉堀之内1式期の深鉢型土器破片が出土している。

第13号土坑（第63図）

B-8区に位置している。北側には第14号土坑がある。平面形は上縁・坑底ともに不整形円形を呈している。坑底は平坦であるが礫が混入されている。壁の立ち上がりは急角度である。規模は、長軸67cm・短軸62cm・深度

12cmを測る。遺物は、縄文後期初頭から前葉（称名寺式 堀之内1式）の土器片が出土している。

第14号土坑（第63図）

B-8区において検出された。北側には第15・16号土坑が、南側には第13号土坑が位置している。平面形は上縁は不整楕円形を、坑底は円形を呈している。坑底の状況は平坦で、壁は緩い傾斜で立ち上がっていく。規模は、長軸40cm・短軸35cm・深度15cmと小さい。なお、遺物の出土は無い。

第15号土坑（第63図）

B-8区に位置している。西側に第15号土坑が、南側には第14号土坑が確認されている。平面形は、上縁・坑底ともに不整楕円形を呈している。坑底は平坦で壁は概ね45度の角度で直線的に立ち上がっている。規模は、長軸57cm・短軸43cm・深度19cmを測る。また、遺物は図示し得るものは出土していない。

第16号土坑（第63図）

第16号土坑は、不整円形の形状をとり、坑底は平坦である。長軸62cm・短軸58cm・深度19cmを測る規模である。壁はおおよそ45度の角度で立ち上がっている。

第2項 集石土坑（第62・64図）

第1号集石土坑（第62・64図）

B-7・8区に跨って検出された。おおよそ1/2は調査区外に伸びている。このため、全容は明らかとなり得ないが、残存状況から平面形は不整楕円形を呈するものと推測される。また、上部のほとんどが上層から削平されており、底部のみが残存している状態で壁の立ち上がり角度などは判断できない。規模は現存長軸で145cmである。また、炭化粒子や焼土の混入はほとんど無く、土器などの遺物の出土も無かった。

第5章 まとめ

本書の前半部分でも再三触れているが、三光遺跡が脚光を浴びたのは1975年（昭和50年）の調査である。狭い範囲の調査ではあったが、竪穴状遺構や配石遺構のほか、32基もの土坑が確認されている。遺物においては、硬玉製大珠はもとより、当時それまで類例が少なかった縄文時代後期から晩期にかけての土器類が多く出土している。

今回の二次にわたる調査では多数の土坑と共に縄文時代中期前半五領ヶ台式期の住居跡が検出された。当期の住居跡は一般に円形もしくは楕円形状を取り、五本柱を主としている。当遺跡より検出の住居跡も平面形は楕円で柱穴は5箇所であった。また、ほかの検出例によると、炉はその多くが埋甕炉であるのに対し、焼土が残るのみ跡で埋甕使用の様子は感じられなかった。

また、出土遺物は、五領ヶ台Ⅱ式期の土器小破片が出土している。当住居跡と切り合い関係を持っている第39号土坑からも、同期の深鉢型土器が検出されている。住居跡の掘り込みが浅いことなどから構築の前後関係は判断しにくい、五領ヶ台Ⅱ式期という短い時期の中で双方が時間差を持って構築されたということに間違いはない。

土坑は、1975年の検出状況では密集し、その上に扁平な自然石が配されているものや、坑内から扁平な自然石の検出などが特徴付けられている。今回の調査では、掘り込みが深く平面が円形の土坑が検出されている。この中には、1975年調査の検出例と同様に扁平な自然石が確認された土坑も数基あり、墓坑を想定できるものである。さらに、第30号土坑では履土上方の位置から扁平な自然石とともに先端部と基節部を欠いた石棒が横位に出土している。その土坑の規模は、長軸127cm・短軸122cmを測り、平面形は円形を呈しており、これは、近接して確認された扁平な自然石が坑内より出土した第29号土坑と、規模、形状、検出位置とほぼ一致している。

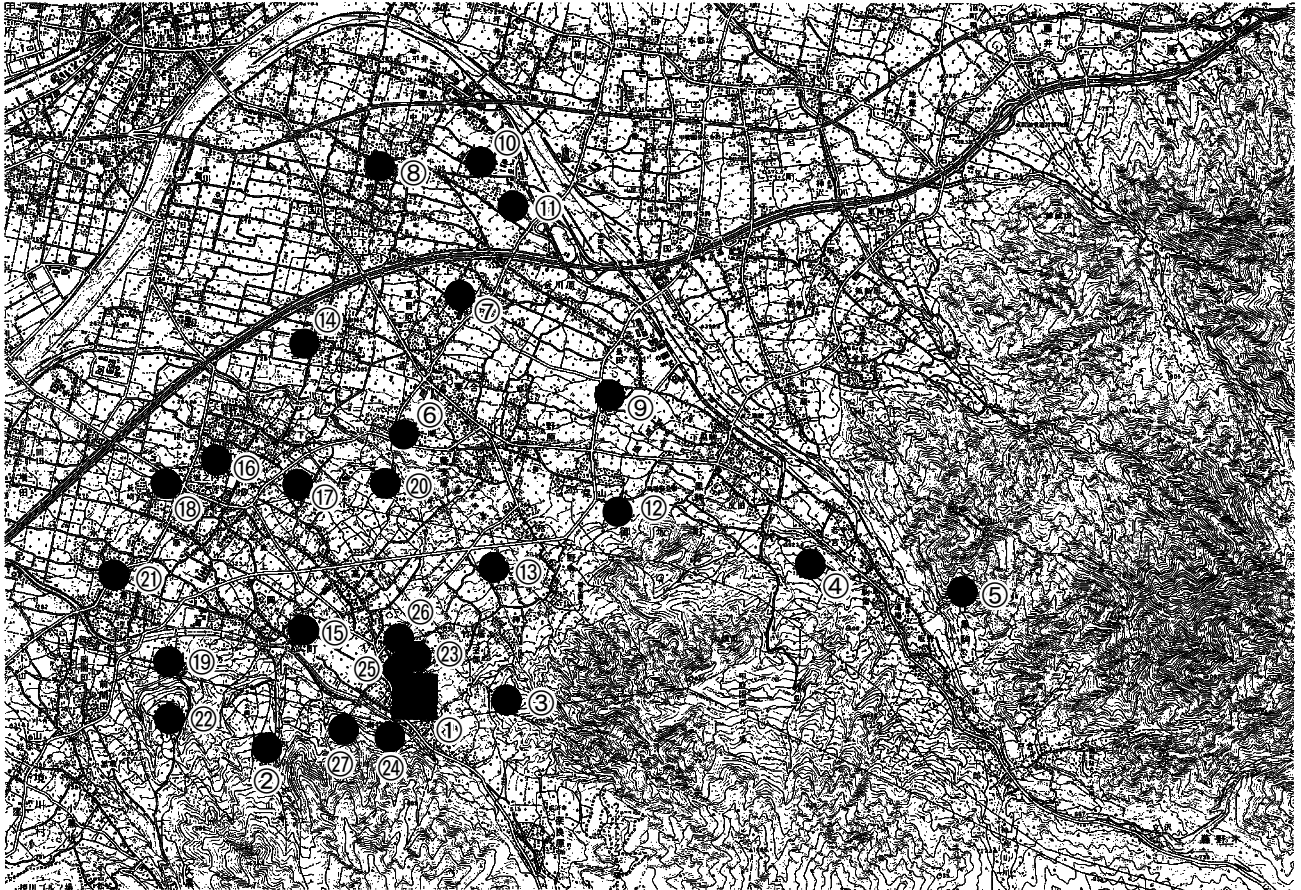
県内の土坑内からの石棒出土例については、新津健氏が酒呑場遺跡・海道前C遺跡・釈迦堂遺跡・金の尾遺跡の5例に東京都・長野県例を加え、土坑内からの石棒に土坑内上層、中層、底面といった出土位置や祭祀や埋納などの可能性についてその関わりを論じている。この中で今回の調査で検出された第30号土坑と同じ出土状態のケースを当てはめてみると、酒呑場遺跡例と一致する。それは、遺体埋葬後の埋め戻し最終段階において墓上面に設置された後、遺体の腐朽化に伴って土坑内に落ち込んだ可能性を示しているものである。しかしながら土坑構築時期を比較してみると、酒呑場遺跡は藤内期であるのに対し三光遺跡第30号土坑は加曾利E式期から堀之内1式期と时期的な相違があり、検出状況からその性格を位置付けることは難しい。

また、上記以外に最近では、平成21年度調査された南部町原間遺跡においても、土坑内よりの石棒検出例があり、これらのことから勘案すると、今後、当土坑を含め、事例の増加を待ちながら、祭祀、埋葬あるいは埋納といったそれぞれの要素を見出していく検討を深めていくことが必要となろう。

出土遺物としては、1・2次調査によって縄文時代前期後半諸磯式期から後期中葉加曾利B式期までの土器類が出土している。中でも、中期初頭五領ヶ台式期と中期後半曾利V式期の出土量が多い。五領ヶ台式期をみるとⅠ・Ⅱ式期共に出土が認められるが、圧倒的にⅡ式期が多く感じる。Ⅱ式期では、縄文系土器は僅かにみられる程度で図示できるものは集合沈線文土器である。この集合沈線文土器の口縁は波状または平縁となり胴部が円筒形のタイプでは、縦位の集合沈線が直線あるいは蛇行しながら垂下する。他方、胴部が膨らむタイプは上半は胴部を隆帯により4分割した中に、横位・縦位の沈線で区画された格子目が付き、下半には文様が見られなくなる傾向がある。曾利V式期では、一般的に地文として「ハ」の字文を持つタイプが多く、口縁近くに楕円区画文を施し、胴部の区画は沈線を垂下させているものもみられる。また、当期と併行し後期へと向かう加曾利E4式の出土も多い。

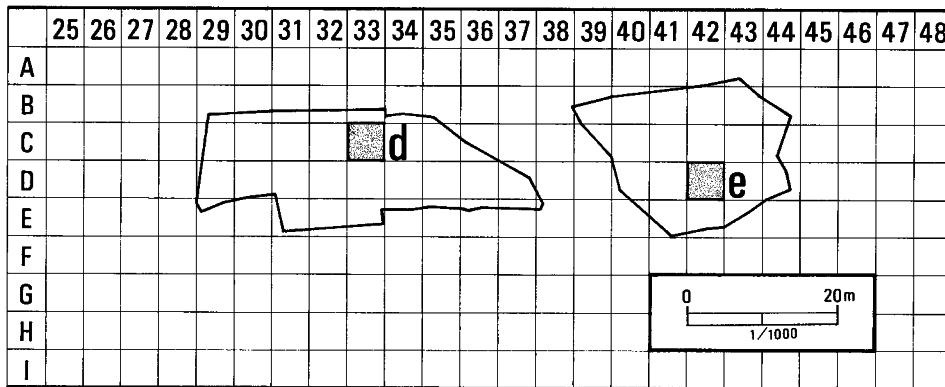
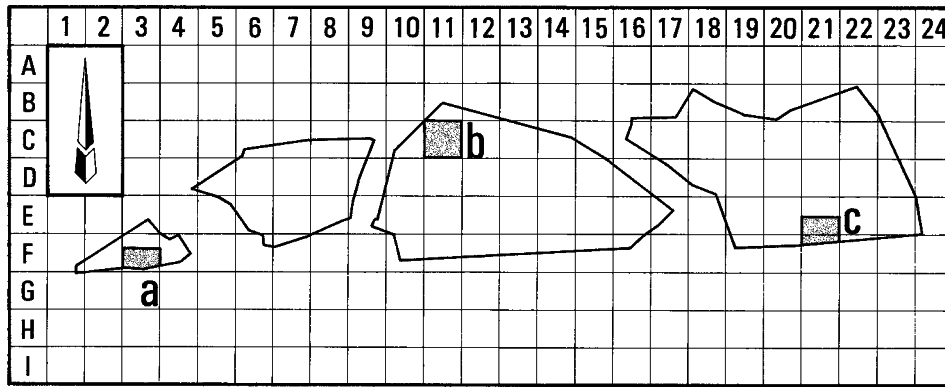
〔引用参考文献〕

- 新津 健 2008「山梨の石棒～出土状態の整理と課題～」『研究紀要24』山梨県立考古博物館・山梨県埋蔵文化財センター
新津 健 2008「山梨の石棒(2)～特色と変遷～」『山梨県考古学協会誌第18号』山梨県考古学協会



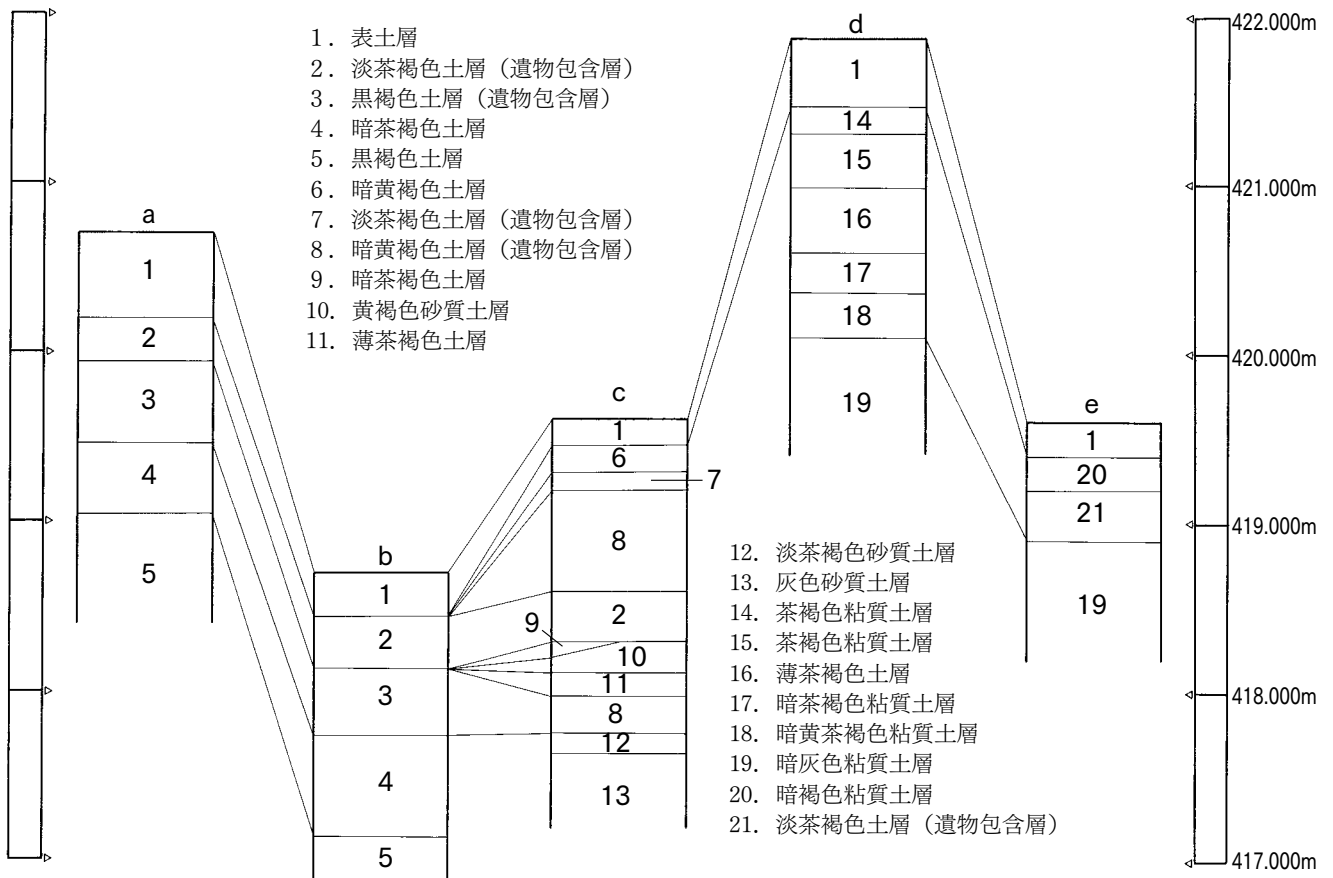
三光① 銚子原② 花鳥山③ 桂野④ 御坂中丸⑤ 諏訪の原⑥ 宮の前⑦ 永命⑧ 八反久保⑨ 狐原⑩
 金川原⑪ 大日⑫ 向田⑬ 太郎治原⑭ 梨木⑮ 堀之内⑯ 金地蔵⑰ 下長崎⑱ 夜長⑲ 東小山B⑳
 南居㉑ 上の平㉒ 竹居御崎㉓ 深沢道上㉔ 柚木㉕ 後藤㉖ 大覚林㉗

第1図 遺跡位置図

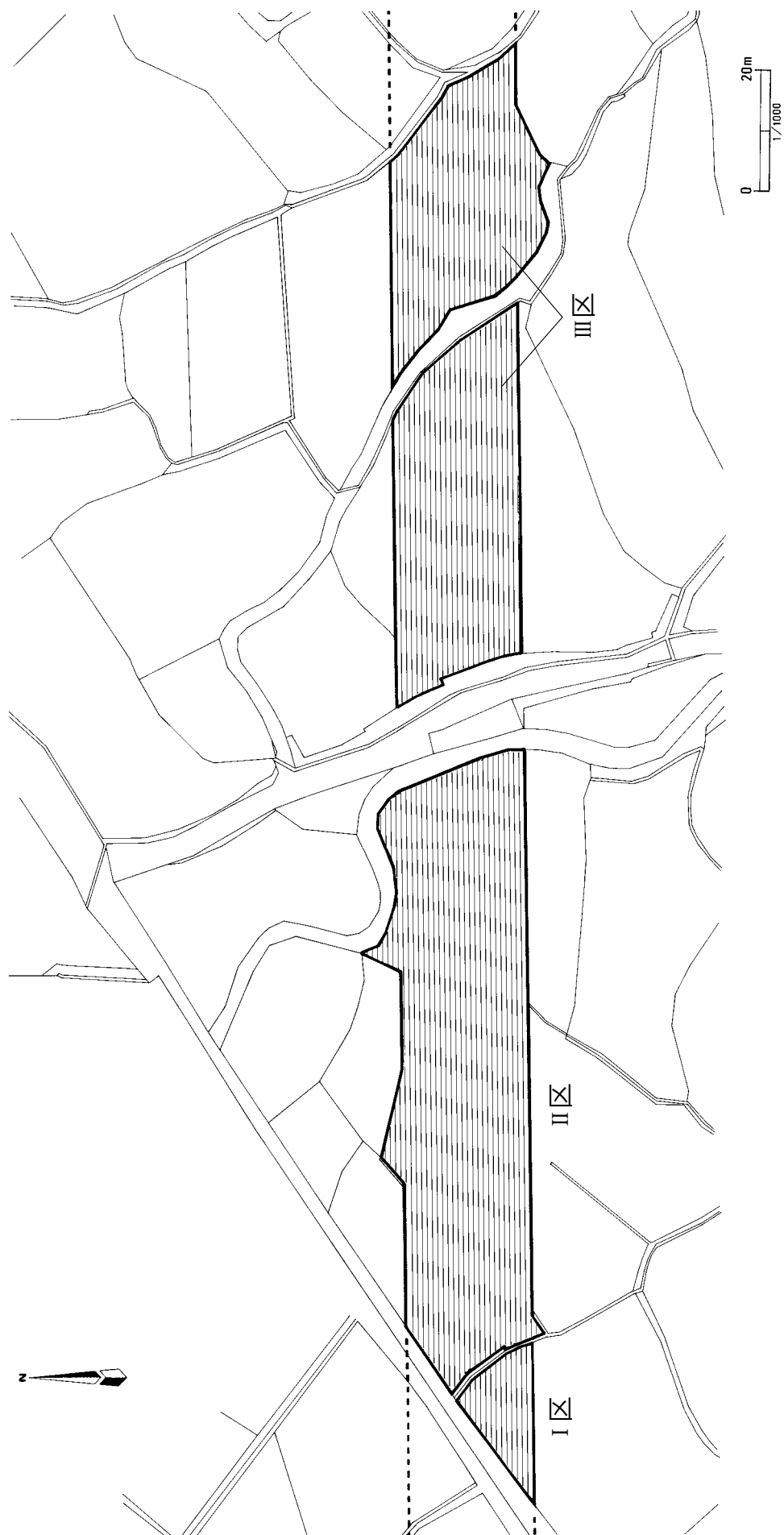


■ ➡ 基本層序觀察地点

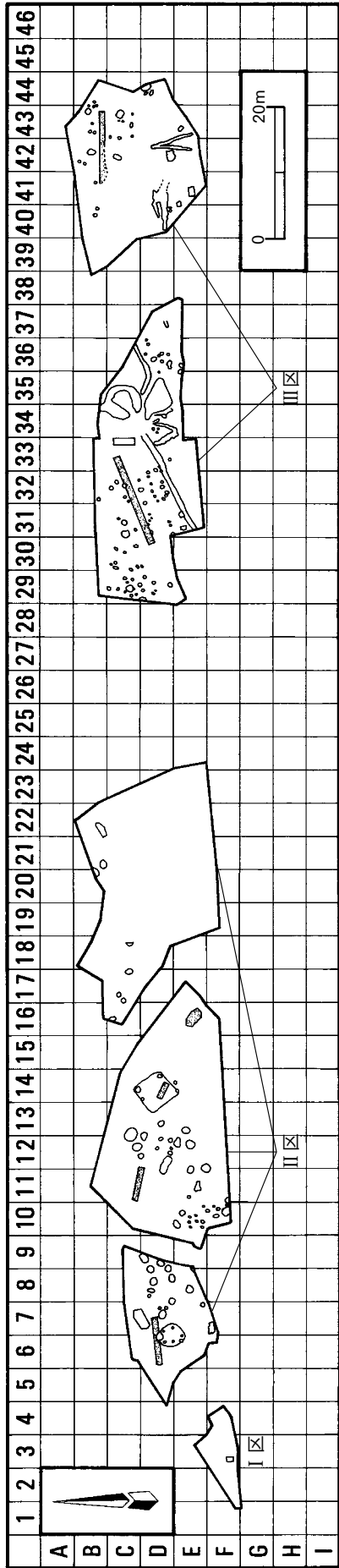
第2図 基本層序觀察地点



第3図 基本層序柱状図

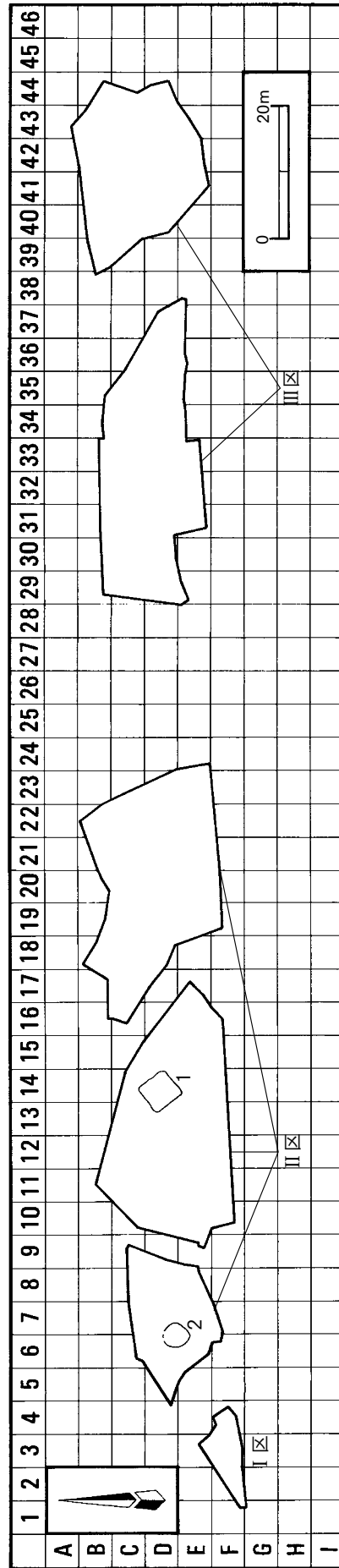


第4図 第一次発掘調査区設定図

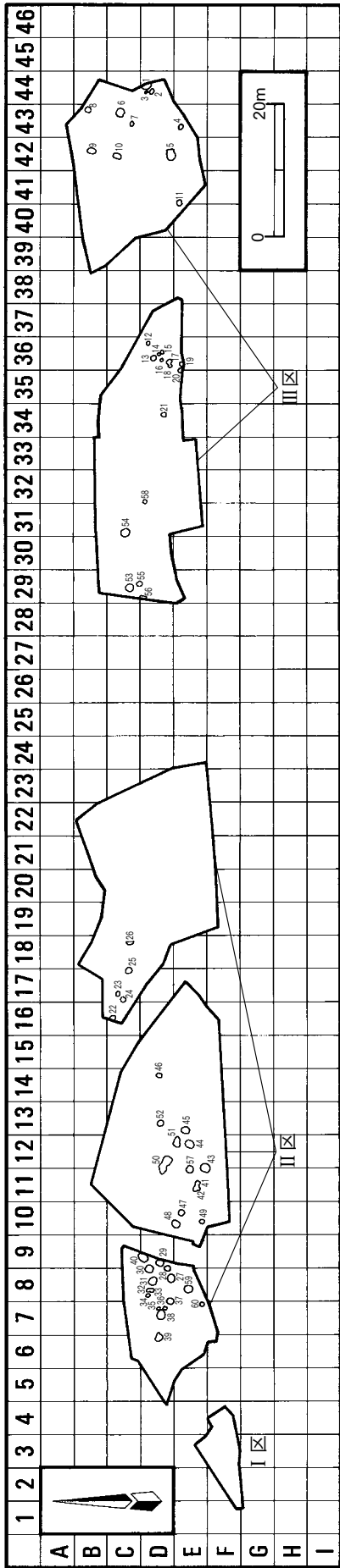


第5図 遺構配置図

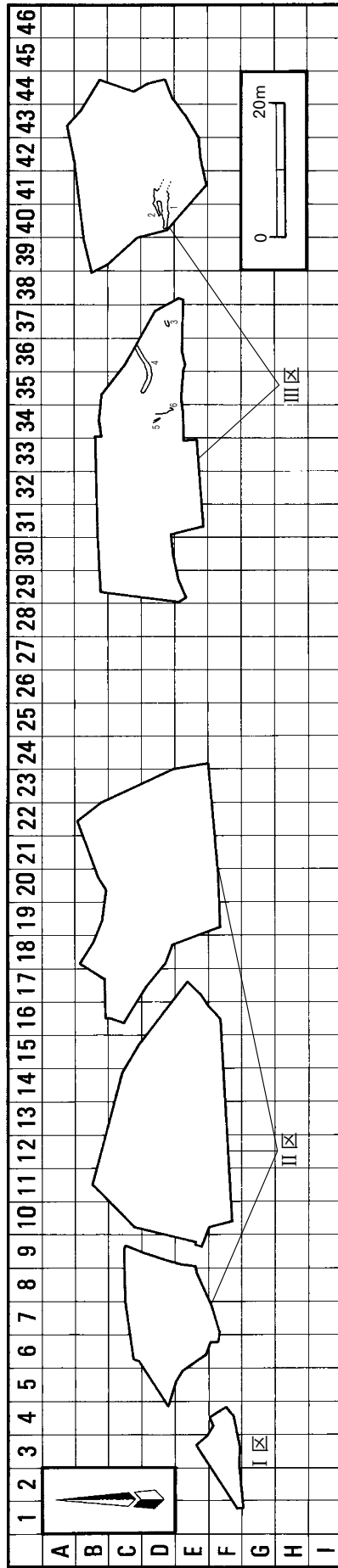
試掘トレンチ跡



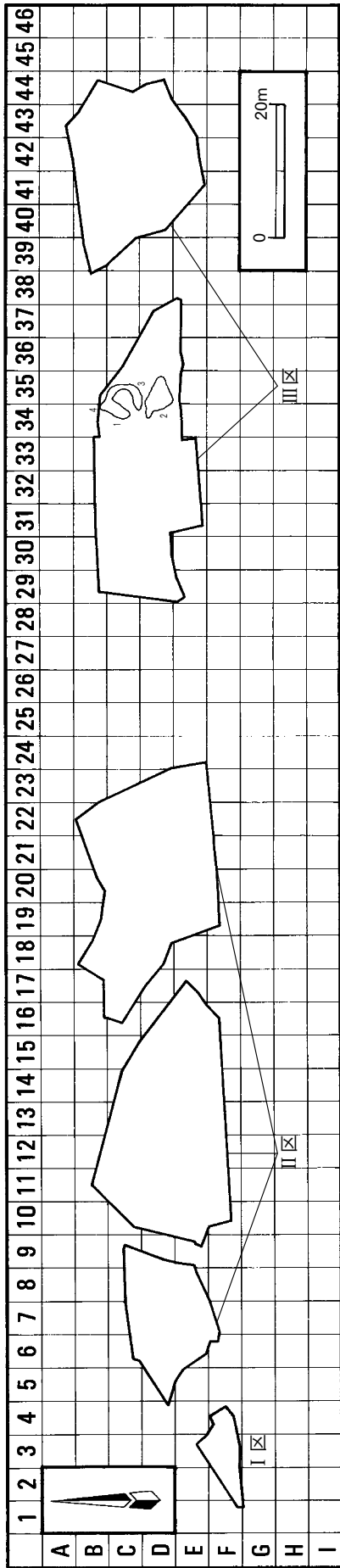
第6図 住居跡配置図



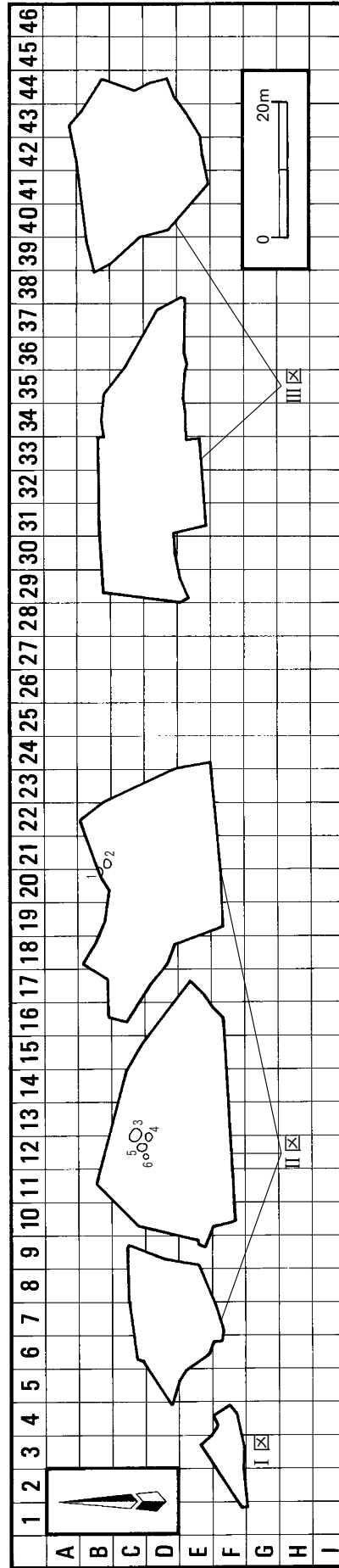
第7图 土坑配置图



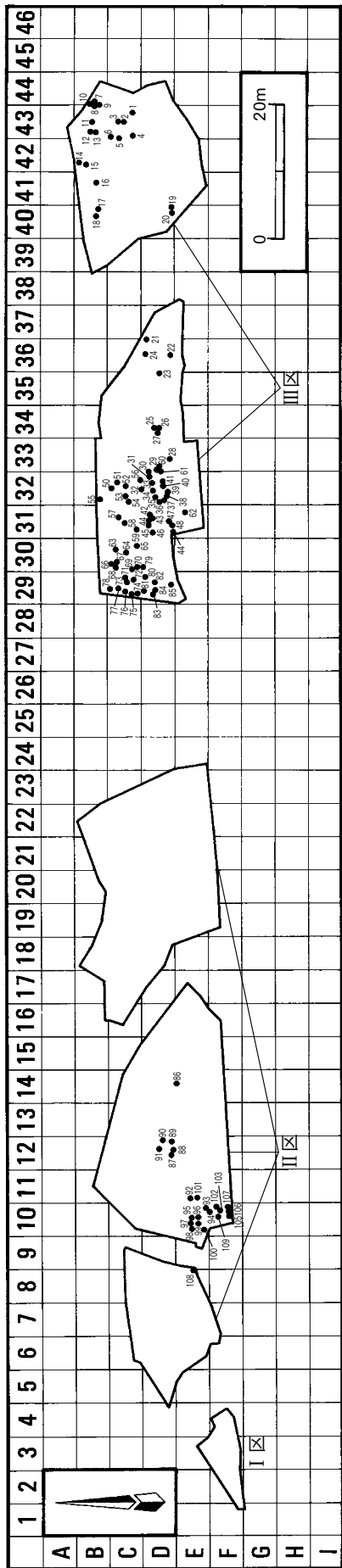
第8图 沟状遺構配置图



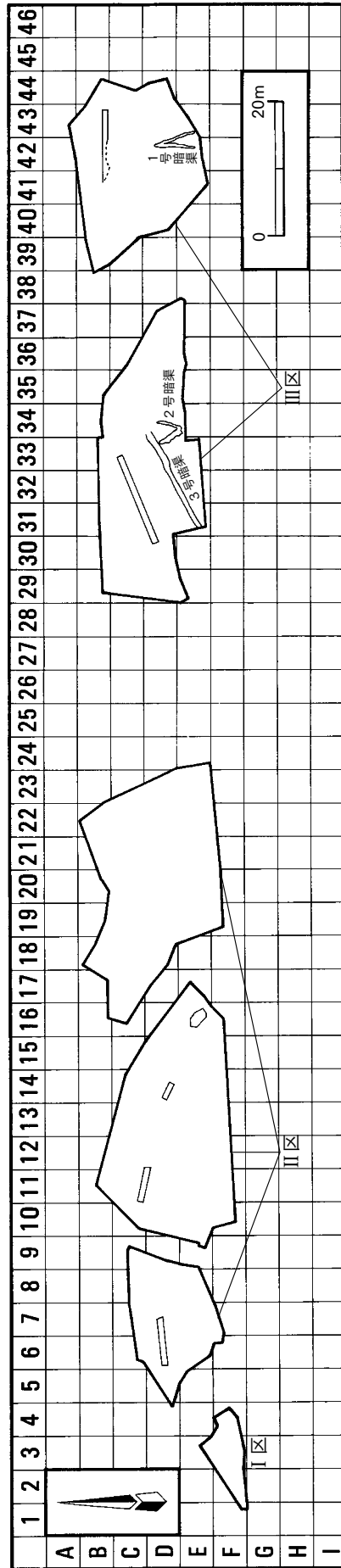
第9図 配石遺構配置図



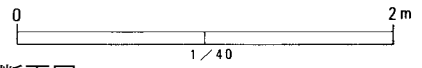
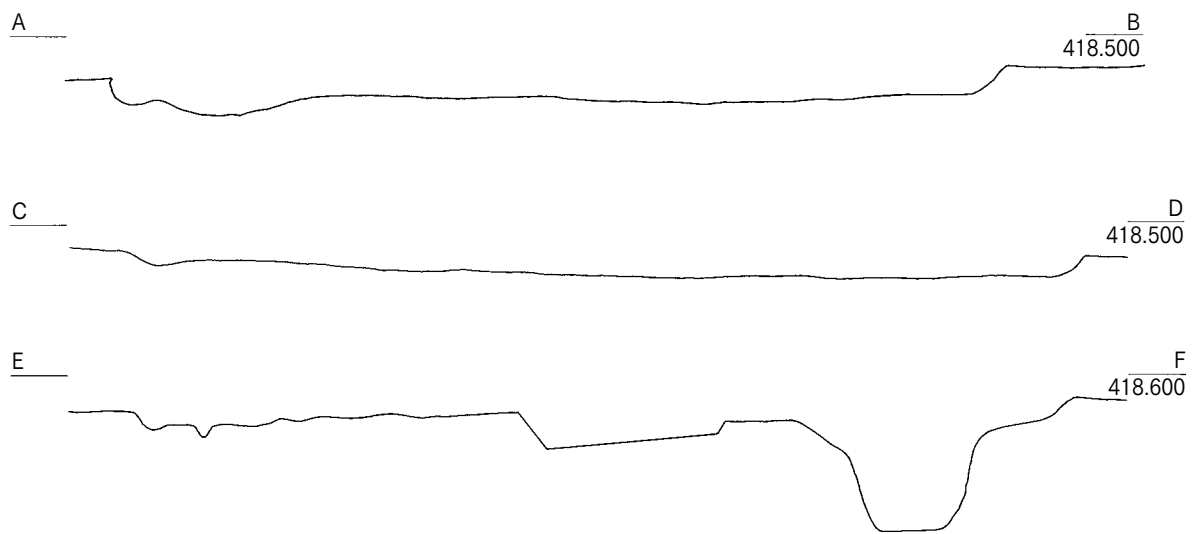
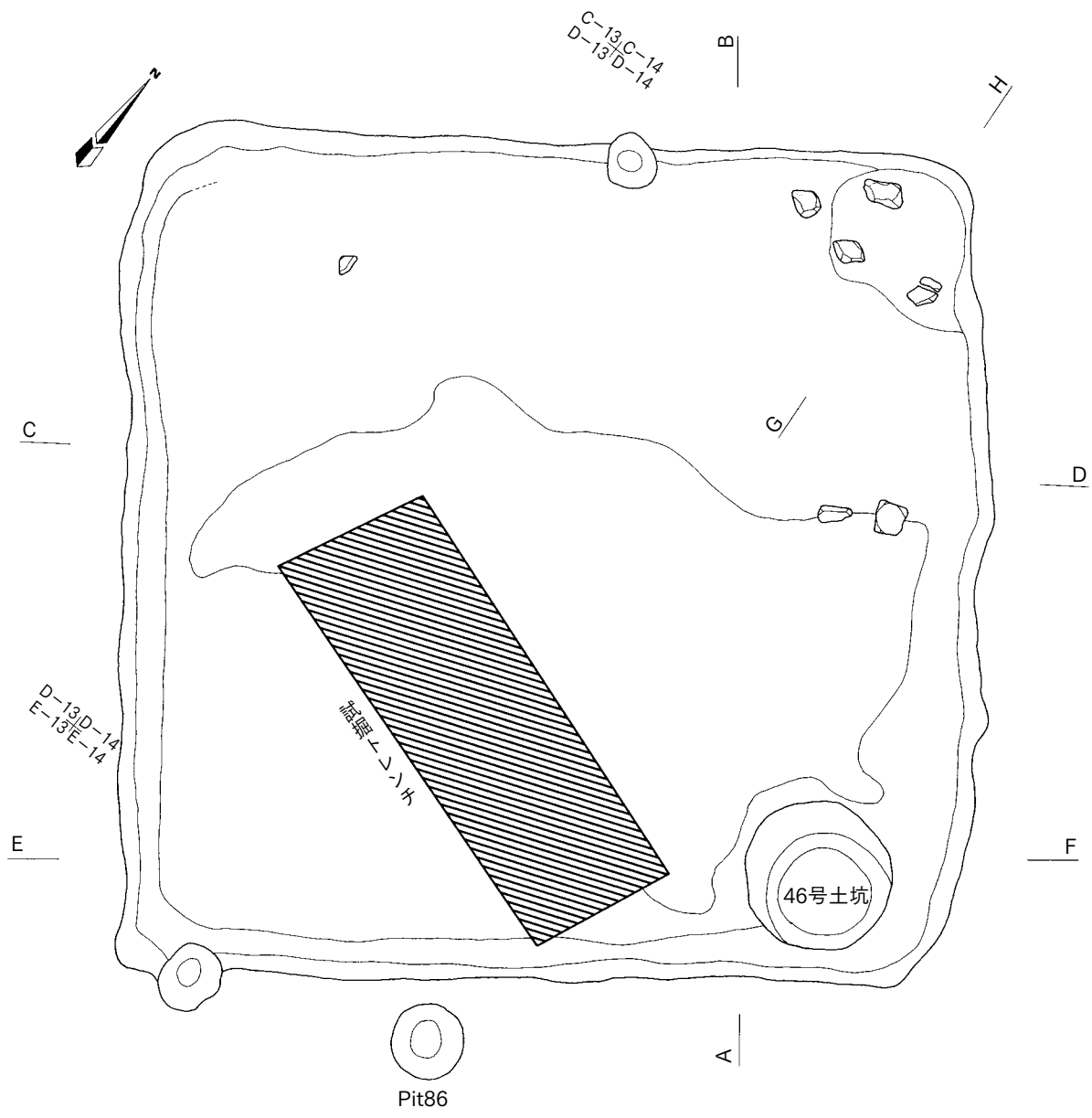
第10図 集石土坑配置図



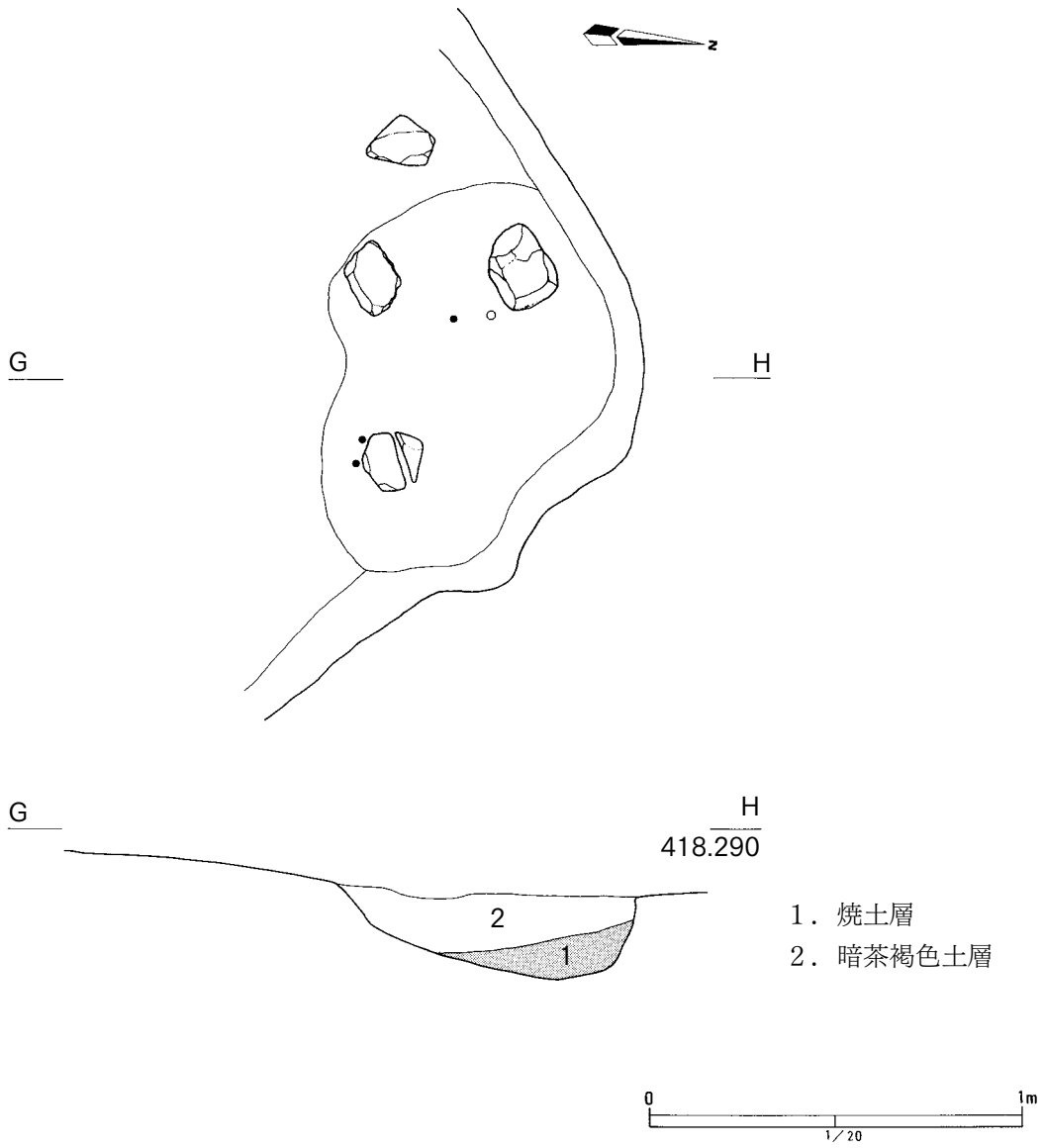
第11図 ピット配置図



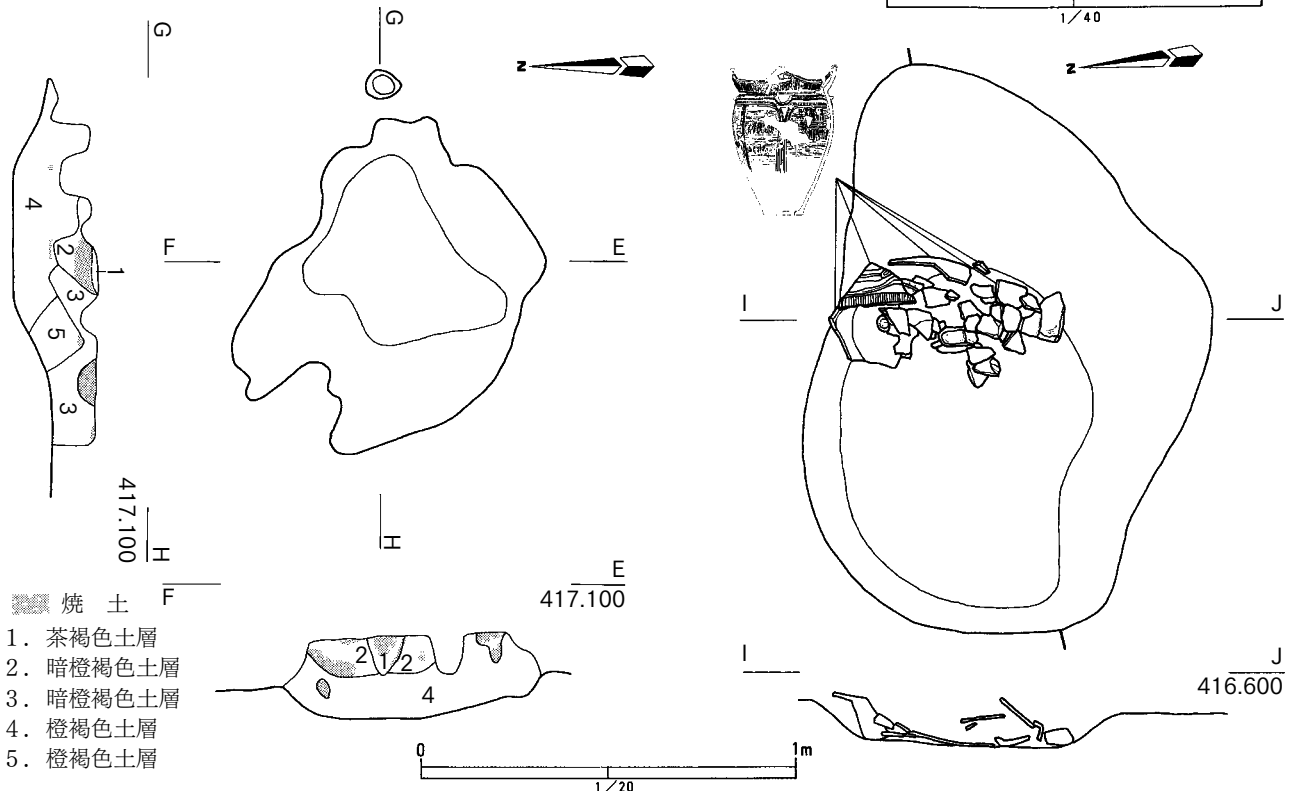
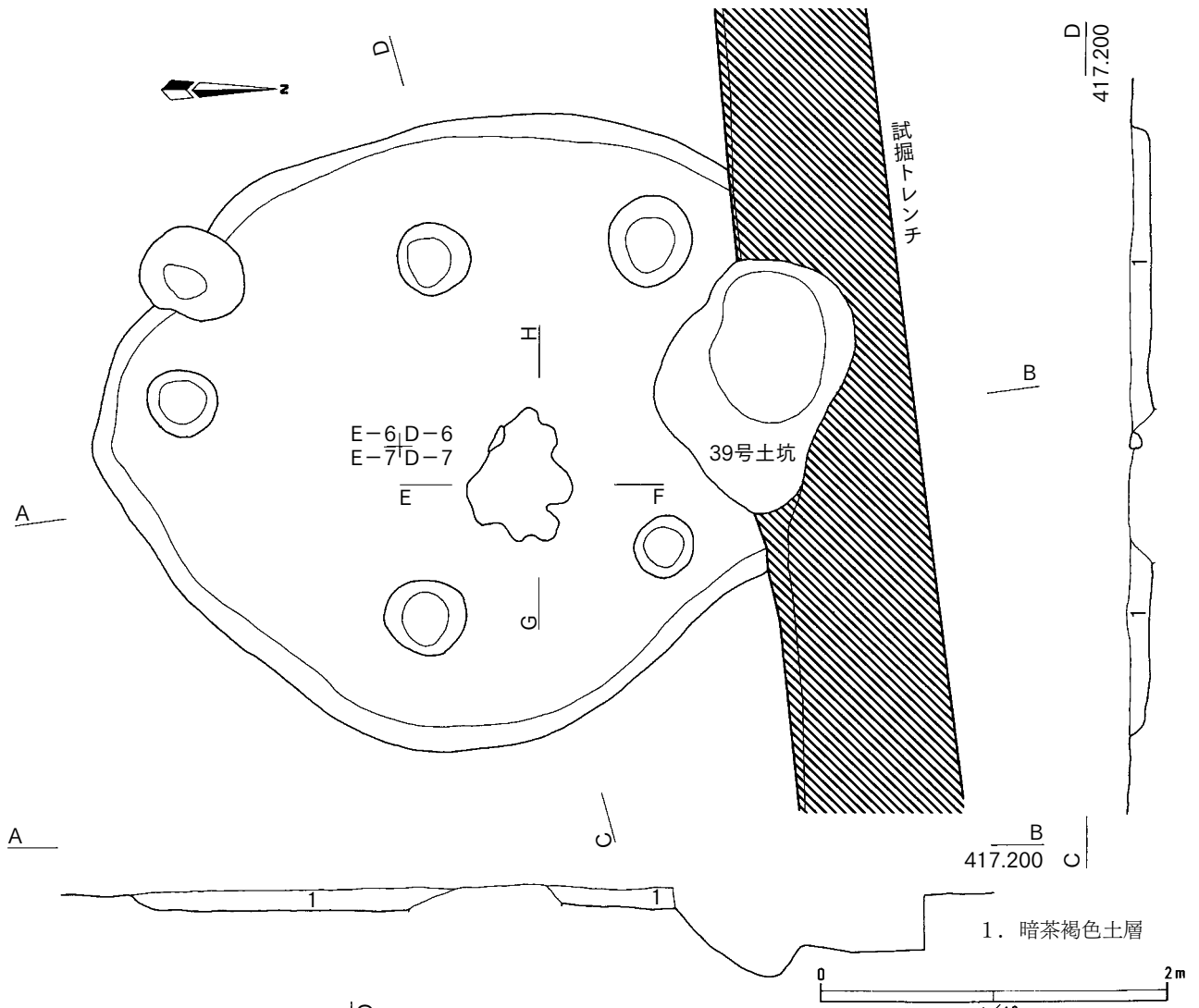
第12図 試験トレンチ・暗渠配置図



第13图 第1号住居跡・第46号土坑平・断面图

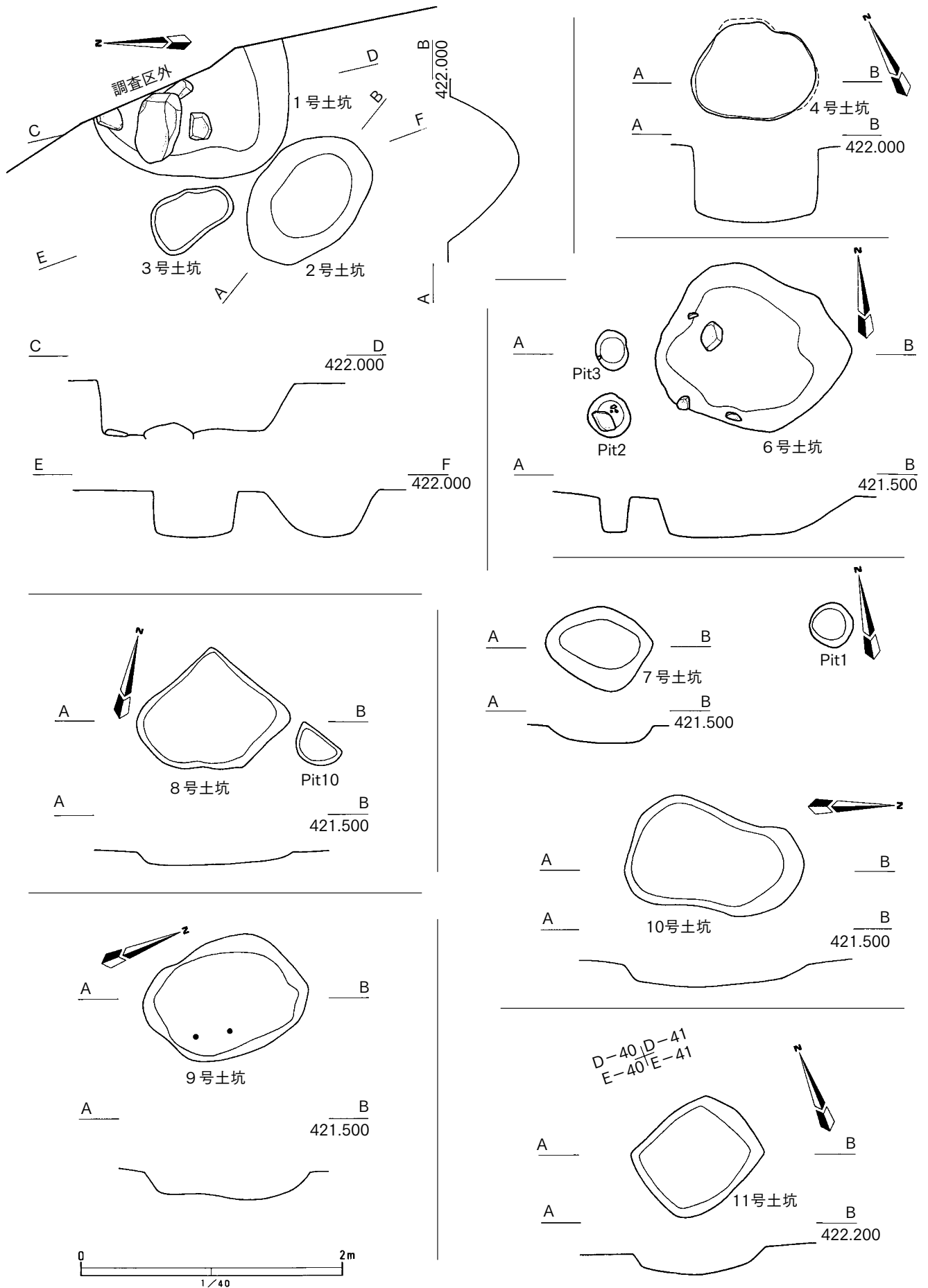


第14図 第1号住居カマド平・断面図

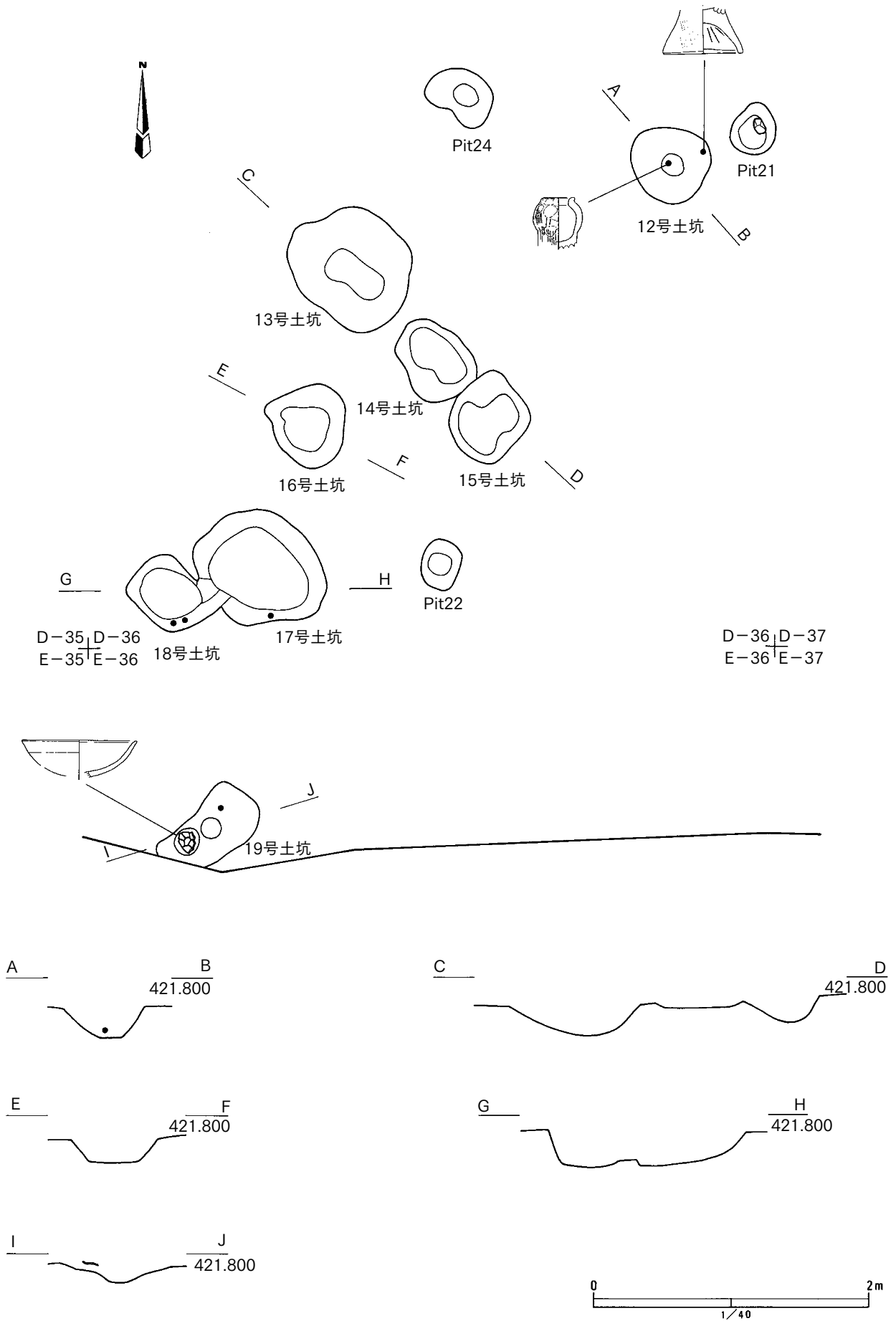


- 焼土
 1. 茶褐色土層
 2. 暗橙褐色土層
 3. 暗橙褐色土層
 4. 橙褐色土層
 5. 橙褐色土層

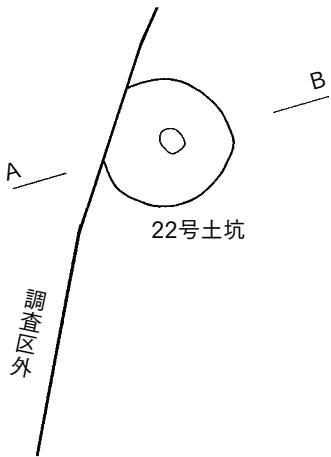
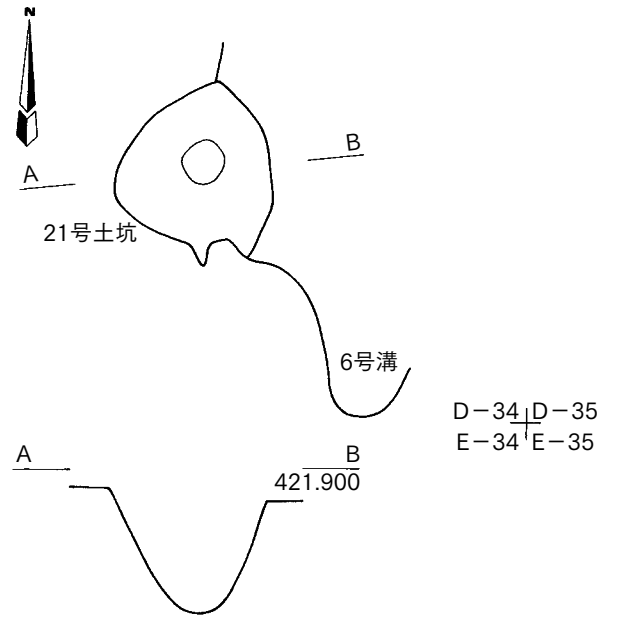
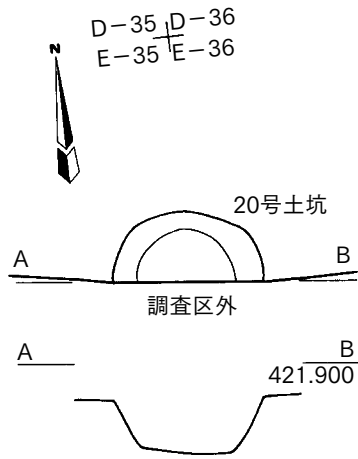
第15図 第2号住居跡・炉・第39号土坑平・断面図



第16图 第1~4·6~11号土坑平·断面图



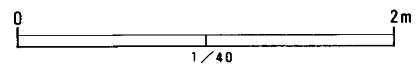
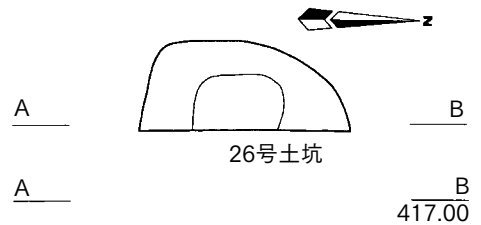
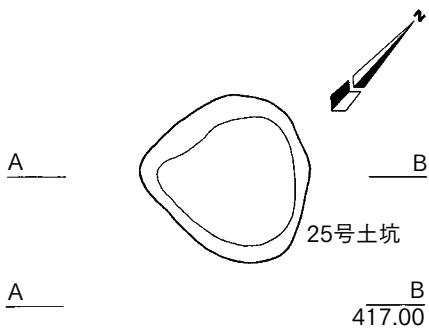
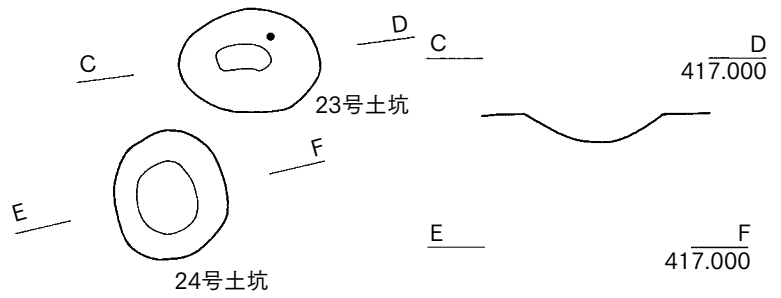
第17图 第12~19号土坑平·断面图



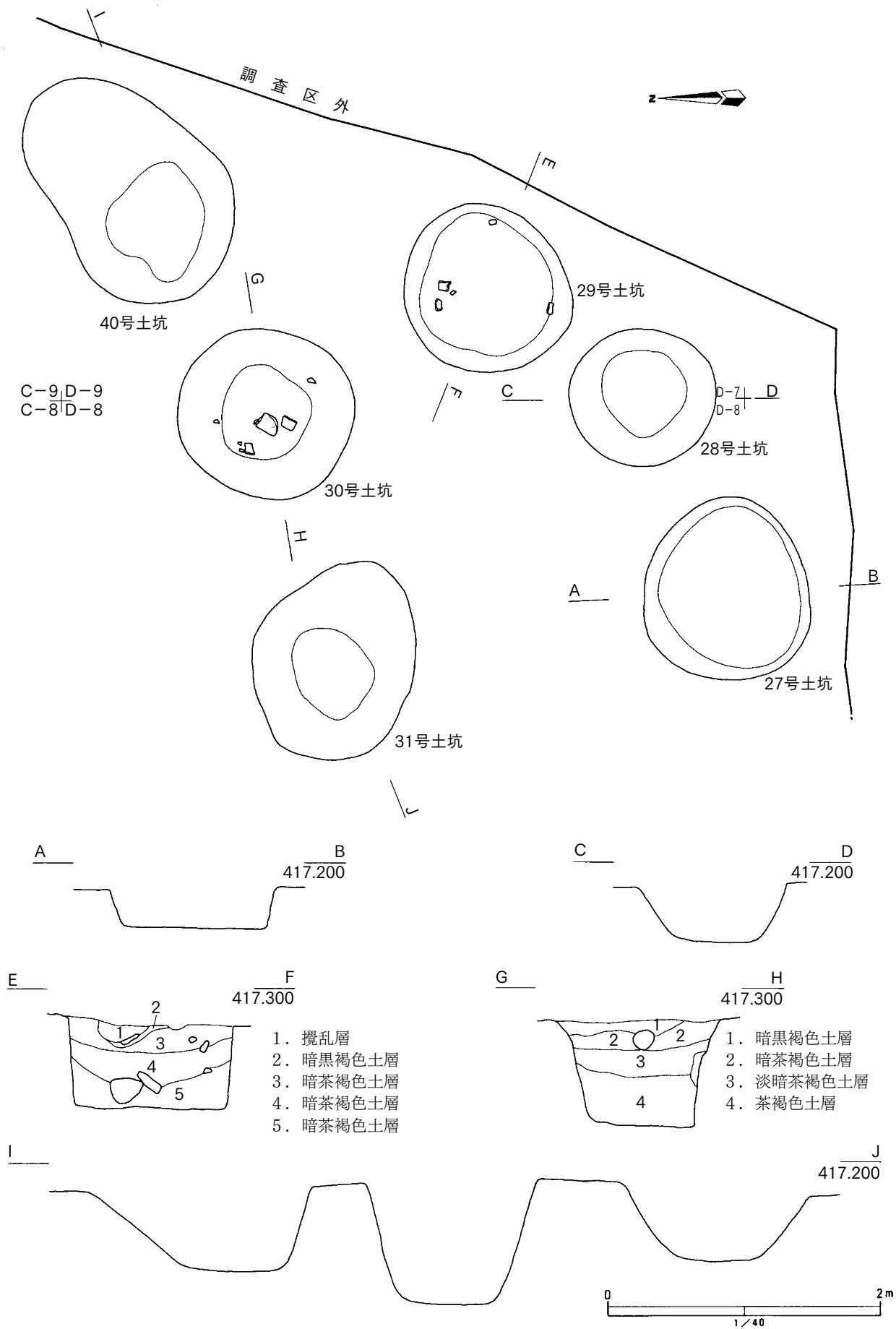
B-16 B-17
C-16 C-17



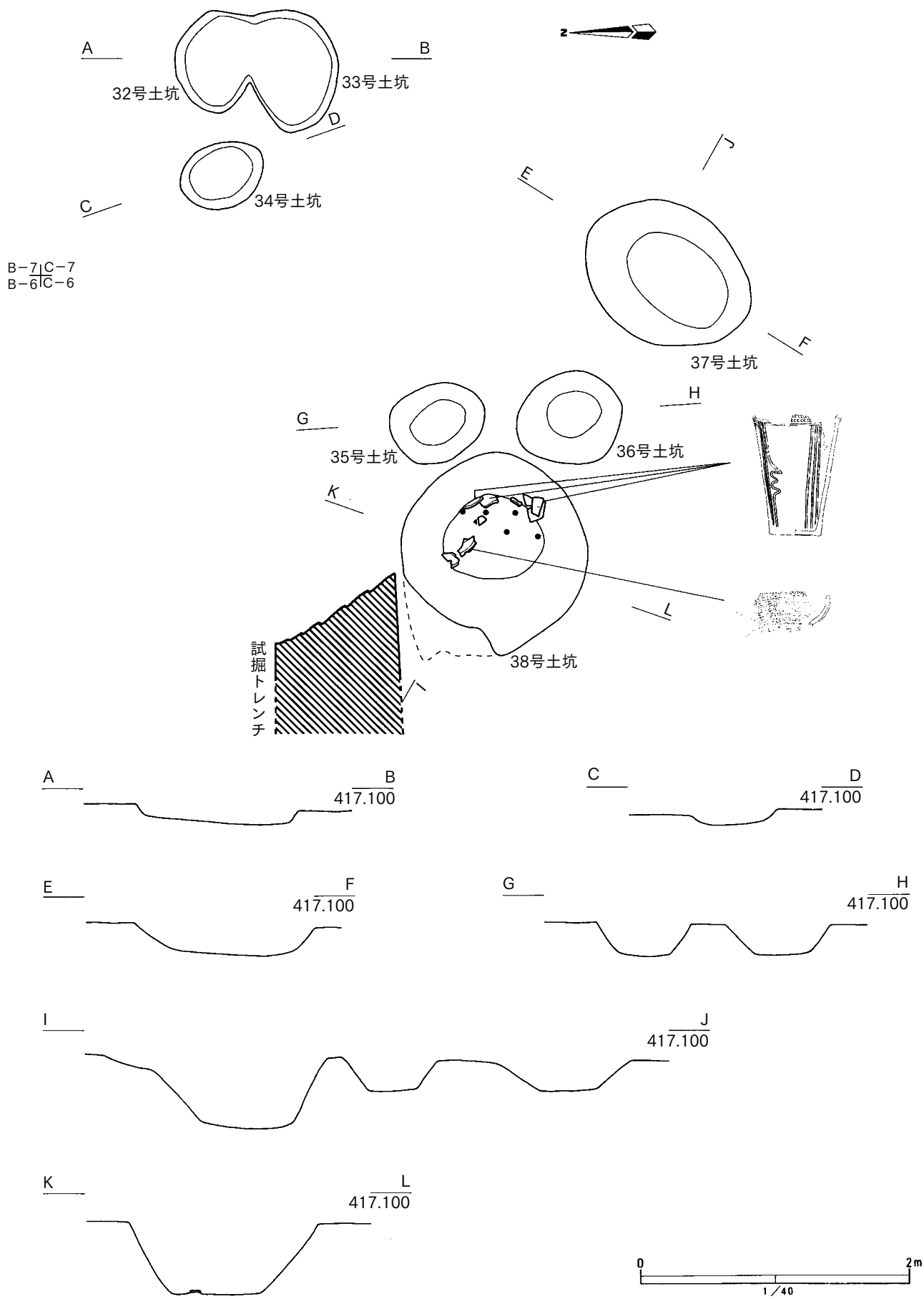
A B
417.000



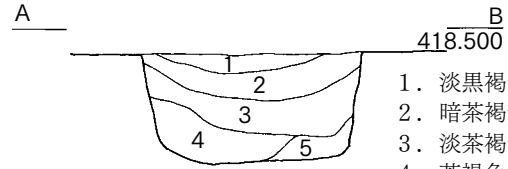
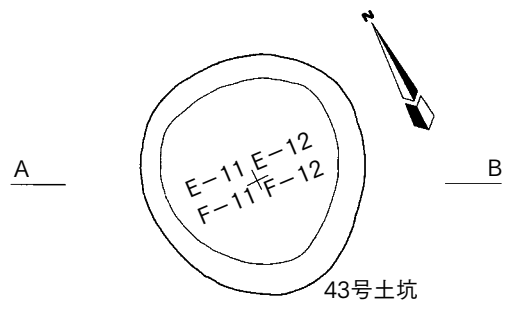
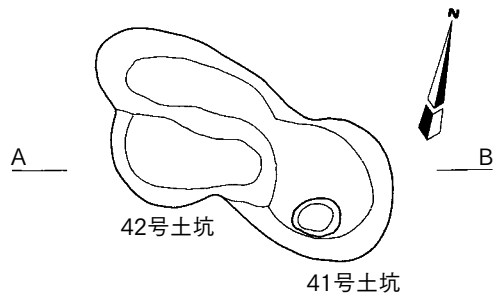
第18图 第20~26号土坑平・断面图



第19図 第27～31・40号土坑平・断面図

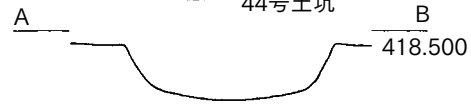
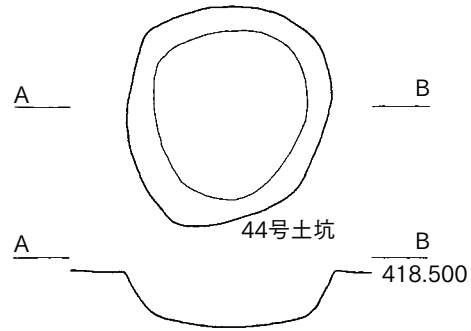
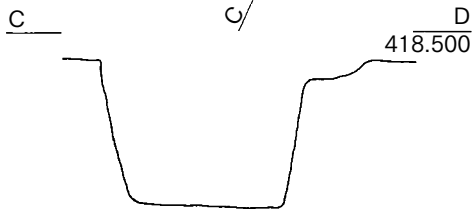
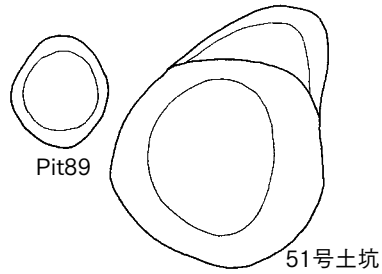
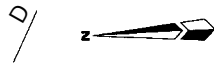


第20図 第32～38号土坑平・断面図

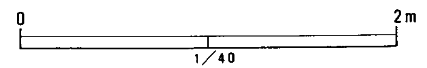
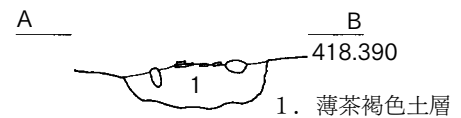
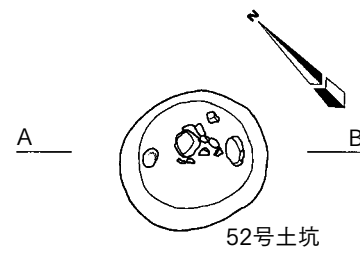
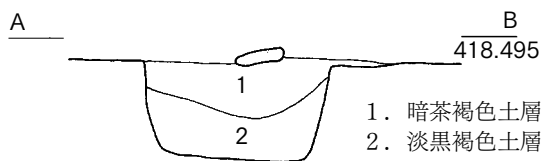
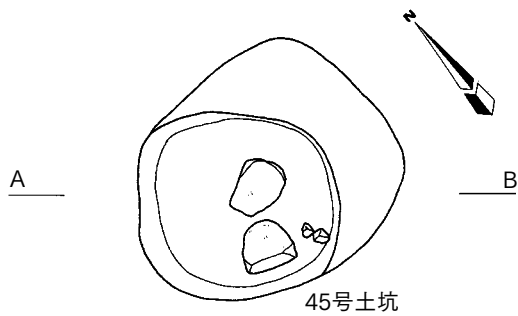


1. 淡黑褐色土層
2. 暗茶褐色土層
3. 淡茶褐色土層
4. 茶褐色粘質土層
5. 茶褐色粘質土層

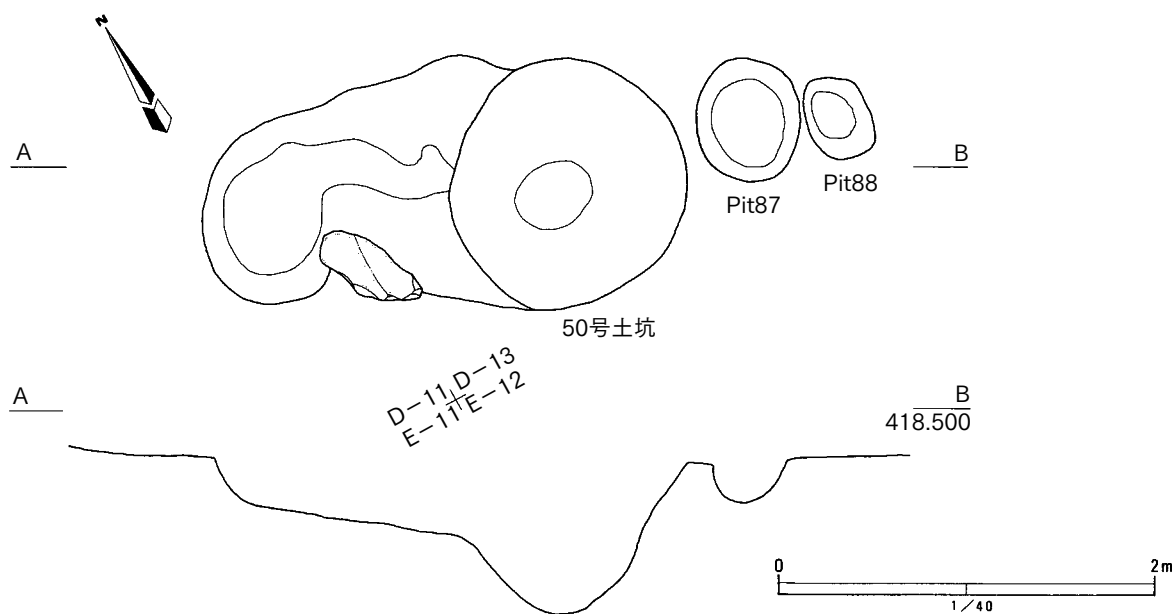
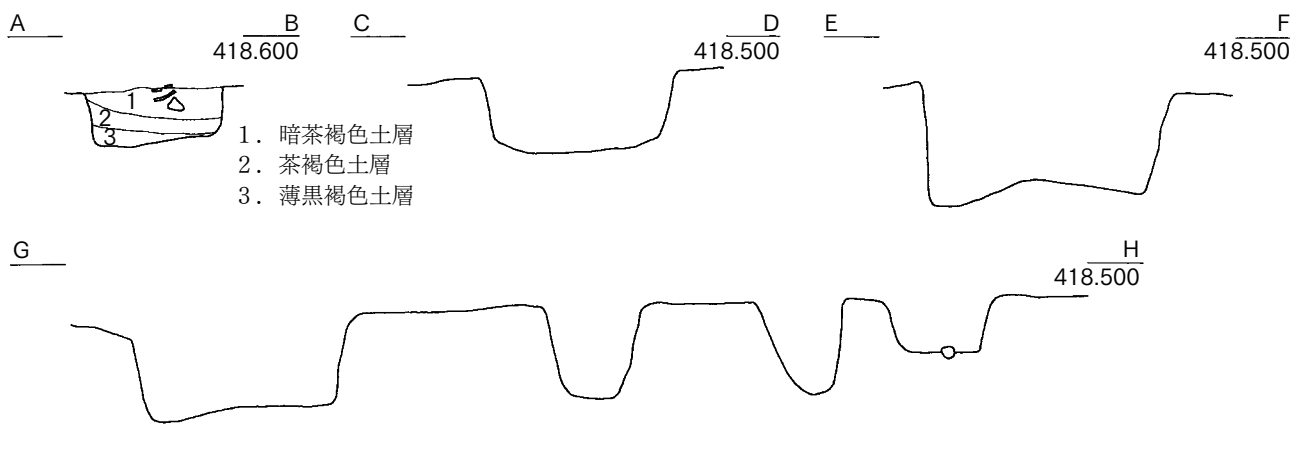
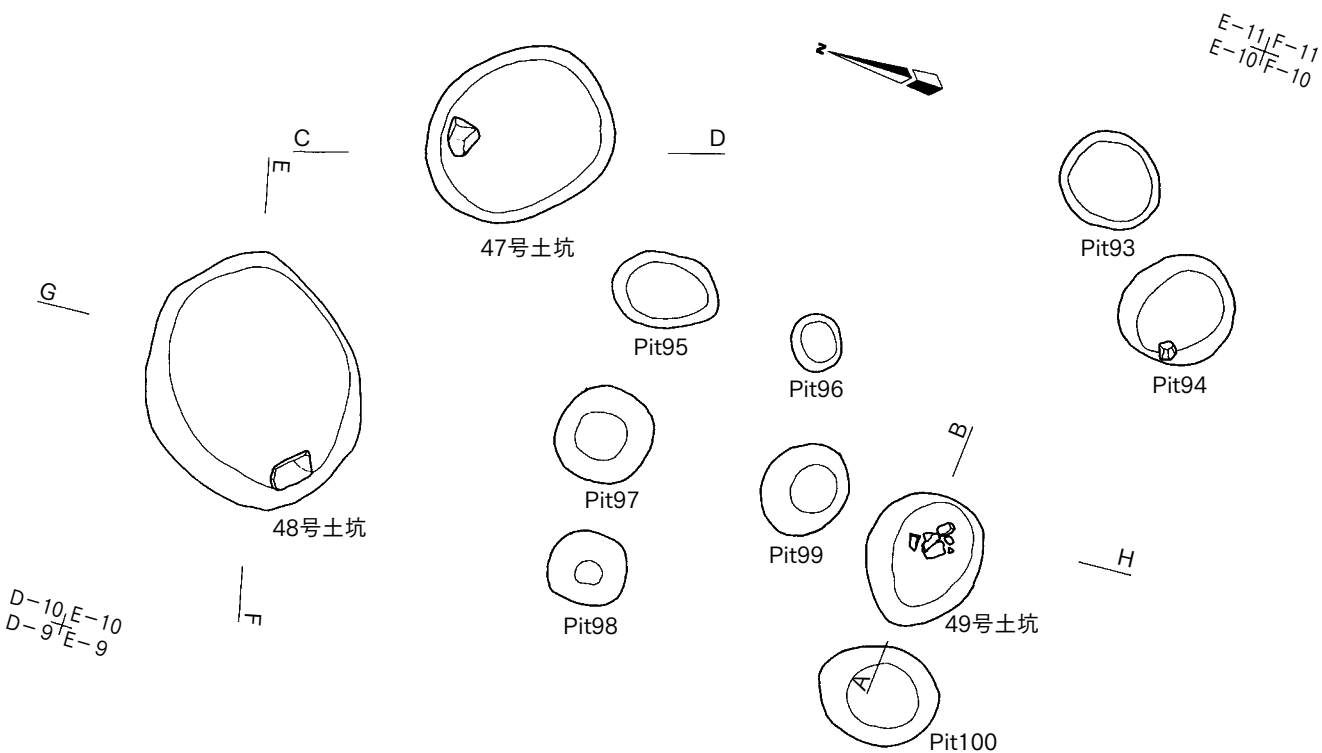
D-13 E-13
D-12 E-12



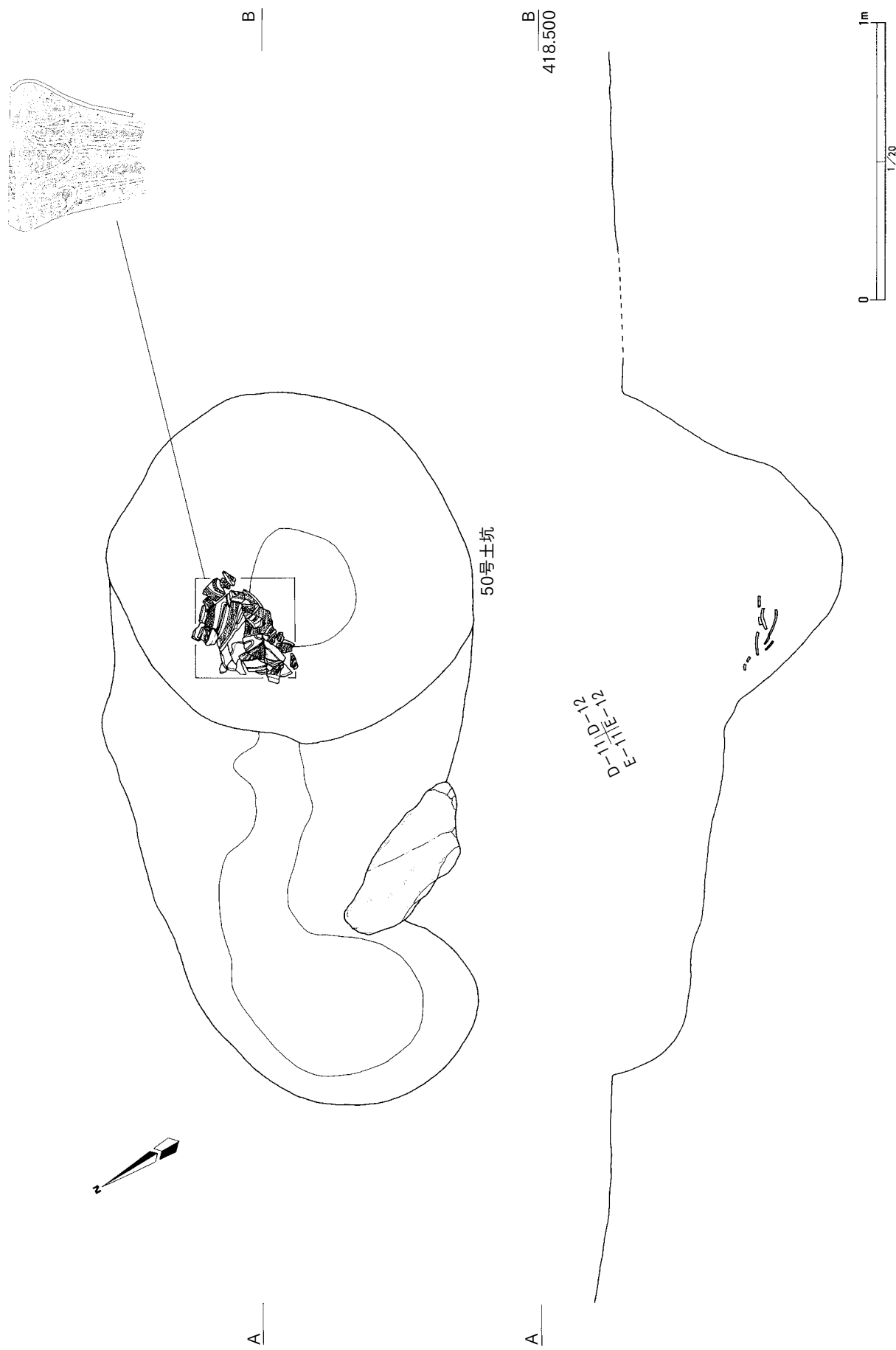
C-13 D-13
C-12 D-12



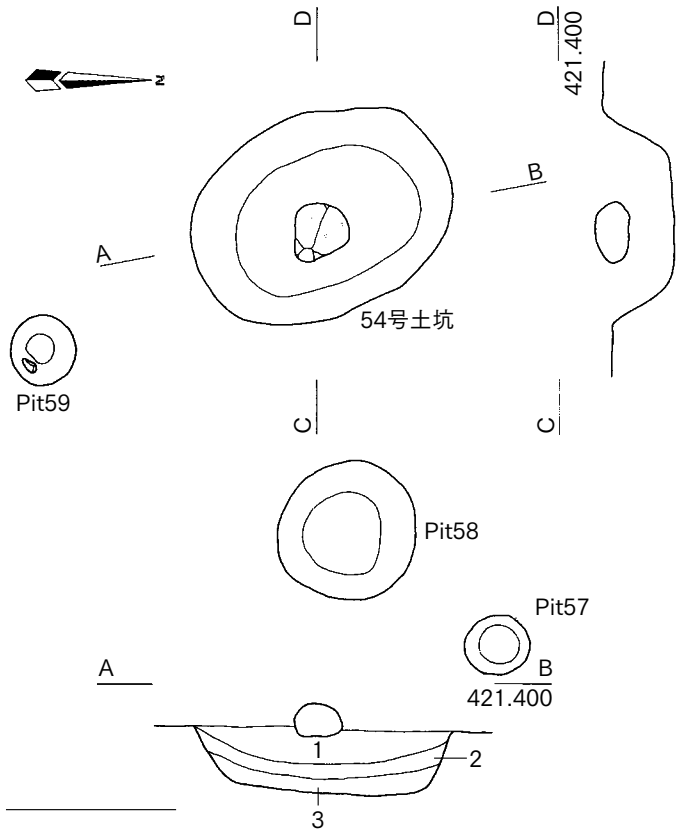
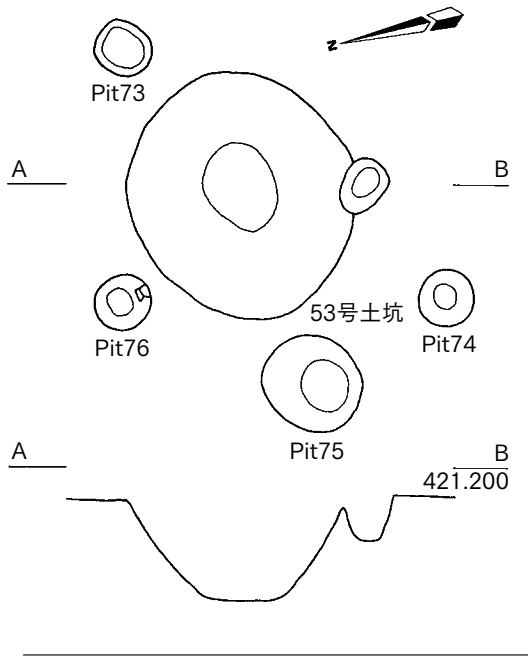
第21图 第41~45·51·52号土坑平·断面图



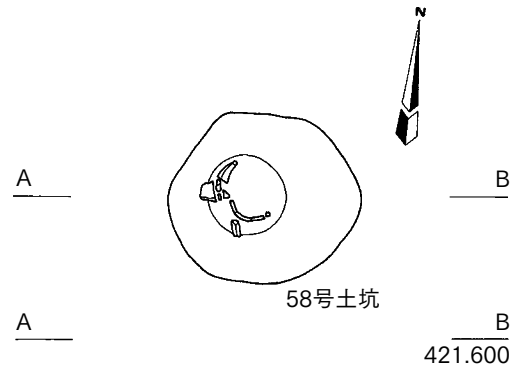
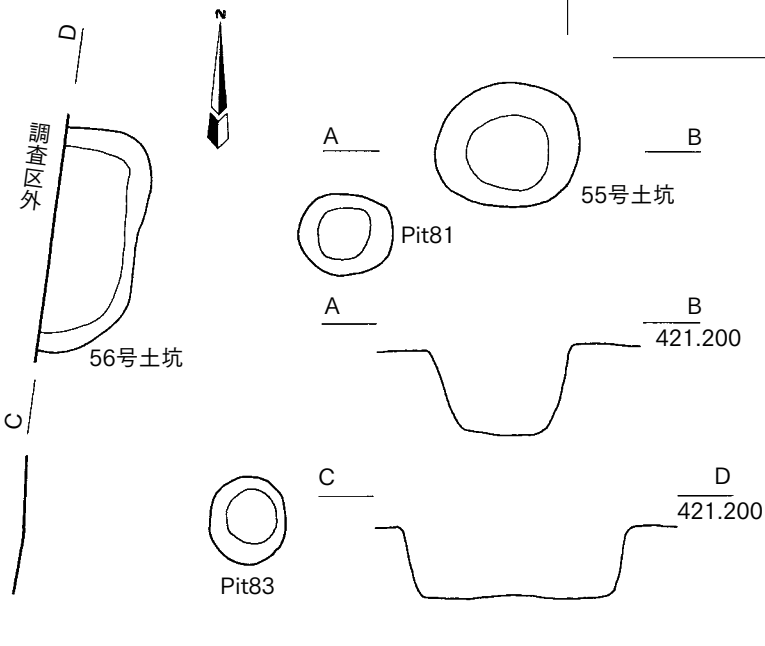
第22图 第47~50号土坑平·断面图



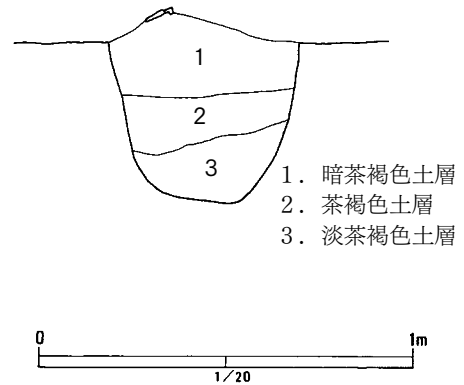
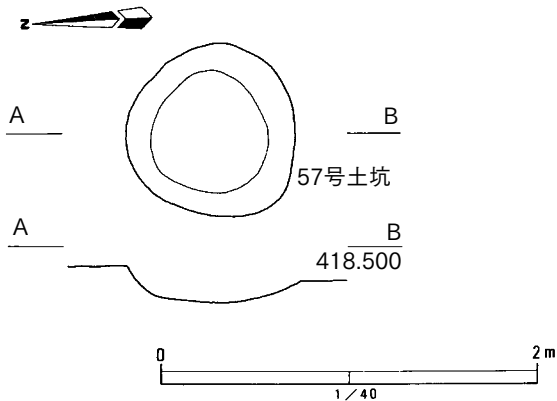
第23图 第50号土坑平·断面图



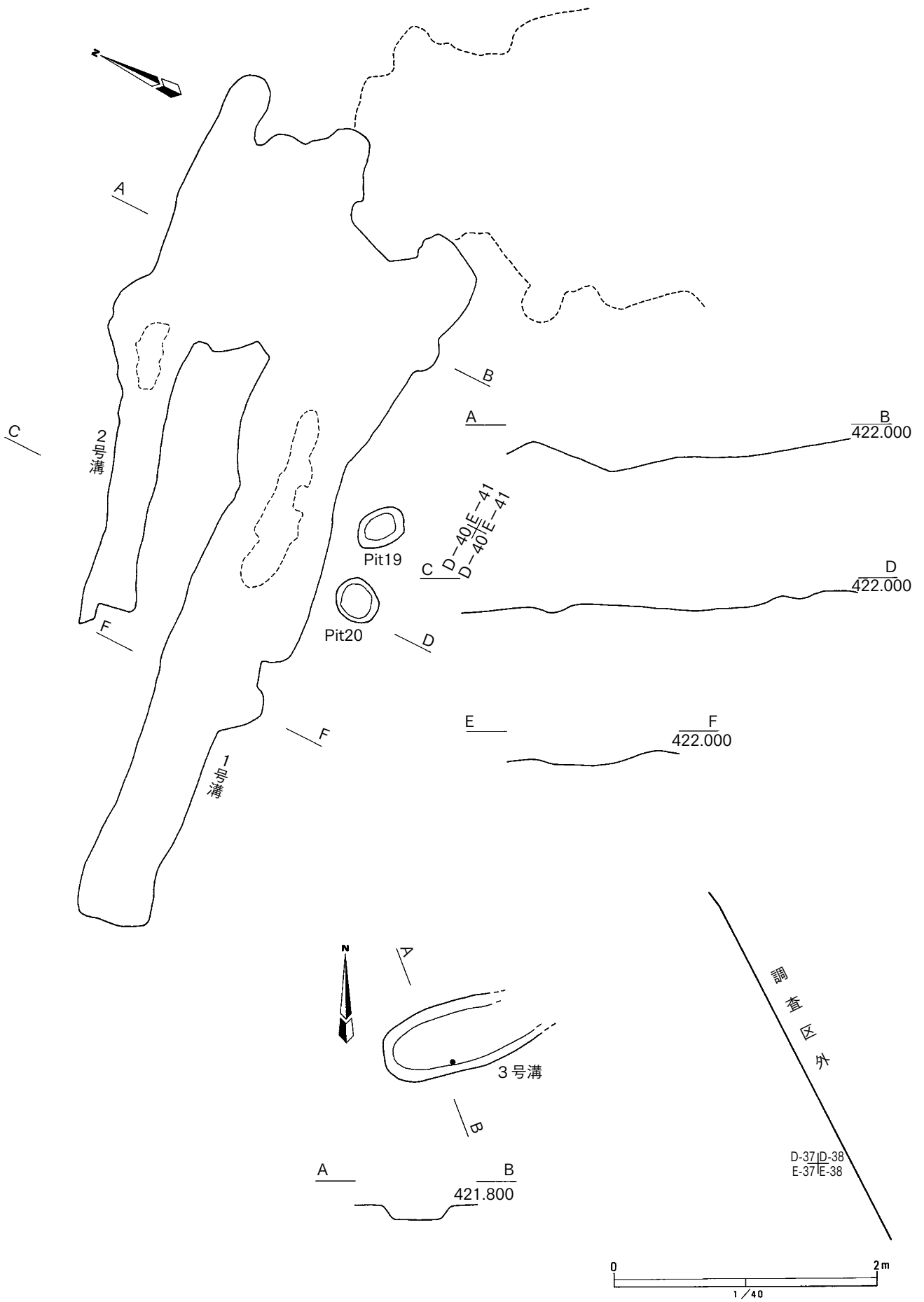
- 1. 暗茶褐色土層
- 2. 茶褐色土層
- 3. 淡茶褐色土層



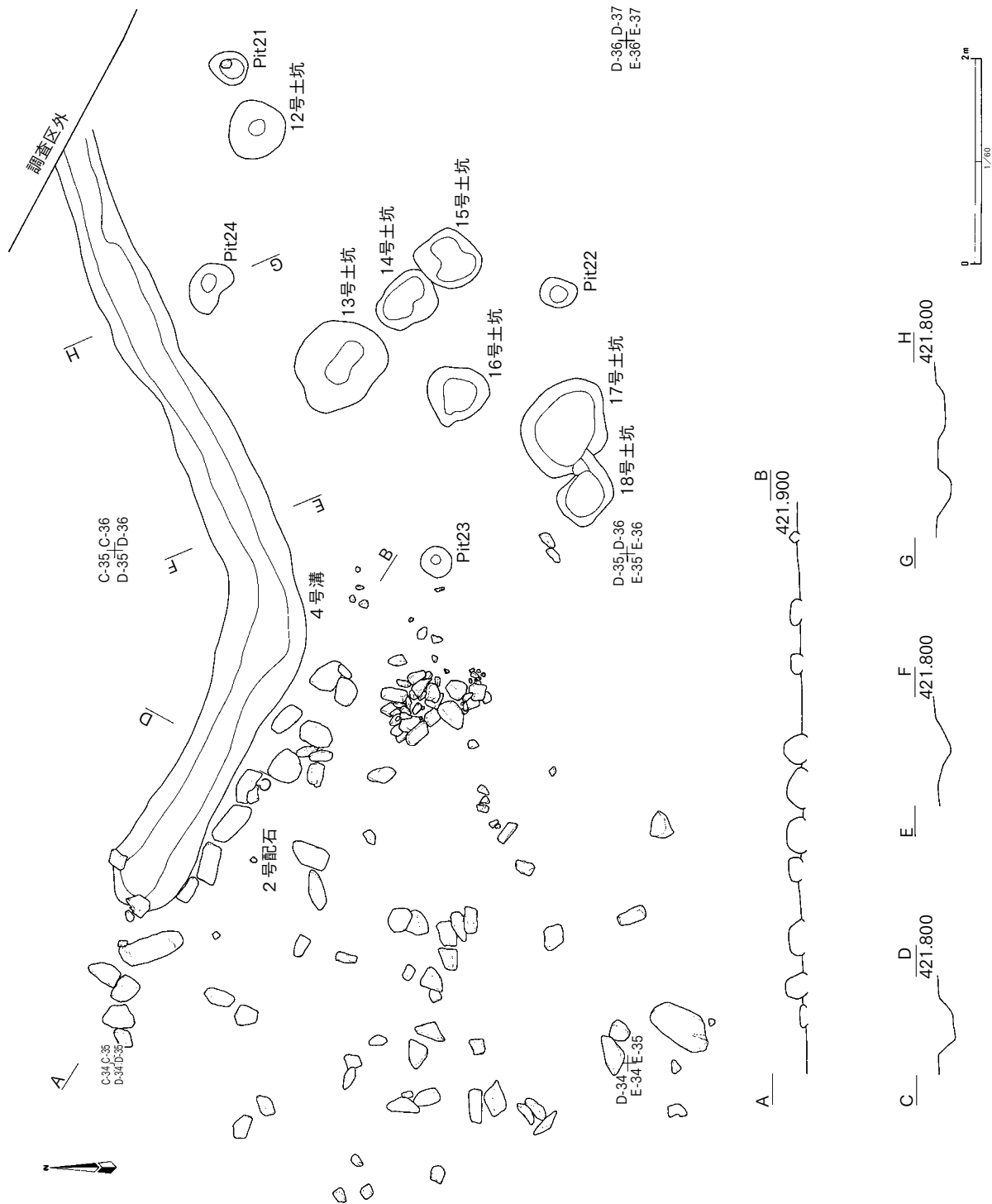
- 1. 暗茶褐色土層
- 2. 茶褐色土層
- 3. 淡茶褐色土層



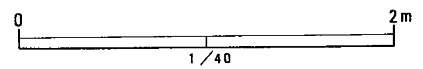
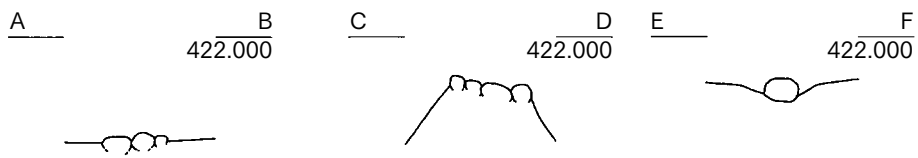
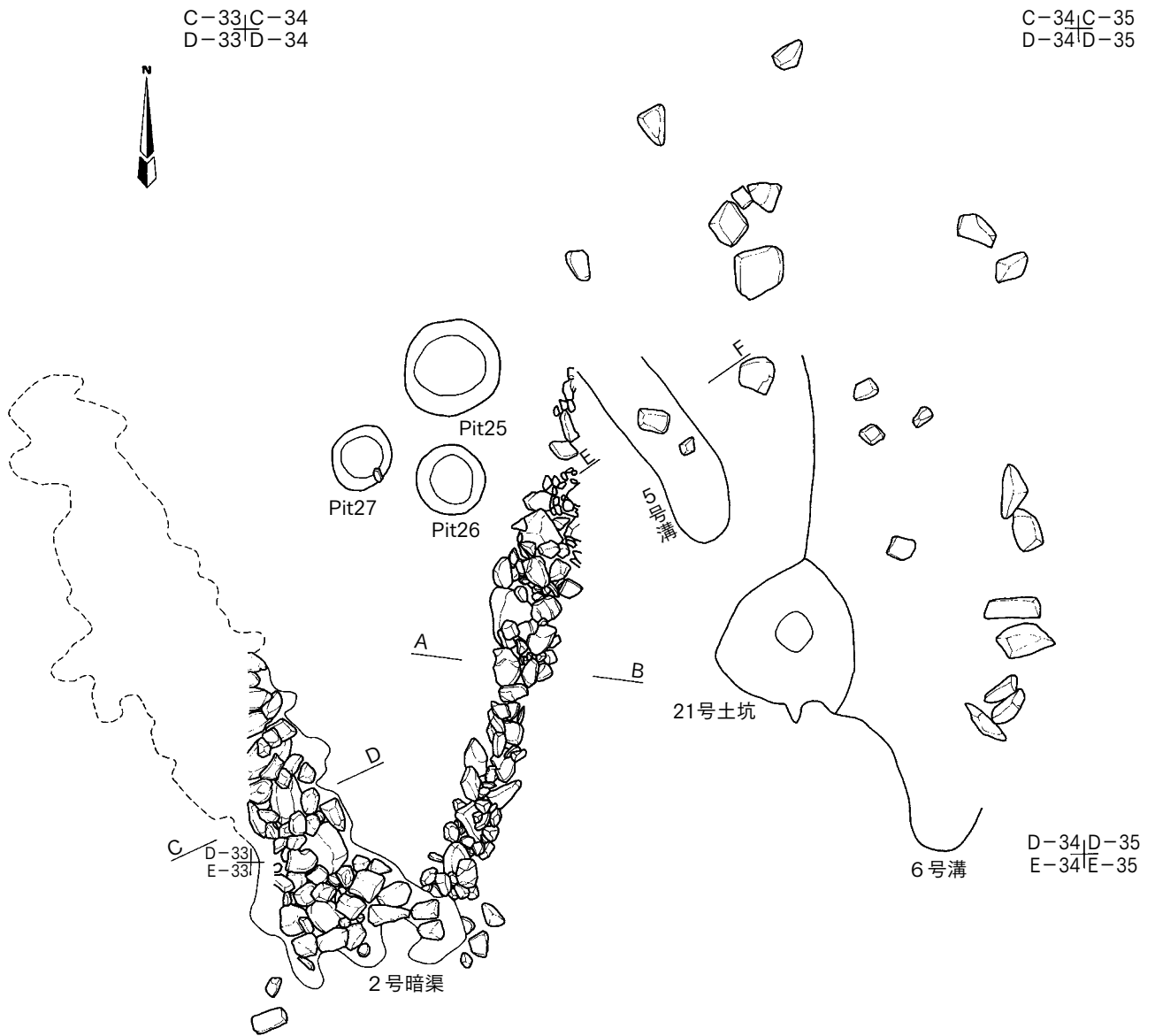
第24図 第53～58号土坑平・断面図



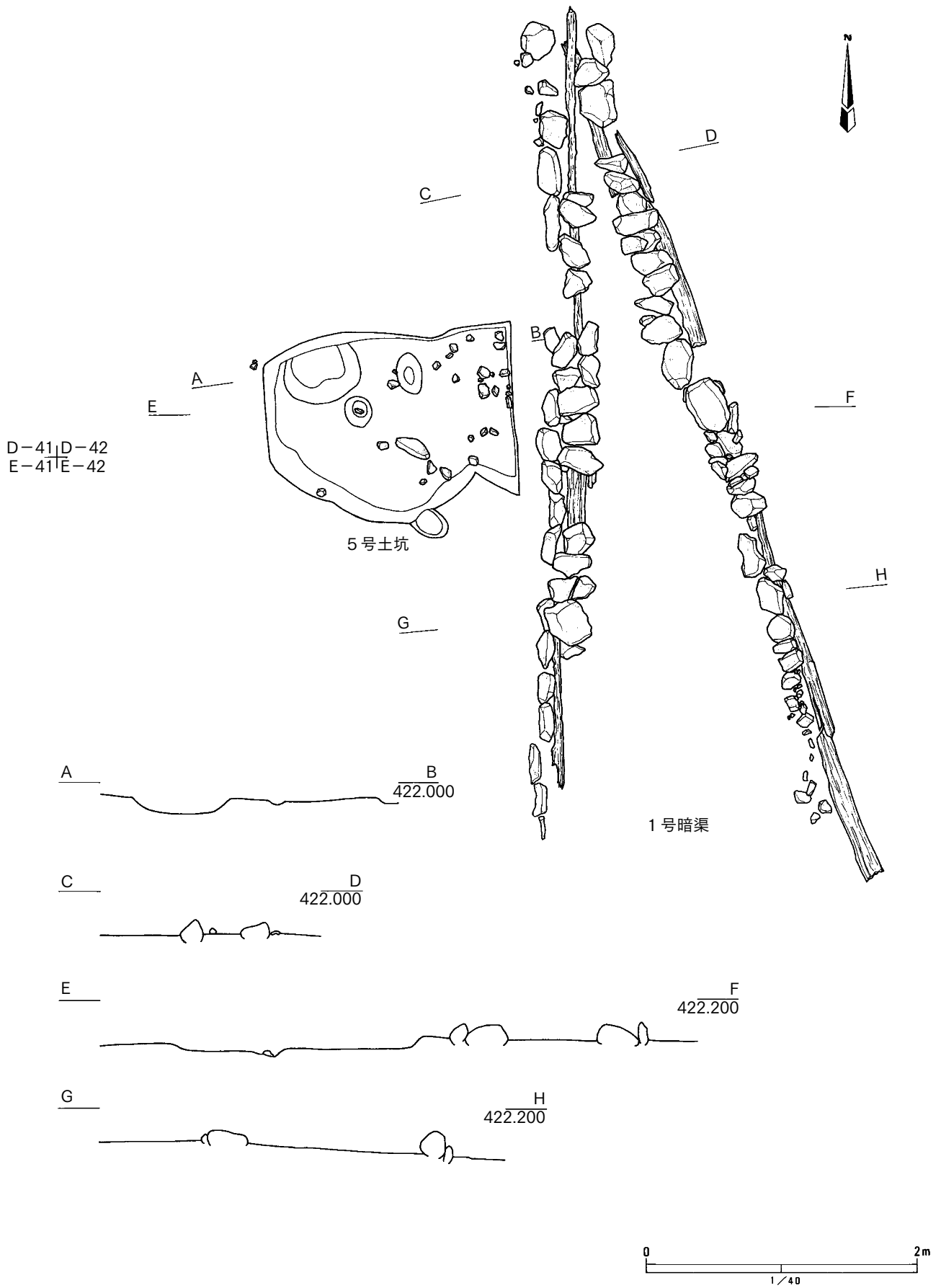
第25図 第1～3号溝状遺構平・断面図



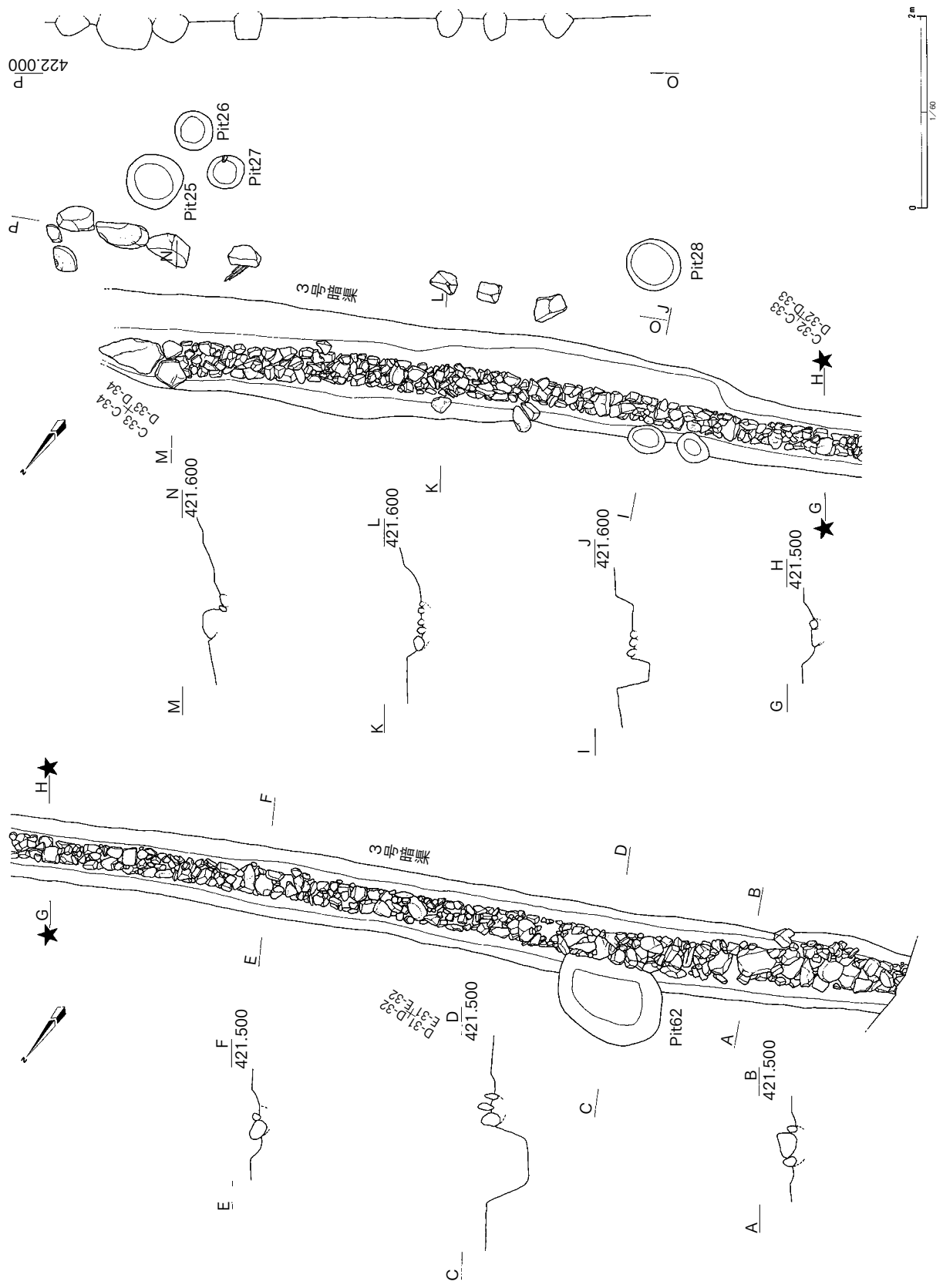
第26図 第4号溝状遺構・第2号配石遺構平・断面図



第27图 第5・6号溝状遺構・第2号暗渠平・断面図



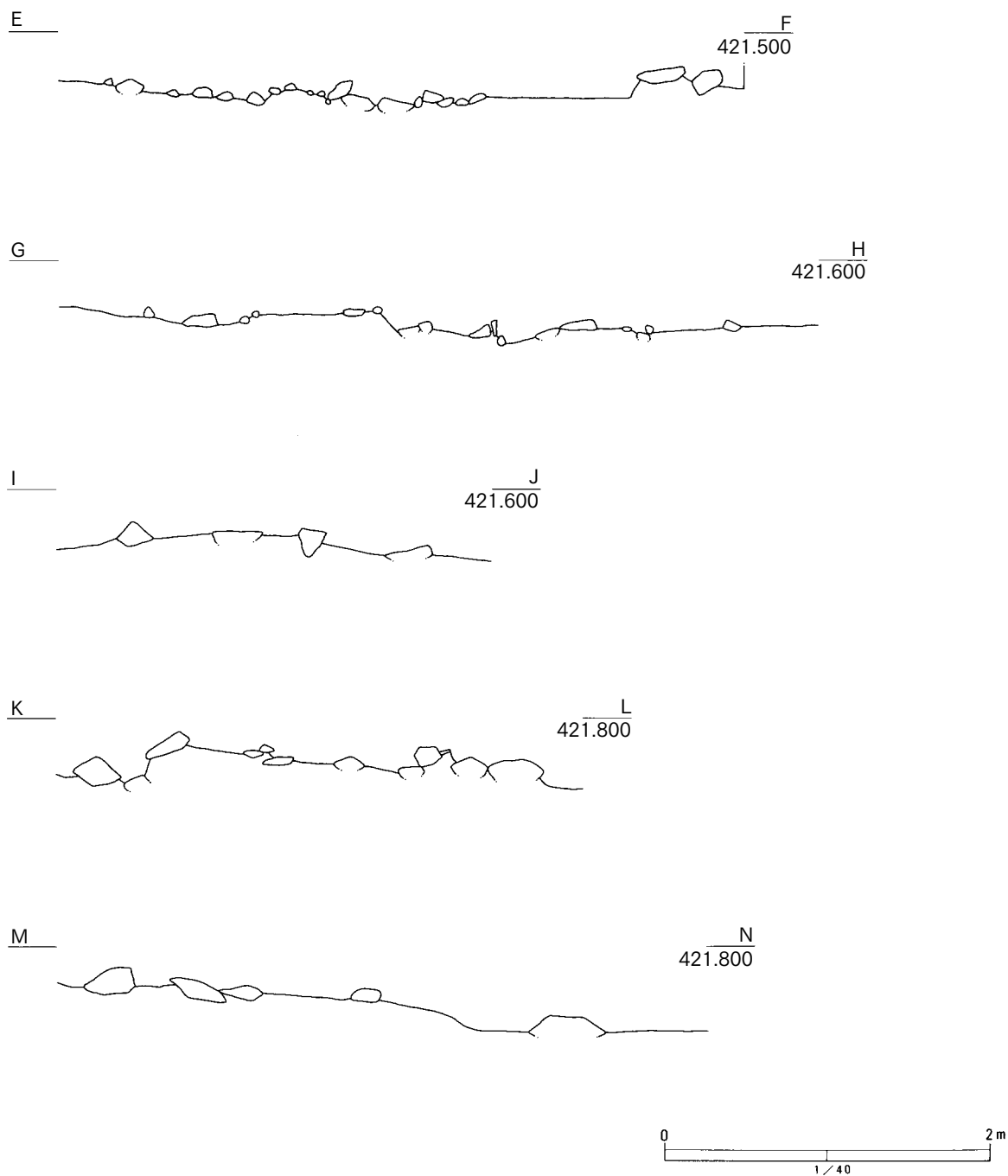
第28图 第5号土坑·第1号暗渠平·断面图



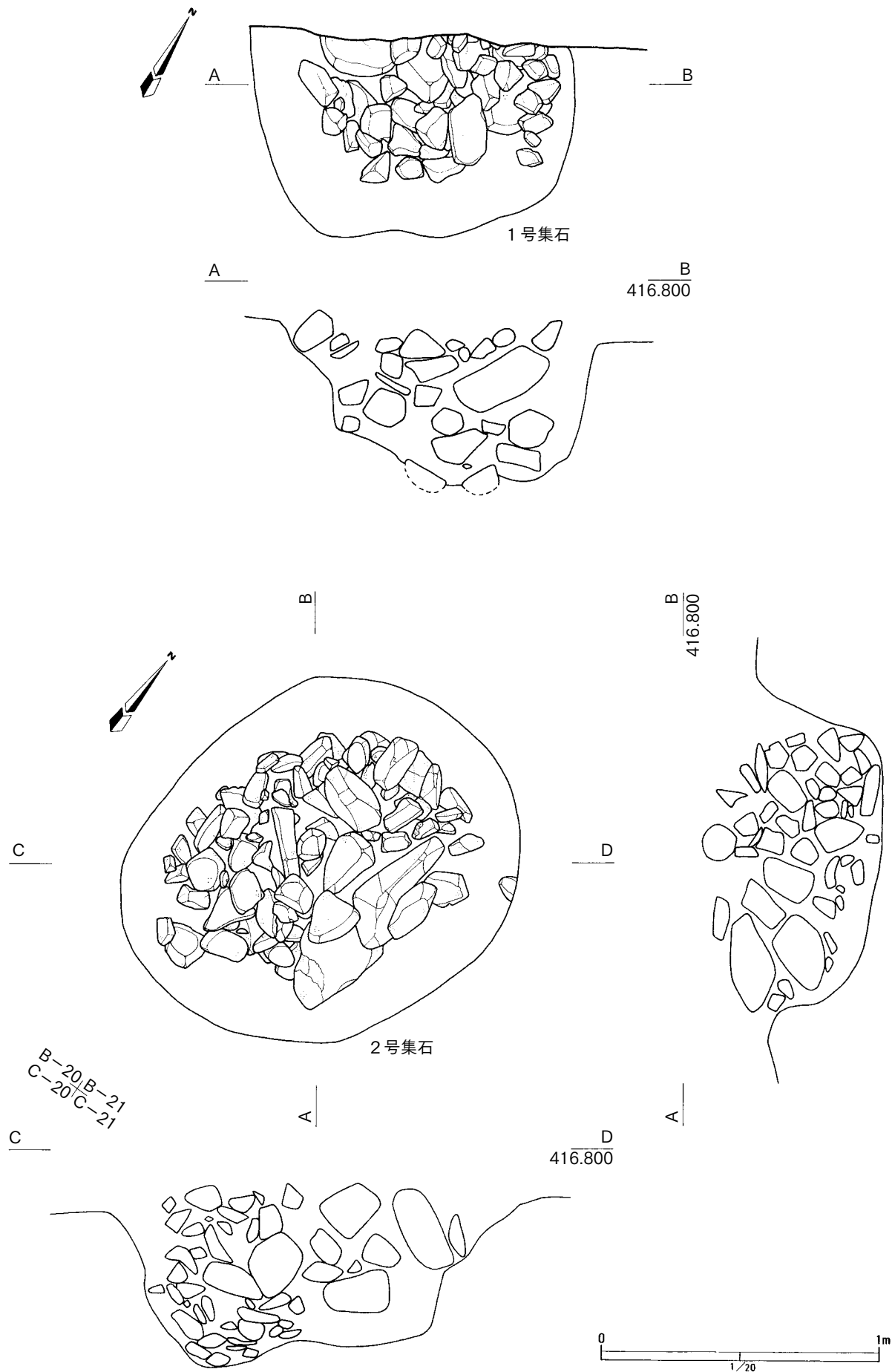
第29図 第3号暗渠平・断面図



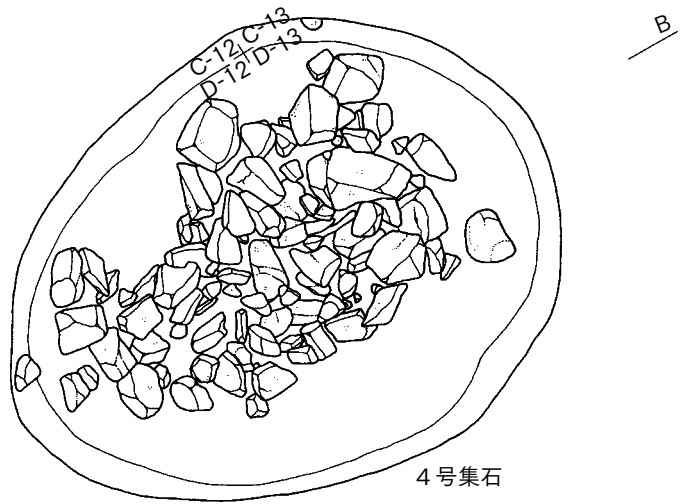
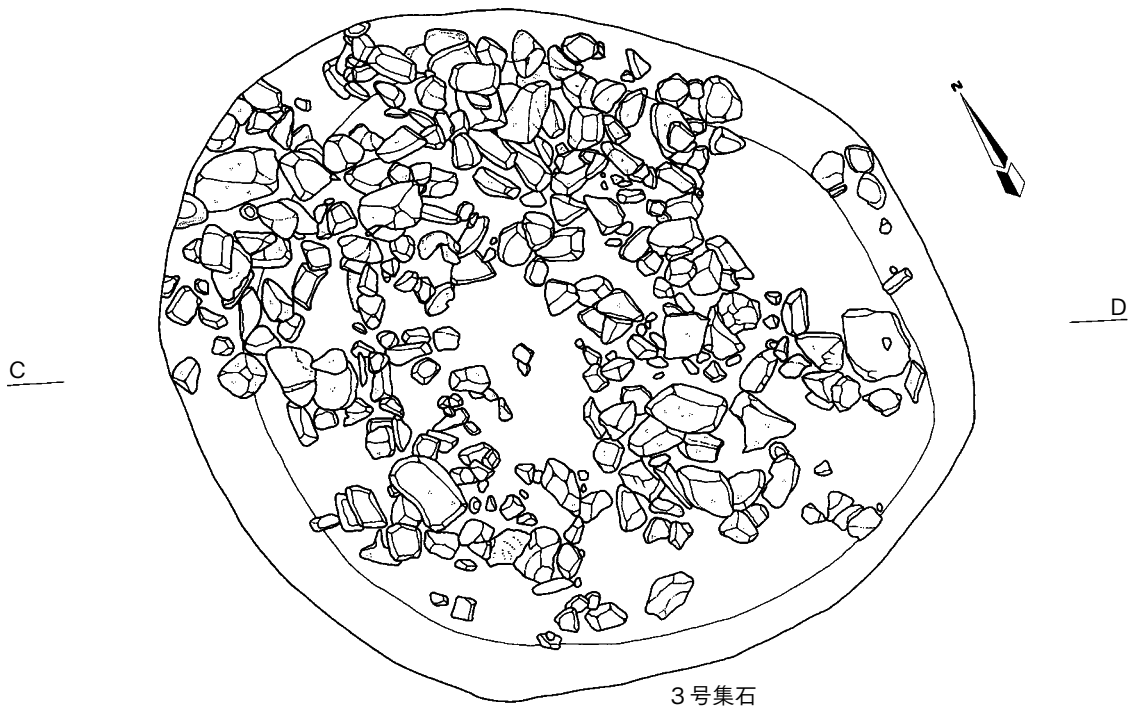
第30図 第1・3・4号配石遺構平・断面図



第31图 第1·3·4号配石遺構断面图



第32图 第1·2号集石土坑平·断面图

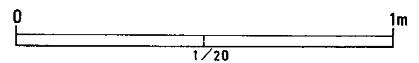


A

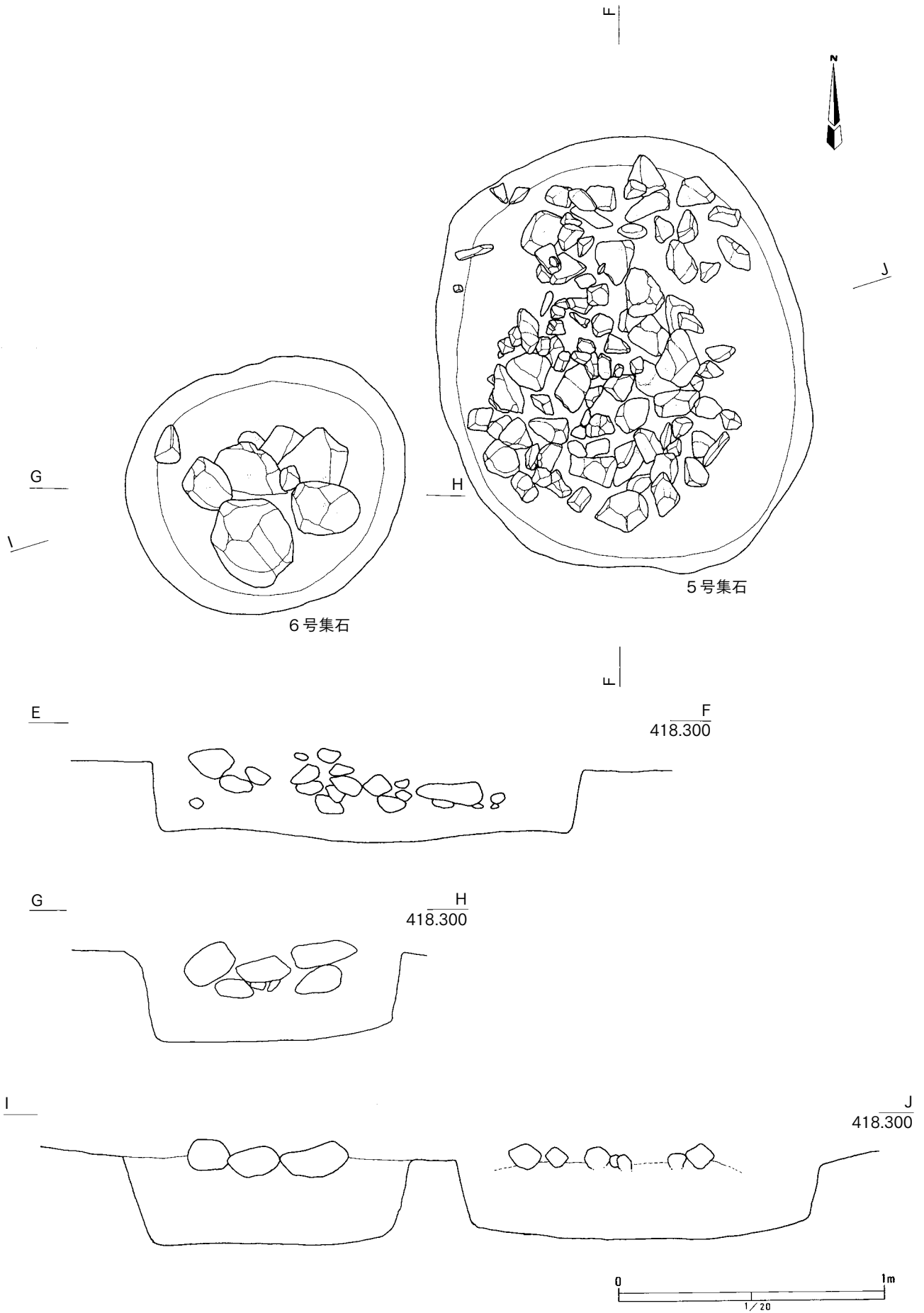
B
418.400

C

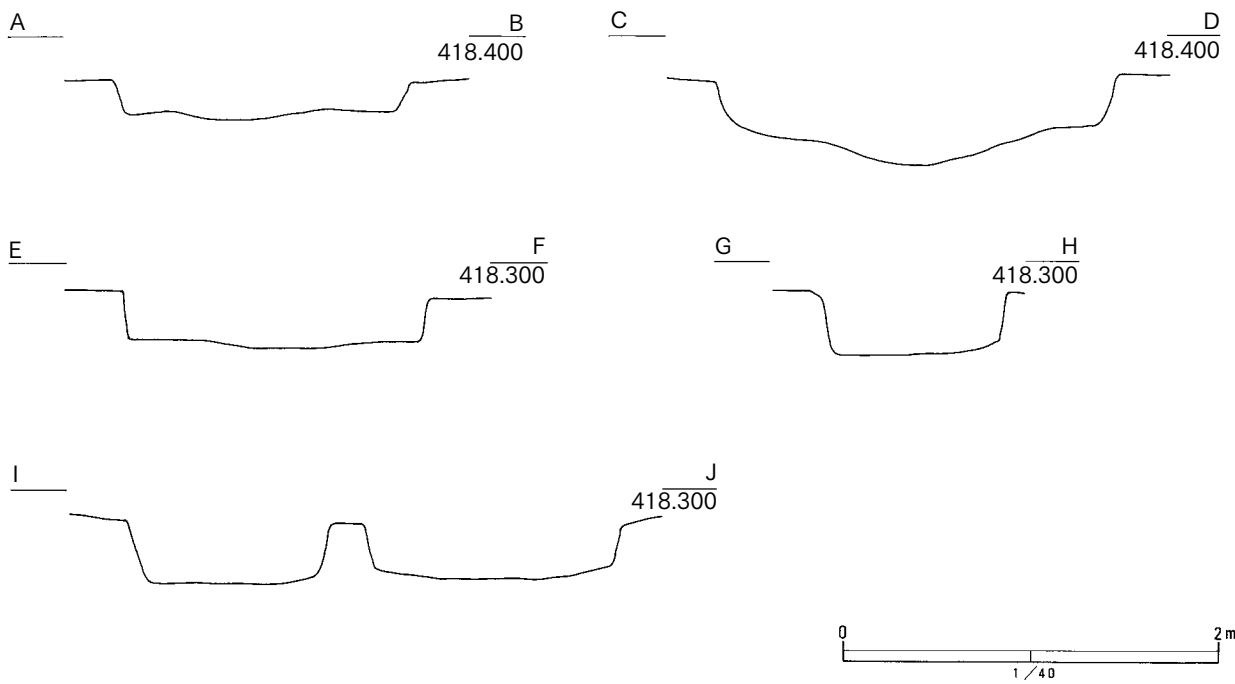
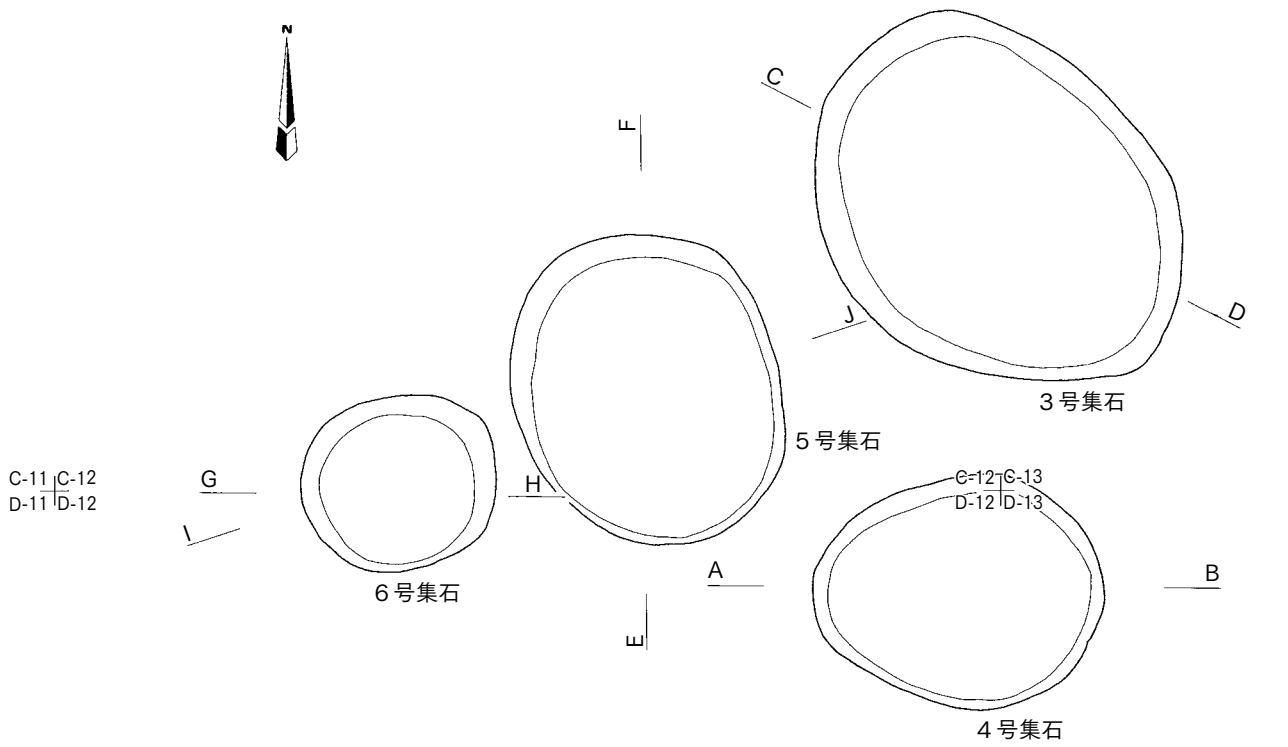
D
418.400



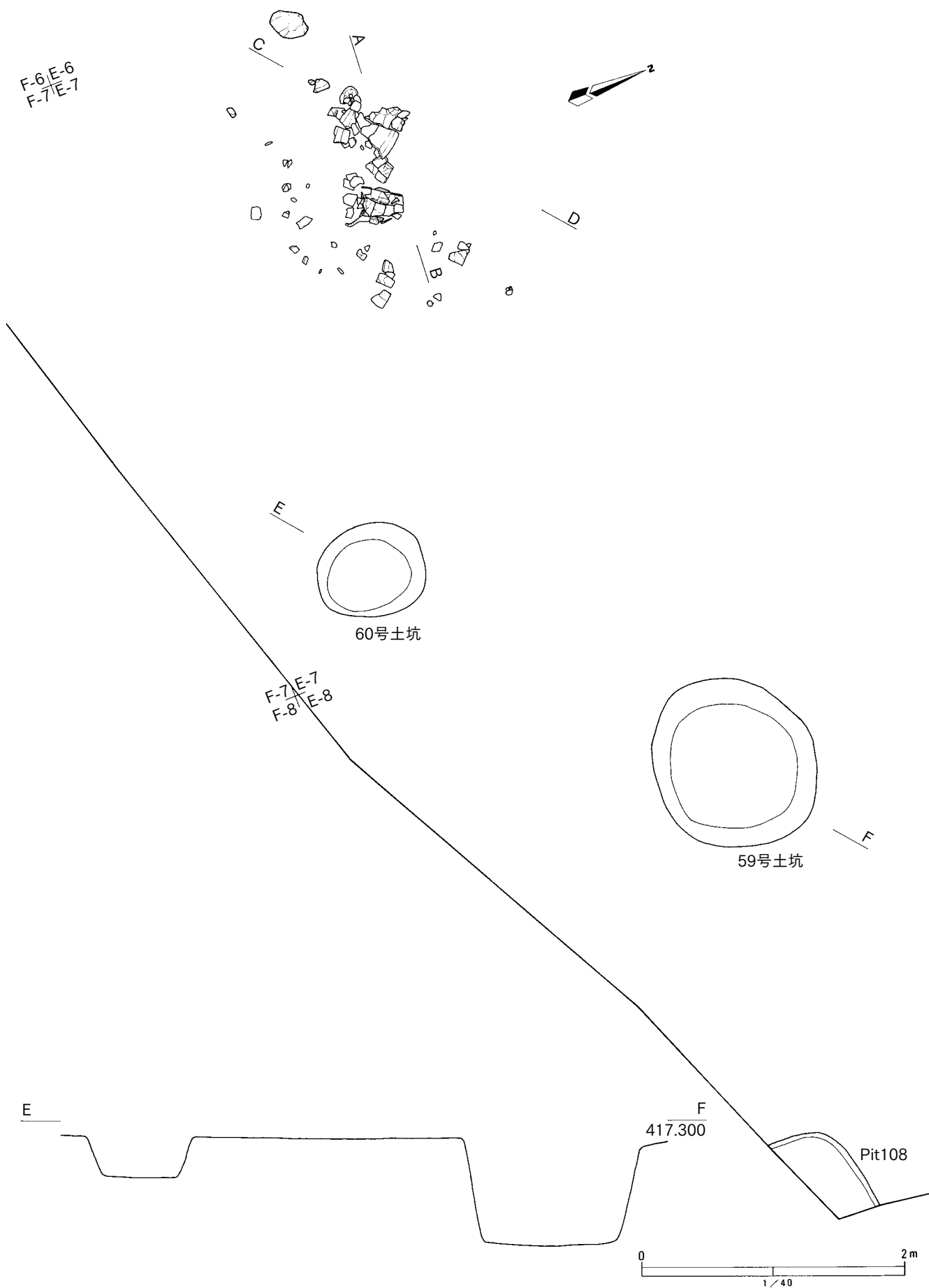
第33图 第3・4号集石土坑平・断面图(1)



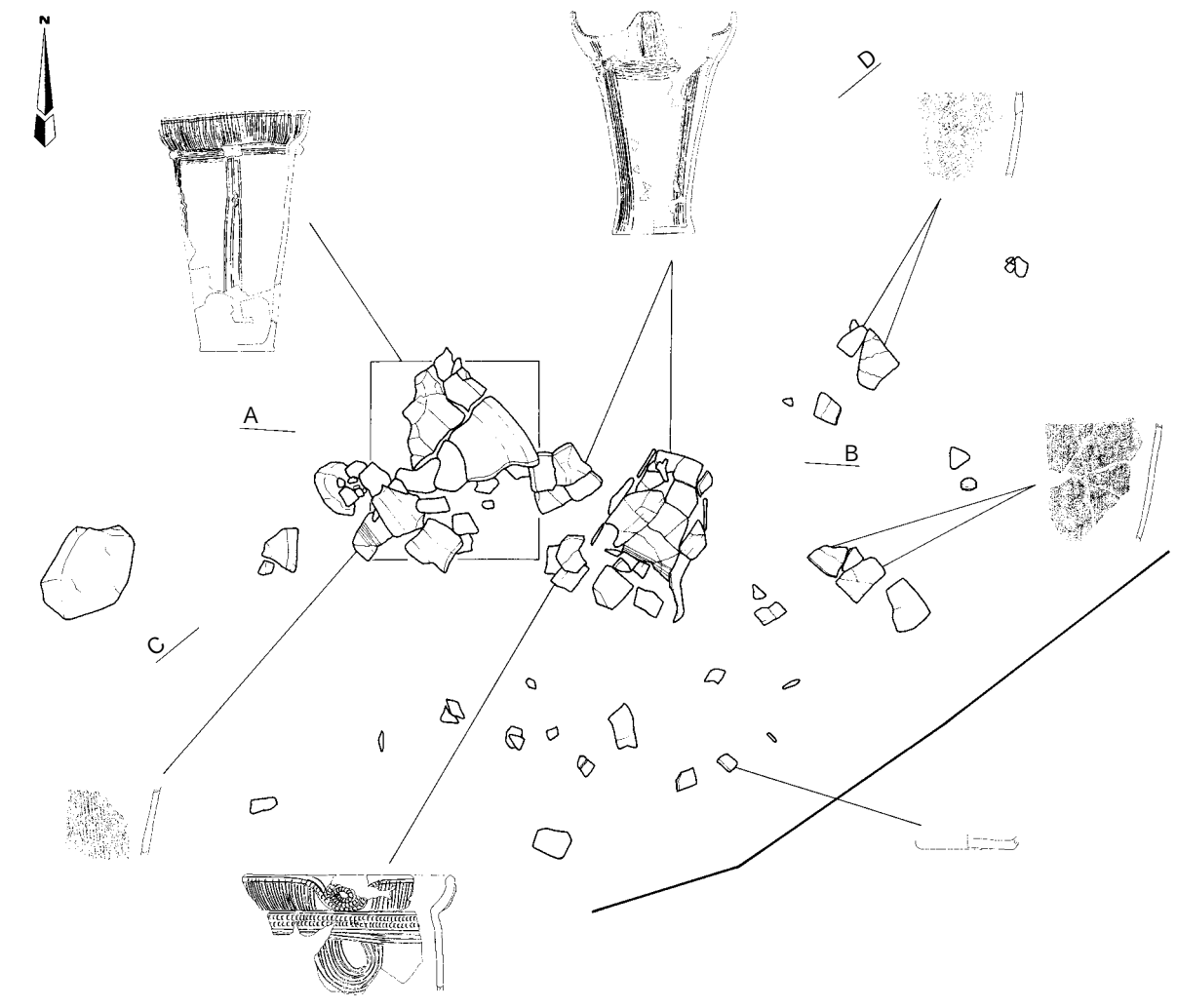
第34图 第5・6号集石土坑平・断面图(2)



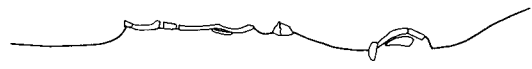
第35图 第3~6号集石土坑完掘平·断面图(3)



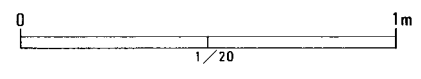
第36图 土器集中区第59·60号土坑平·断面图



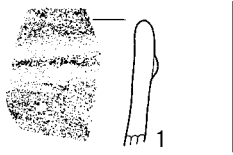
A B
417.300



C D
417.300



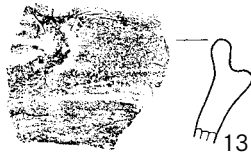
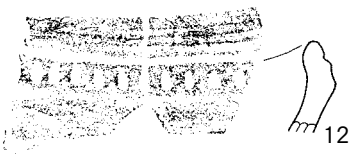
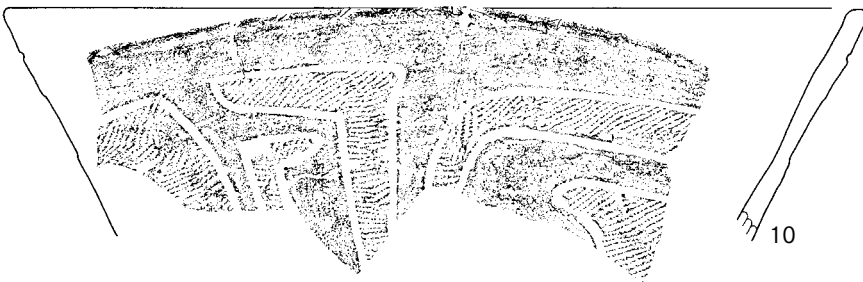
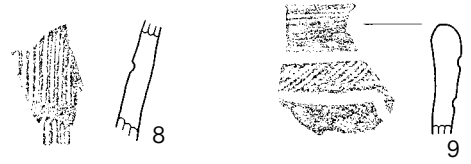
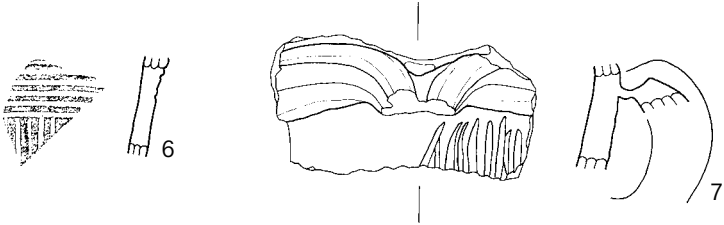
第37图 土器集中区平・断面图



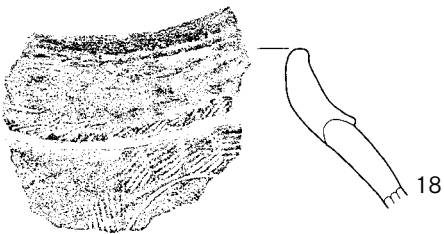
第1号住居



第2号住居



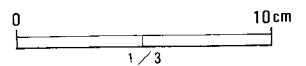
第29号土坑



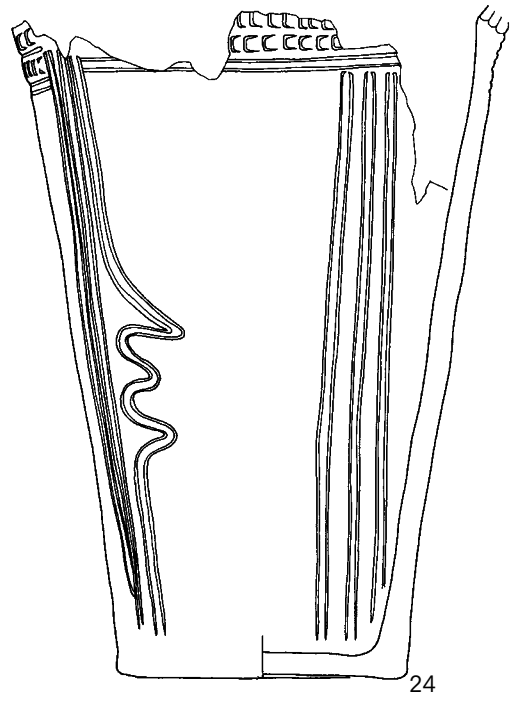
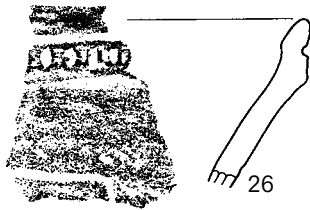
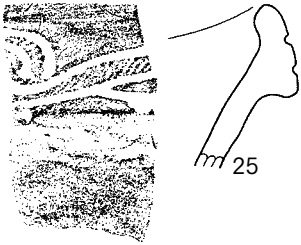
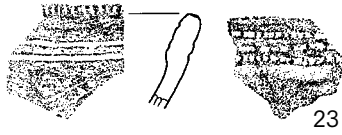
第30号土坑



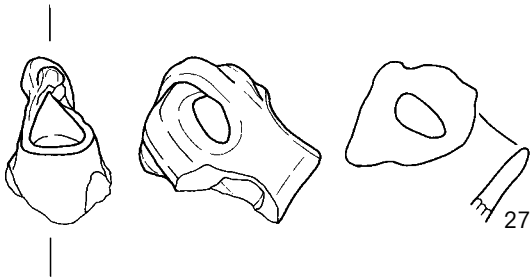
第37号土坑



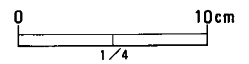
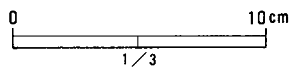
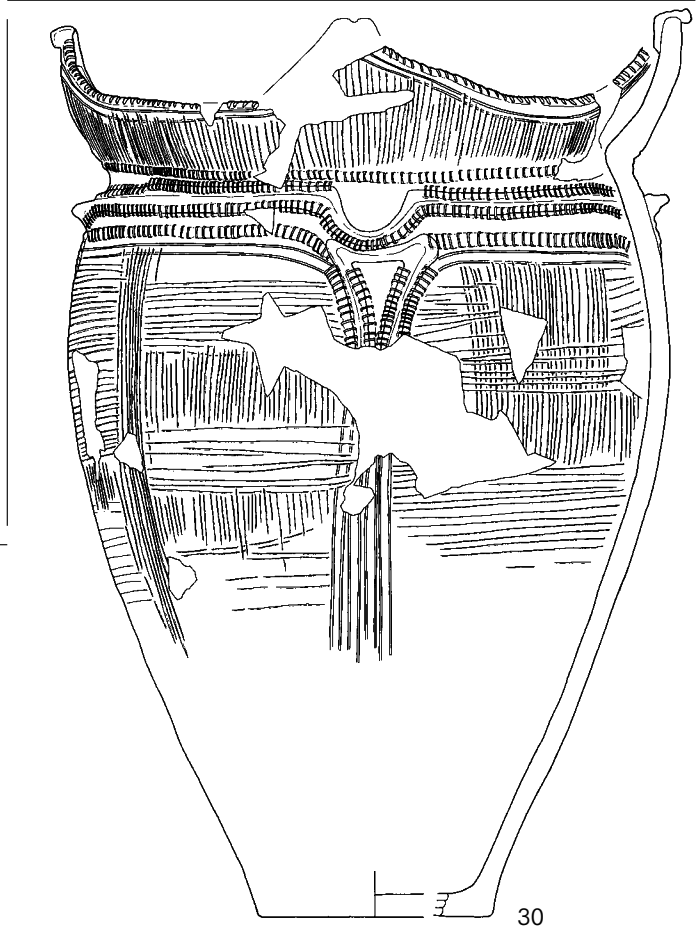
第38图 遺構出土遺物(1)



第38号土坑



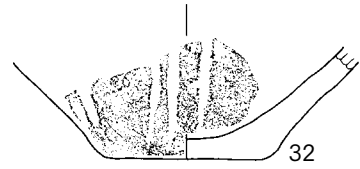
第39号土坑



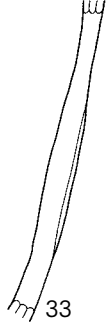
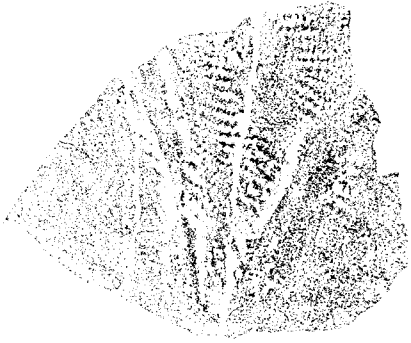
第39图 遺構出土遺物(2)



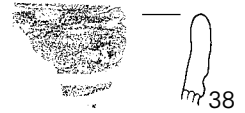
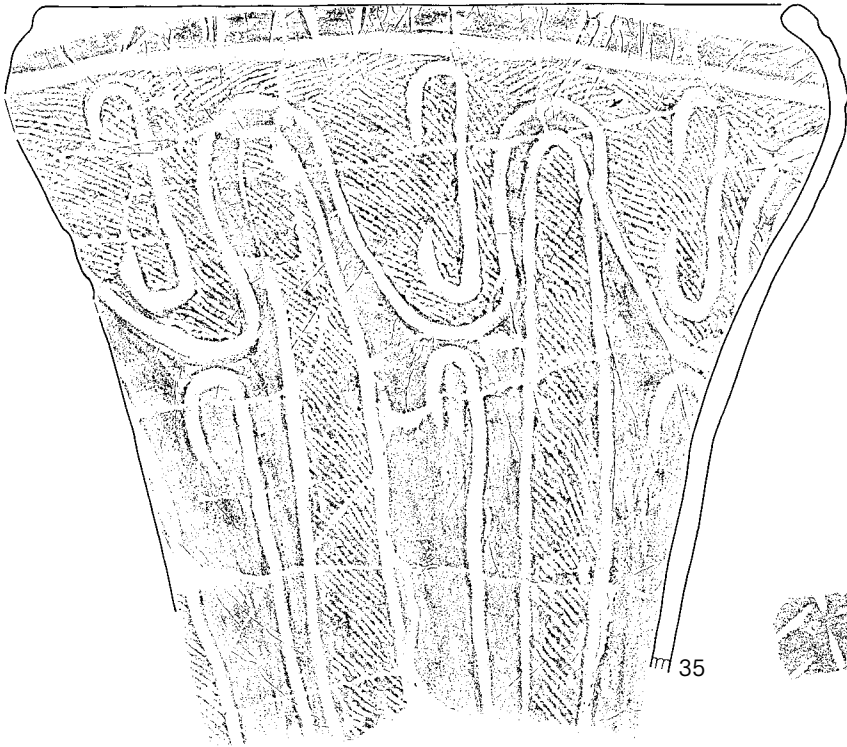
第40号土坑



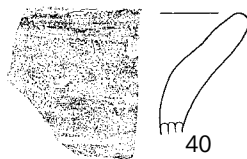
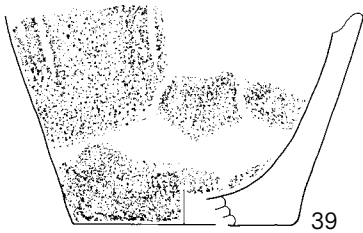
第43号土坑



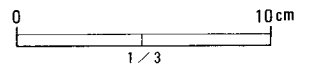
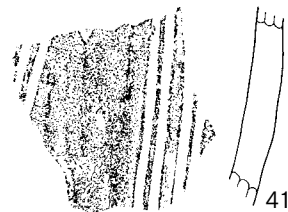
第49号土坑



第50号土坑



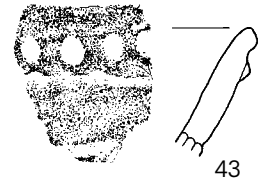
第51号土坑



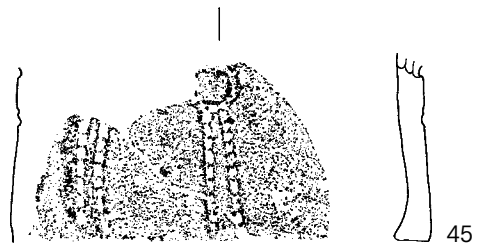
第40图 遺構出土遺物(3)



第52号土坑



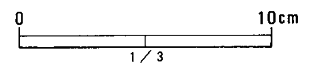
第56号土坑



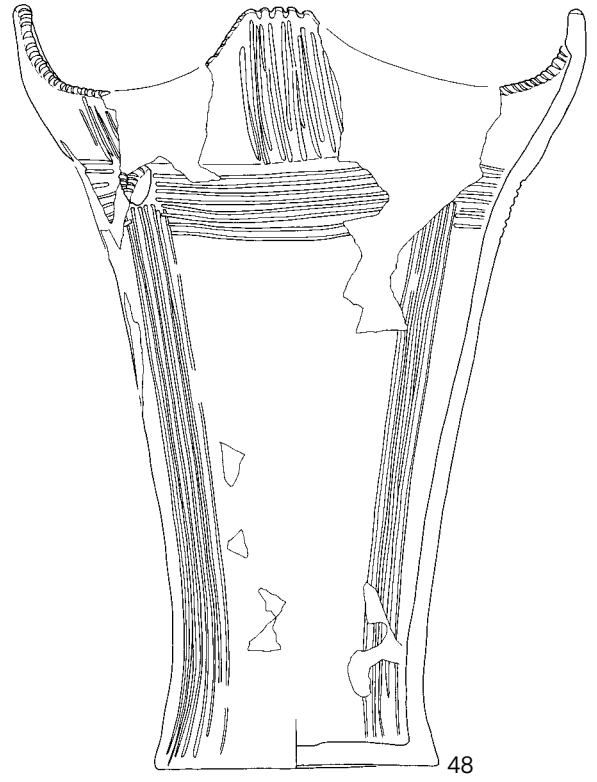
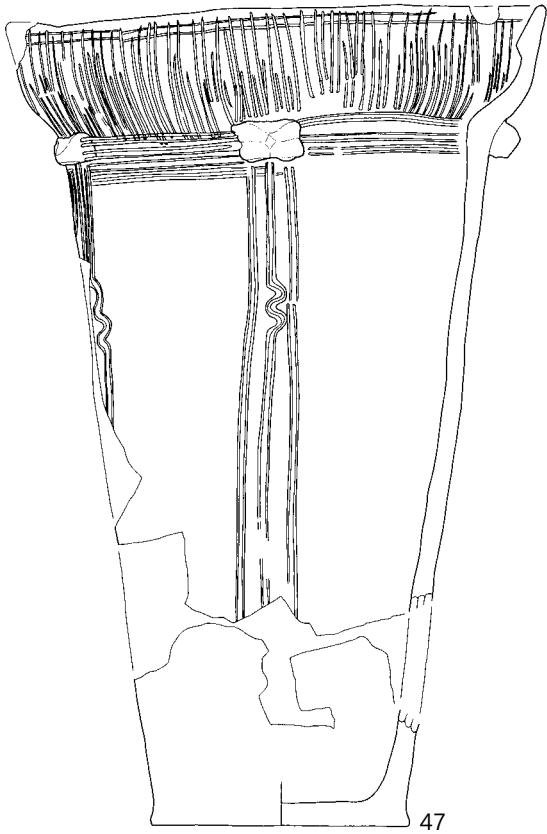
第58号土坑



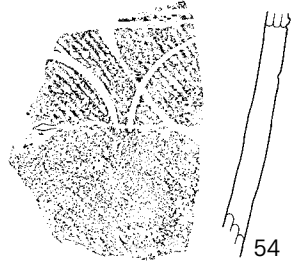
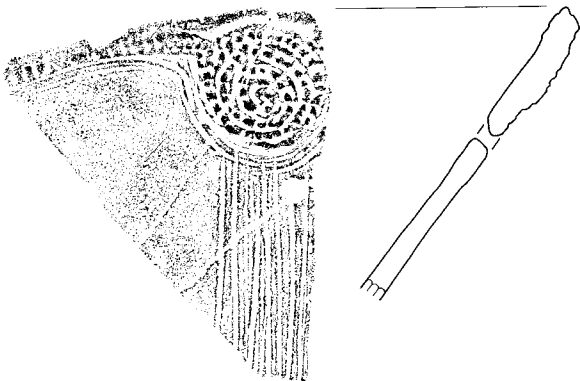
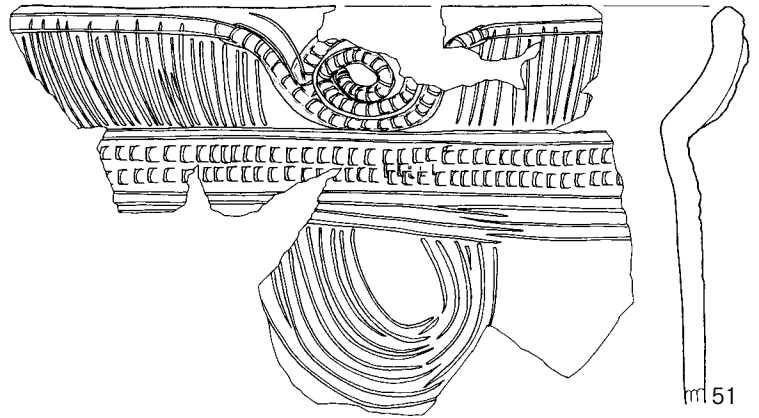
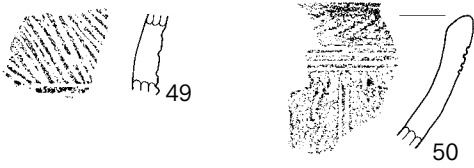
第3号集石



第41图 遺構出土遺物(4)



0 10cm
1/4



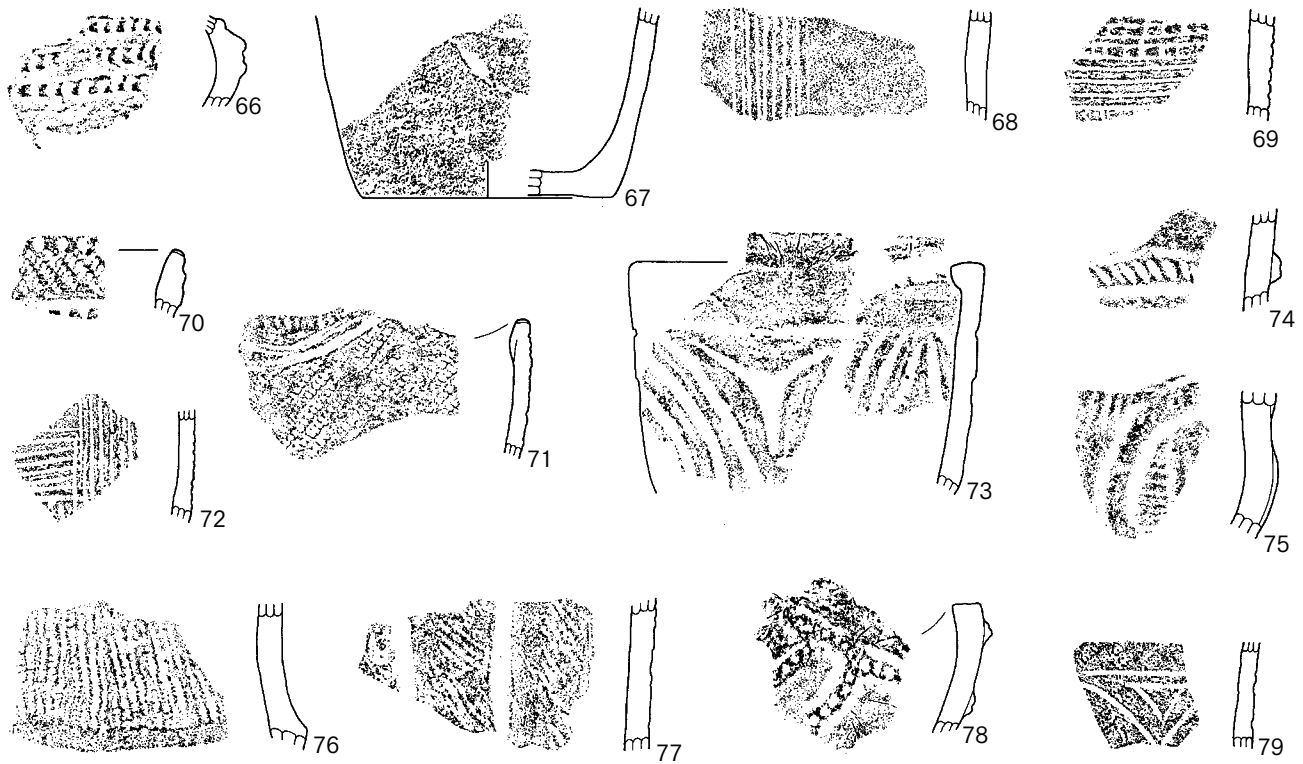
53 土器集中区

0 10cm
1/3

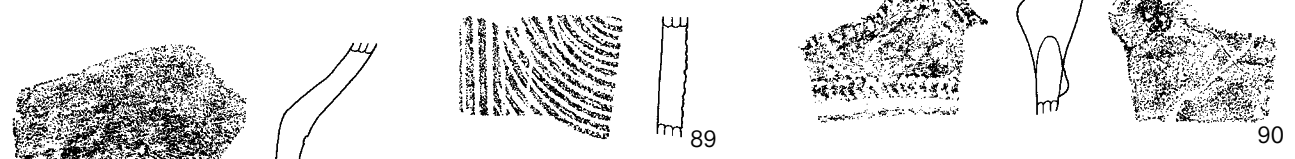
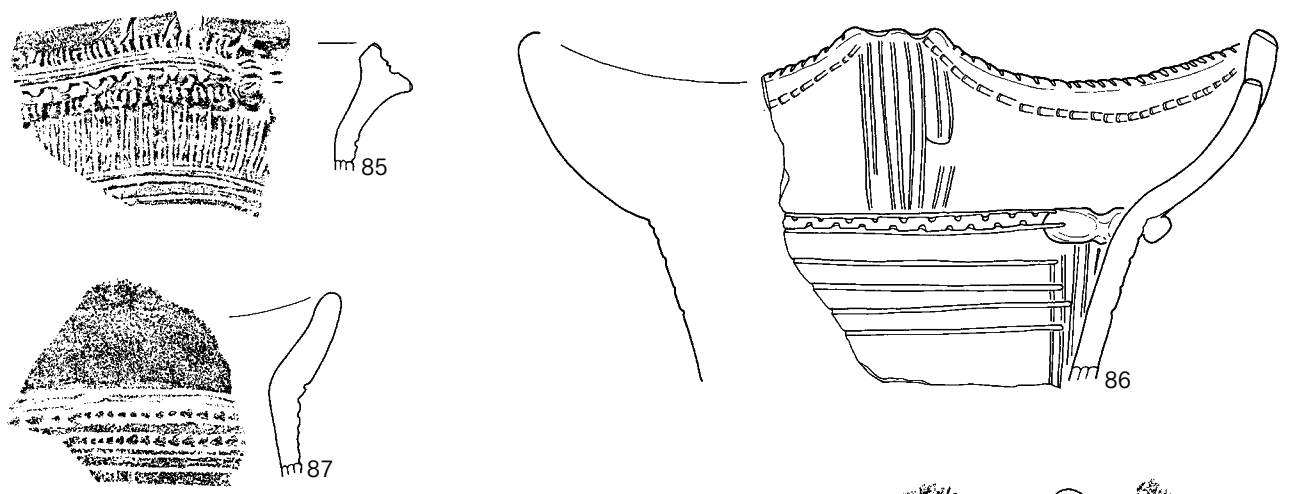
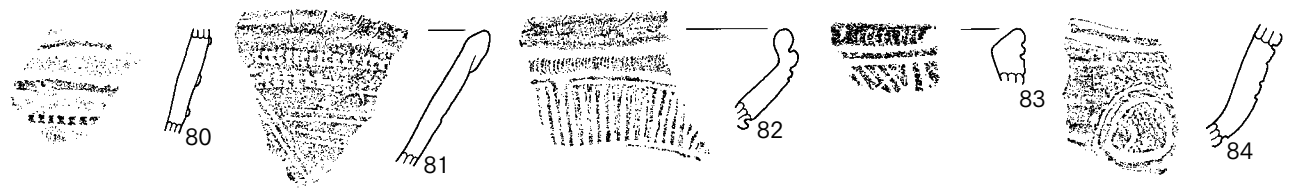
第42図 遺構出土遺物(5)



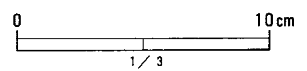
第43図 遺構出土遺物(6)



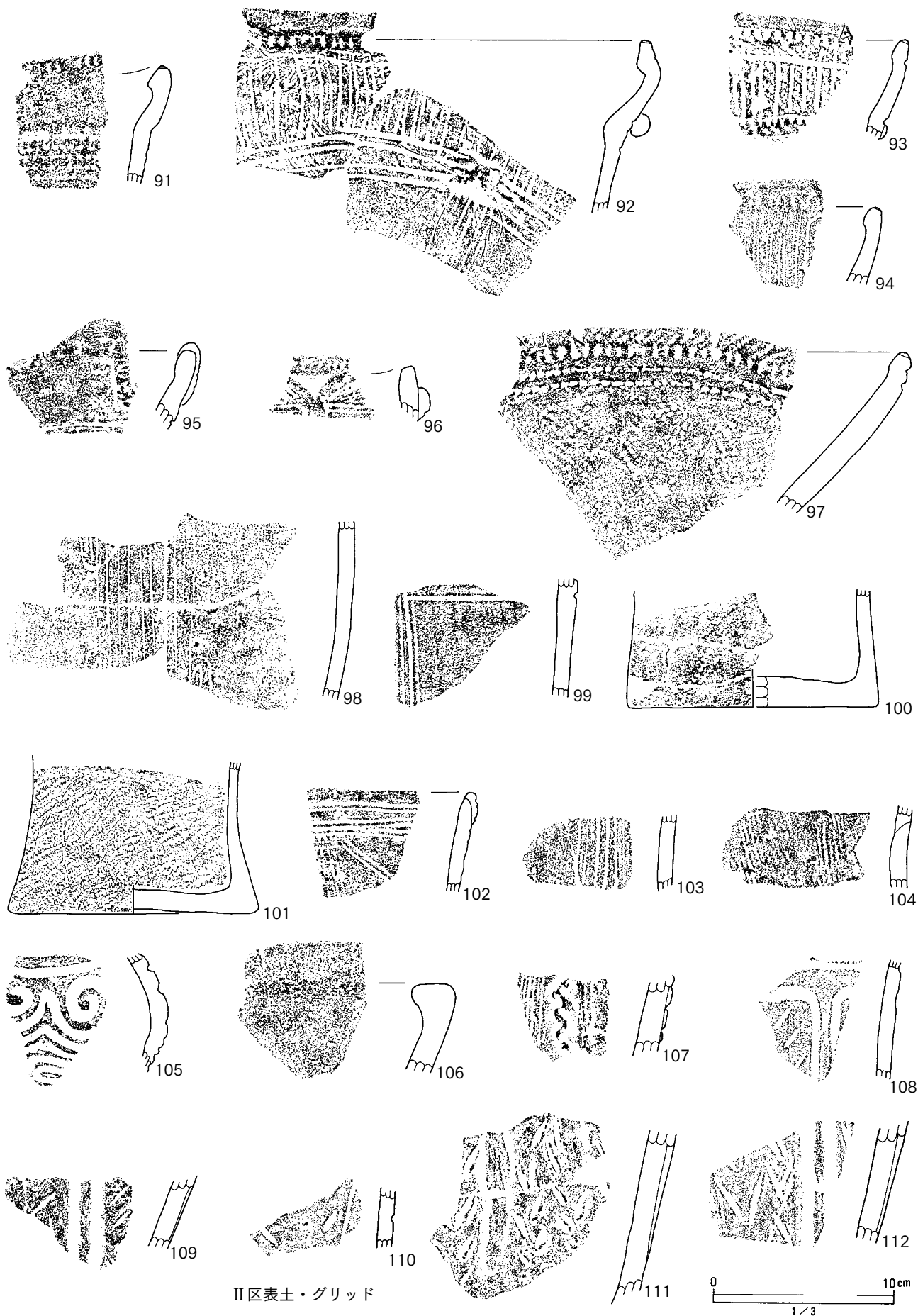
I区表土



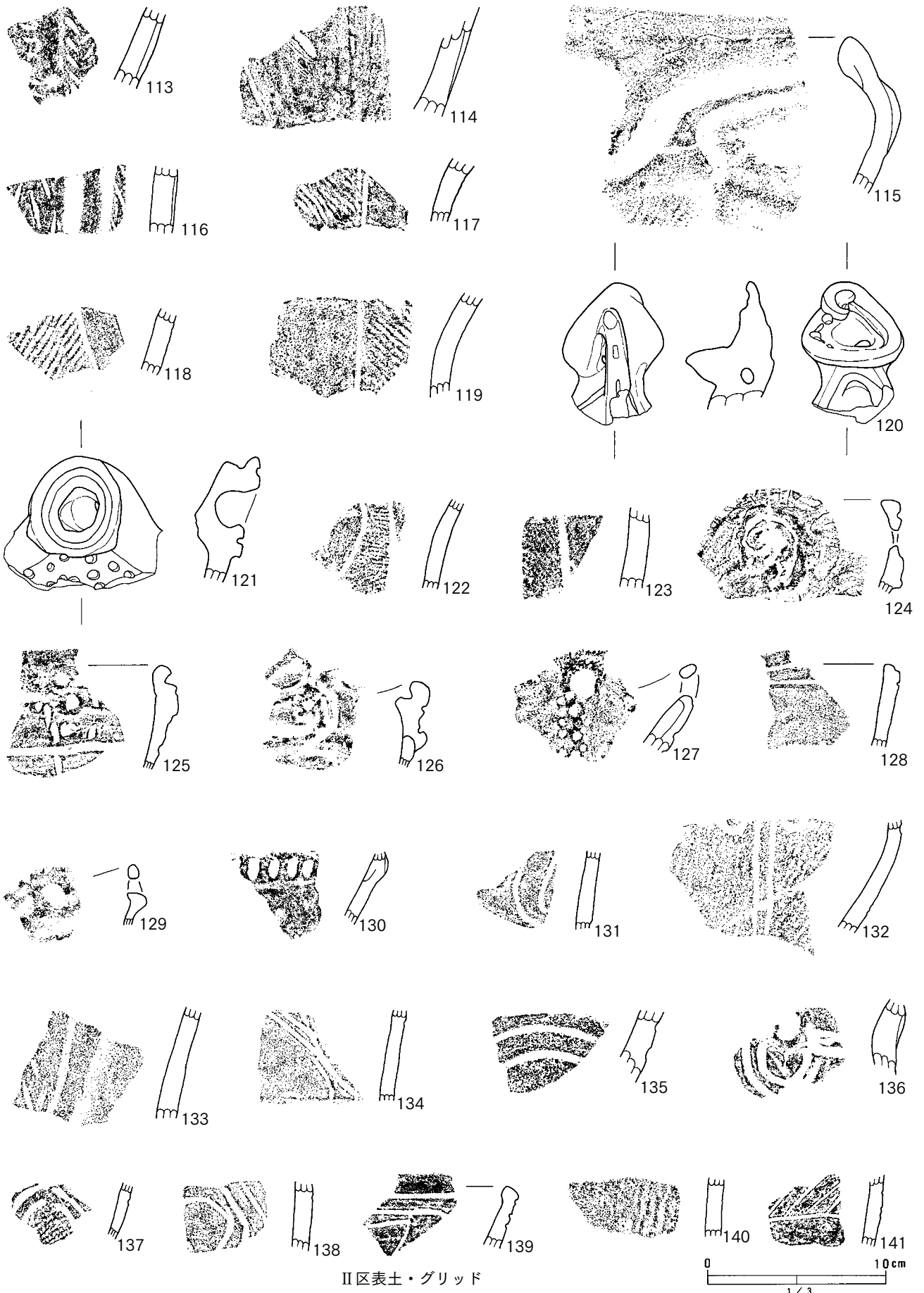
II区表土



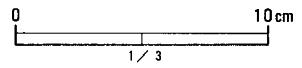
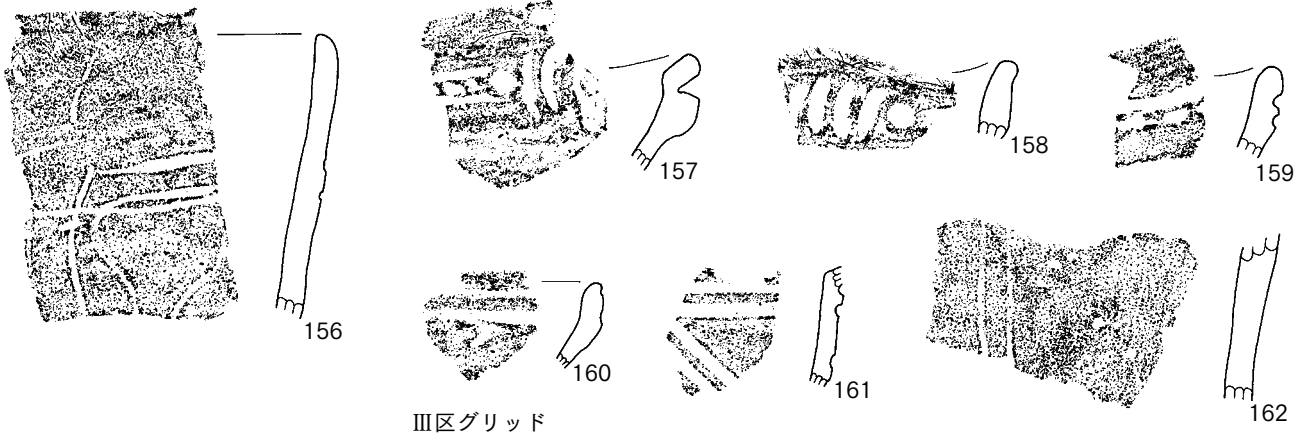
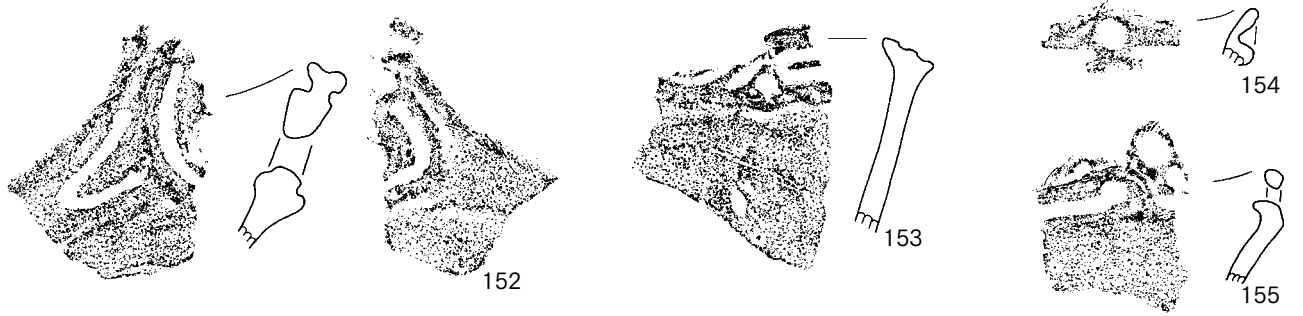
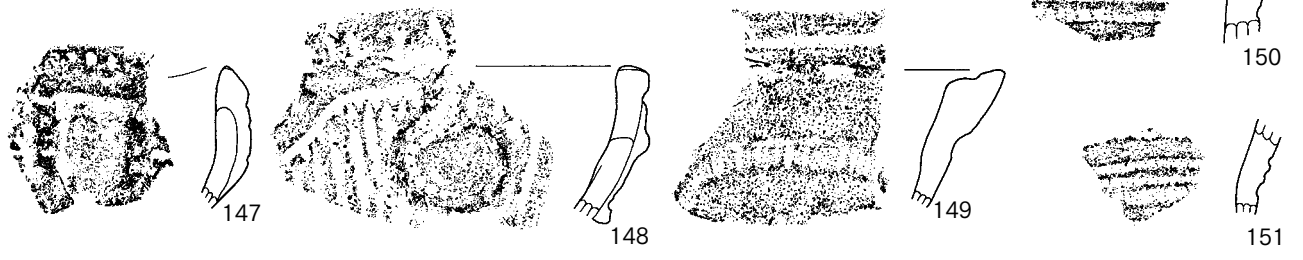
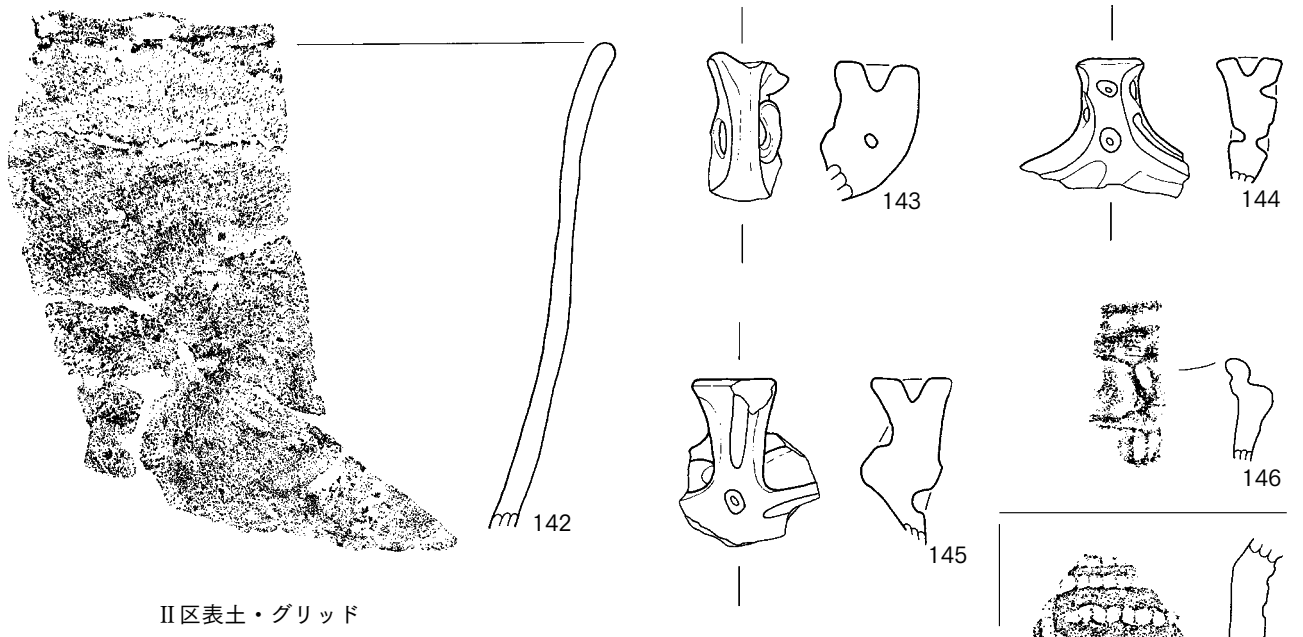
第44图 遺構外出土遺物(1)



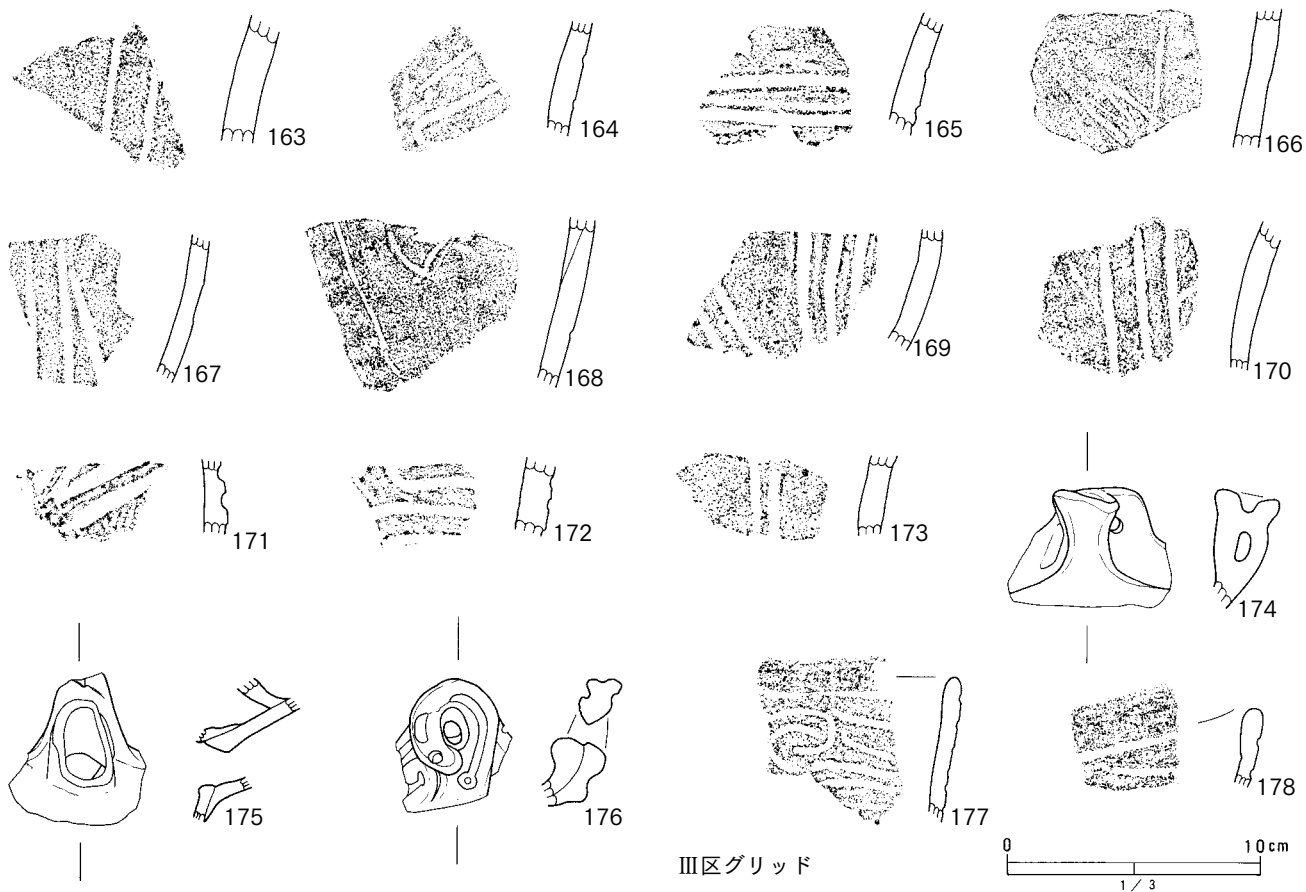
第45図 遺構外出土遺物(2)



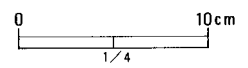
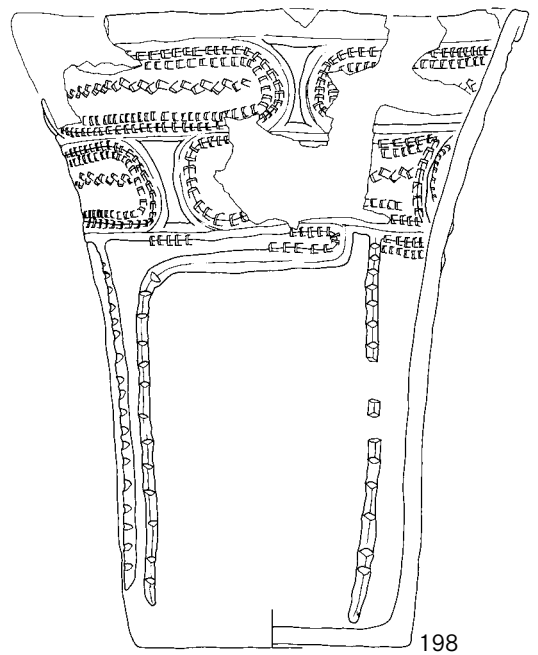
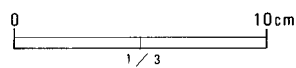
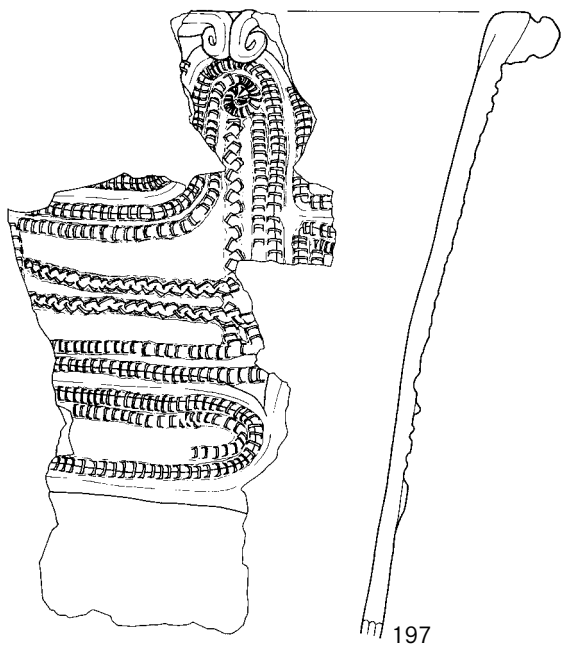
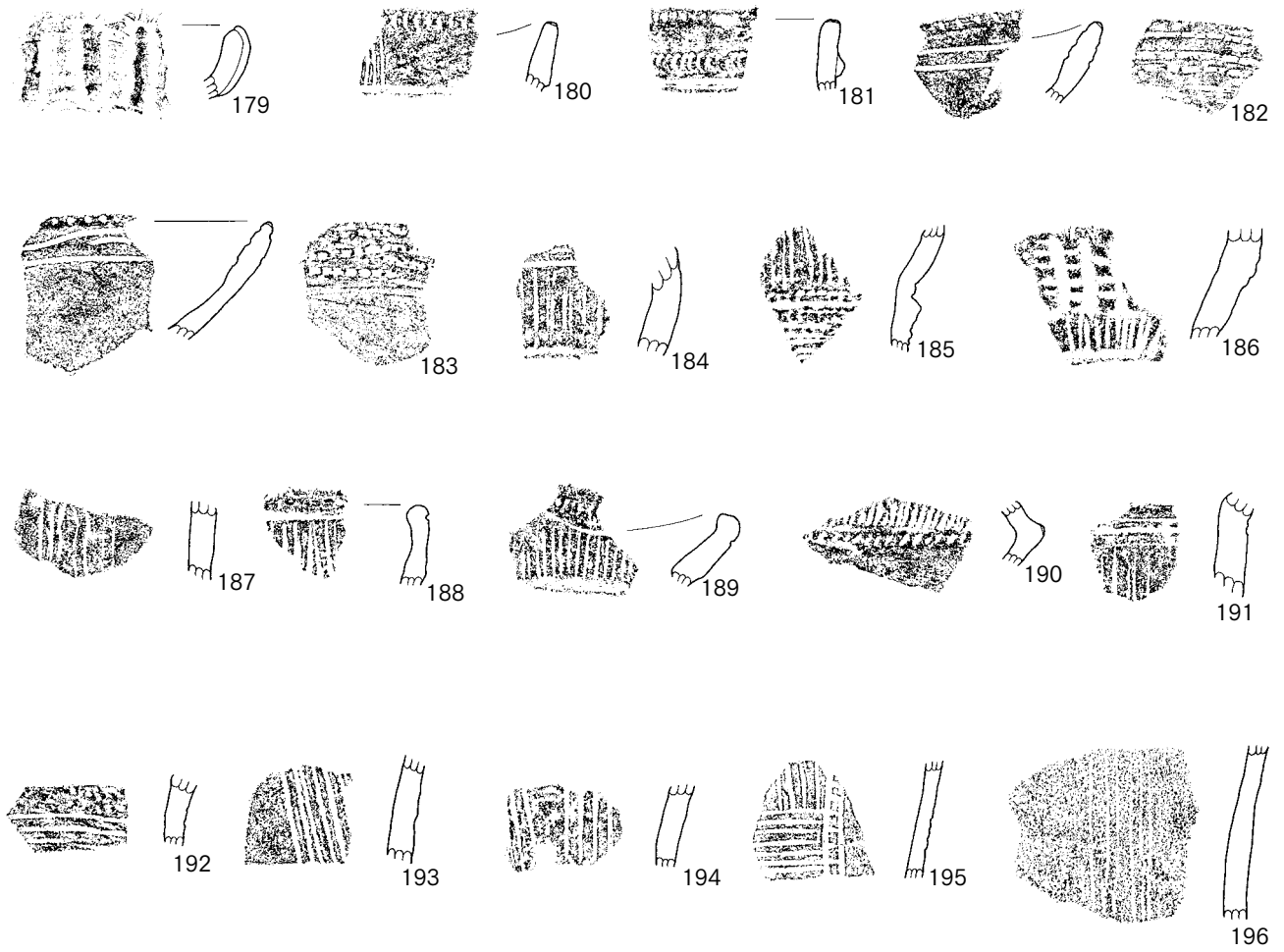
第46図 遺構外出土遺物(3)



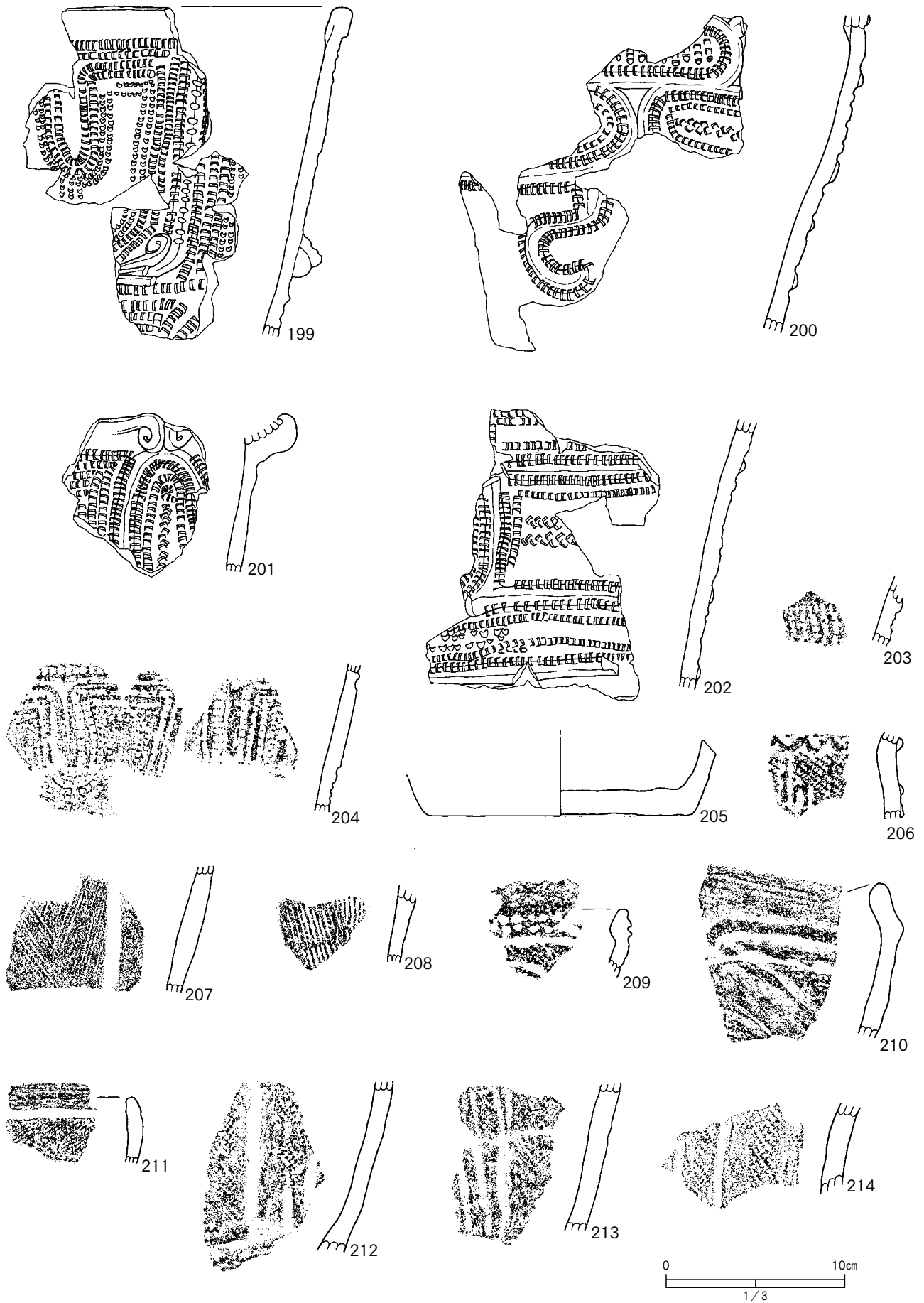
第47図 遺構外出土遺物(4)



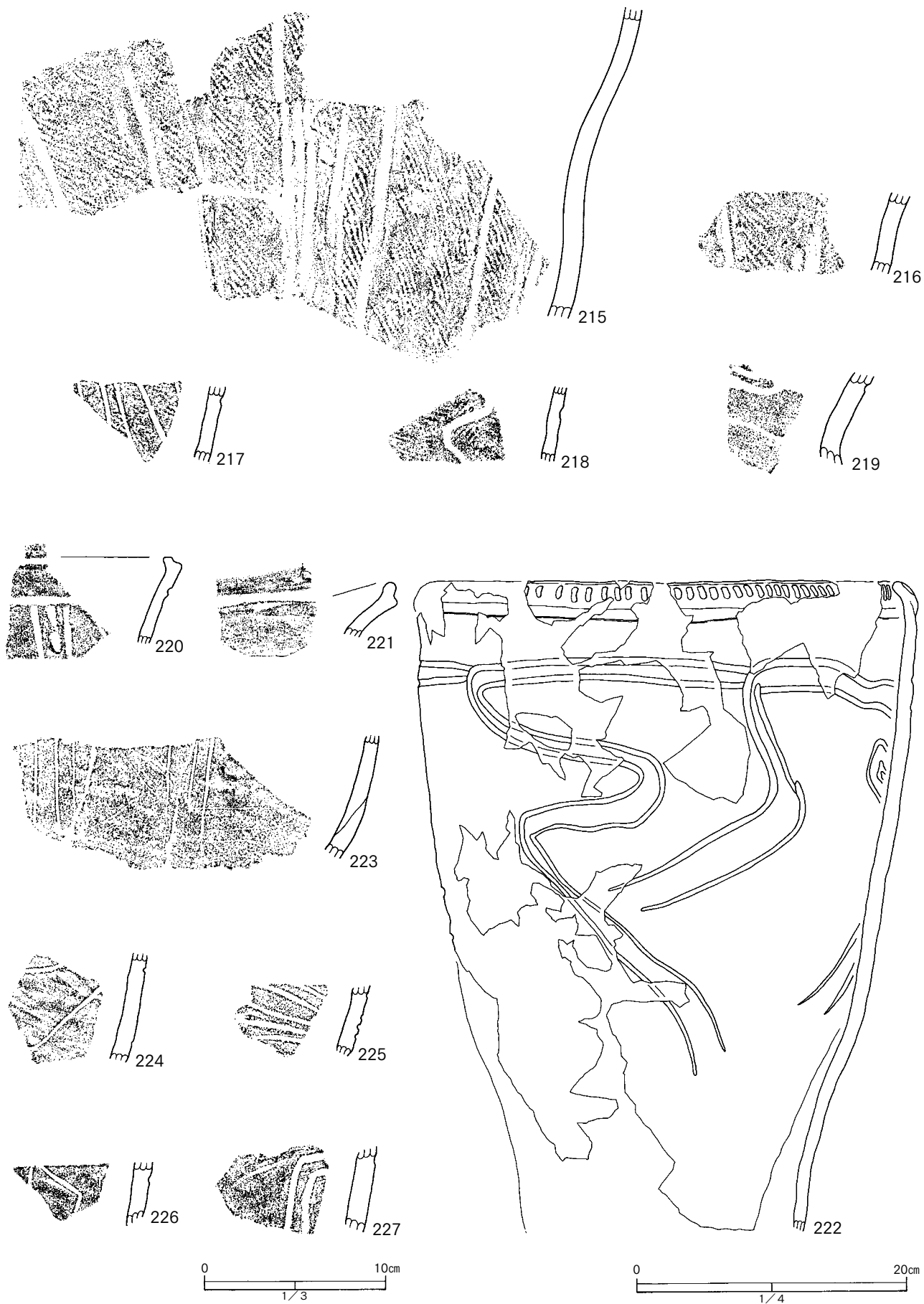
第48図 遺構外出土遺物(5)



第49図 試掘トレンチ出土遺物(1)



第50図 試掘トレンチ出土遺物(2)



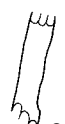
第51図 試掘トレンチ出土遺物(3)



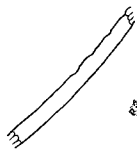
228



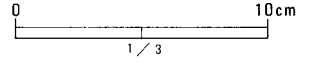
229



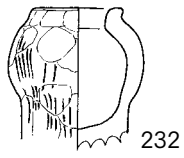
230



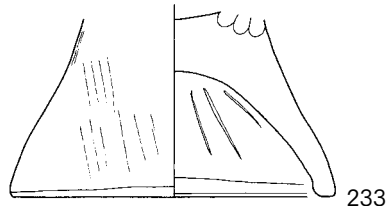
231



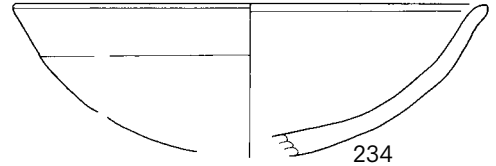
第52図 試掘トレンチ出土遺物(4)



232



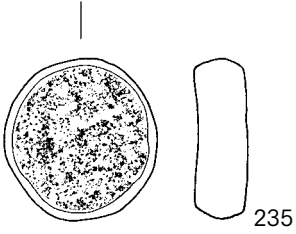
233



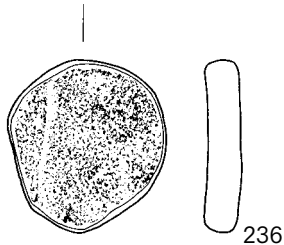
234

第12号土坑

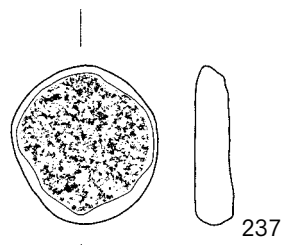
第19号土坑



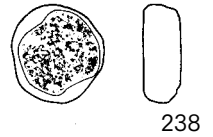
235



236

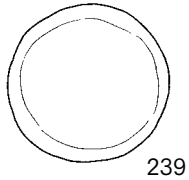


237

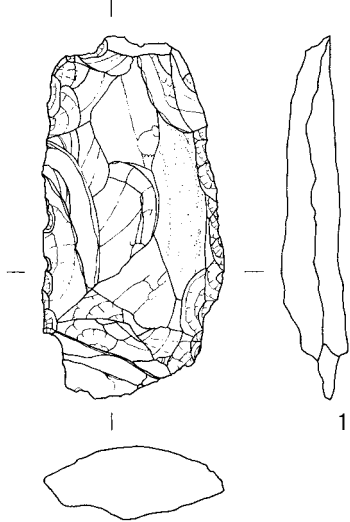
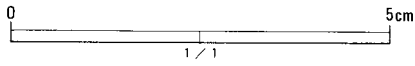
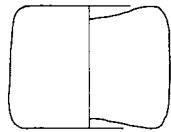


238

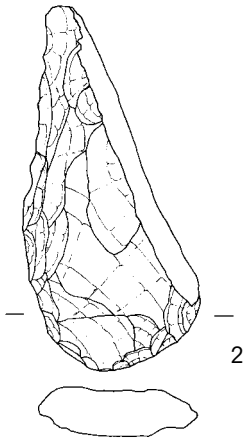
土製品



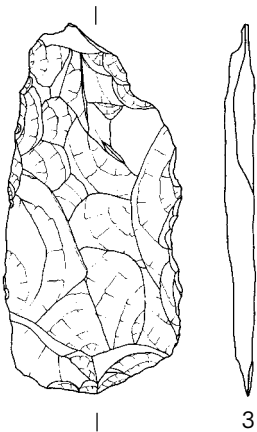
239



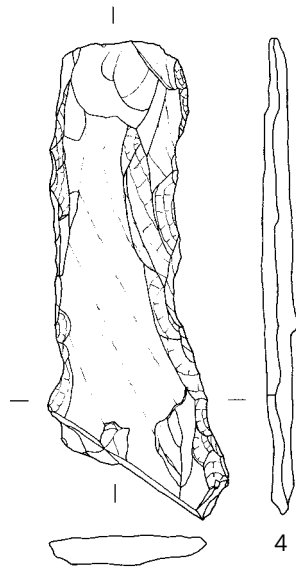
1



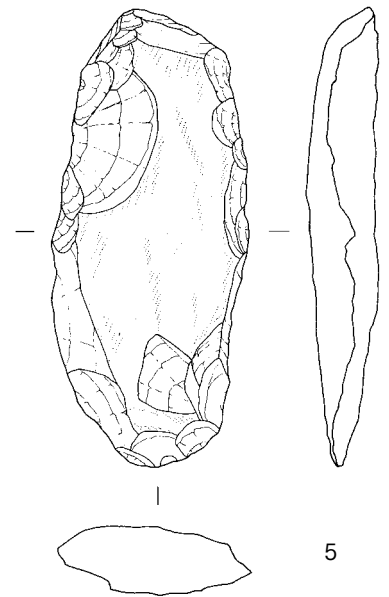
2



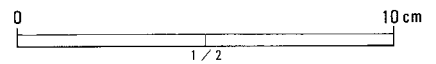
3



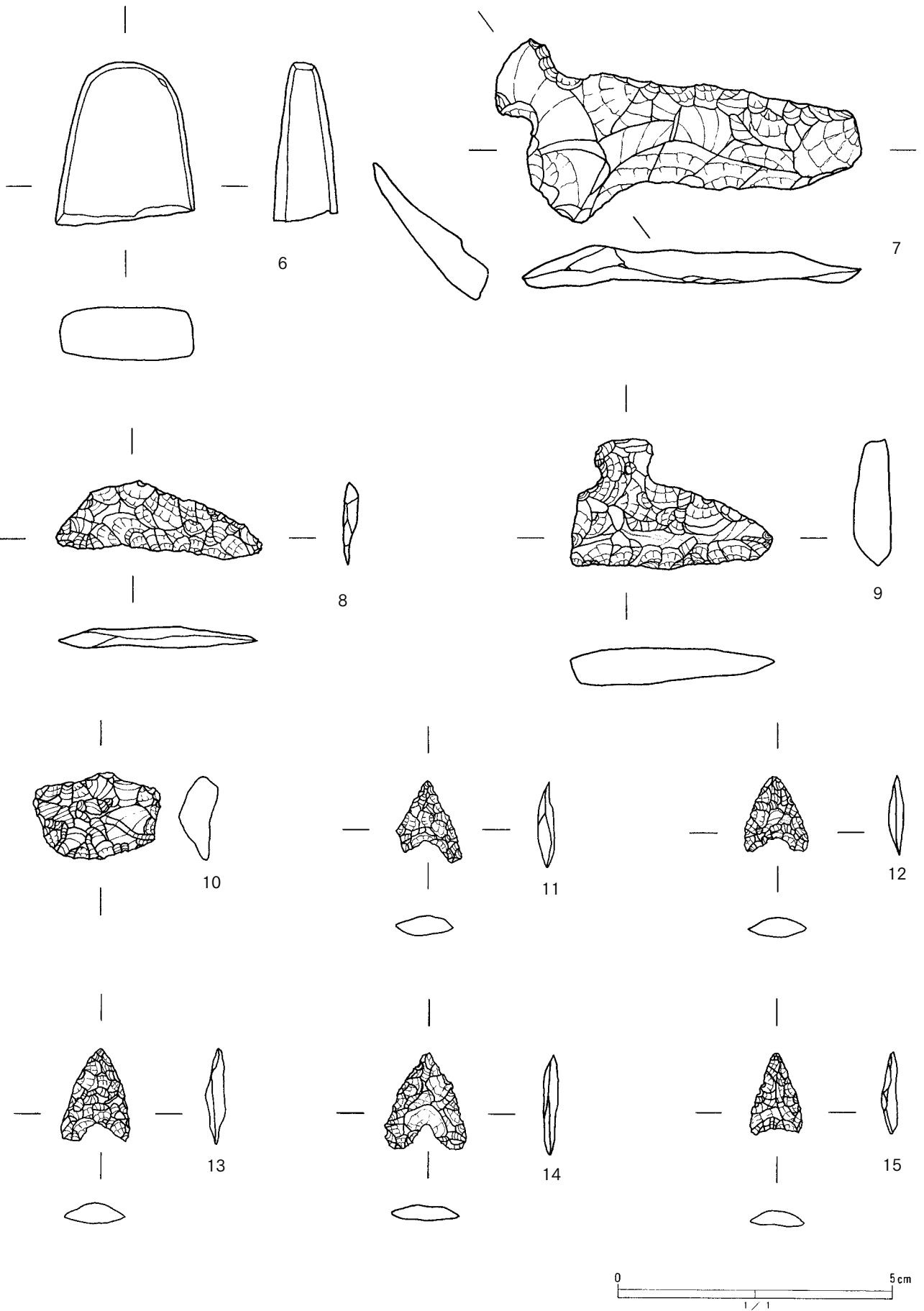
4



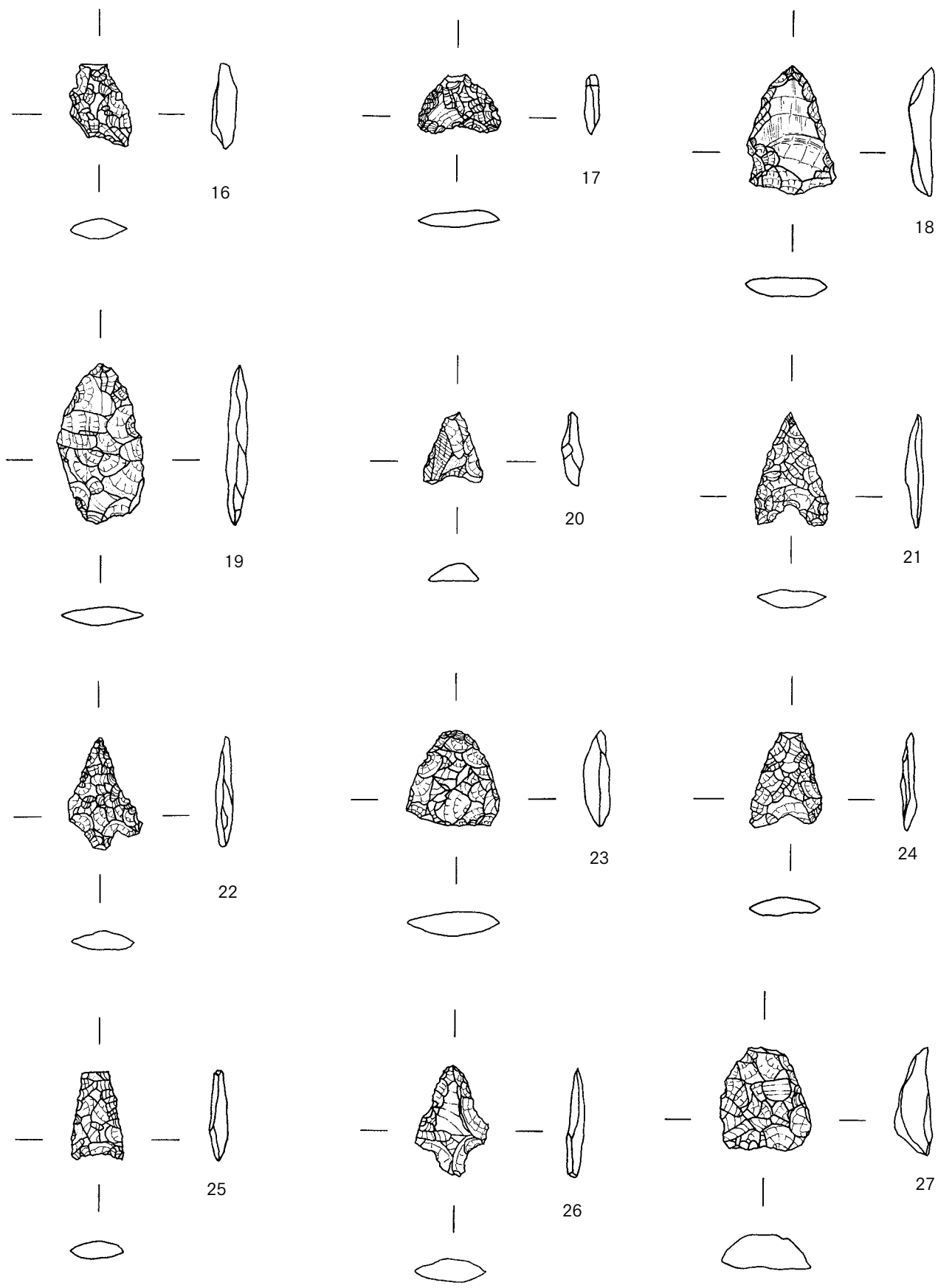
5



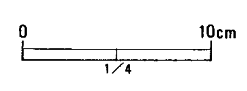
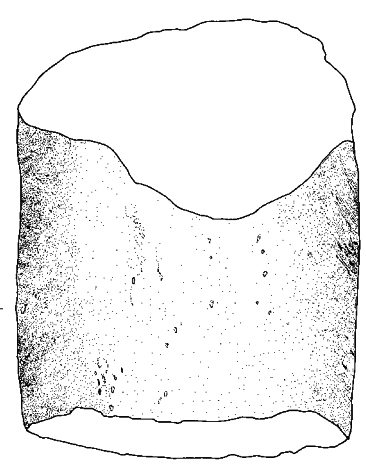
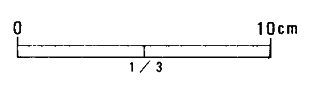
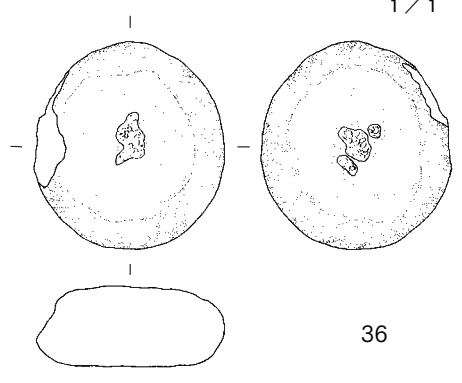
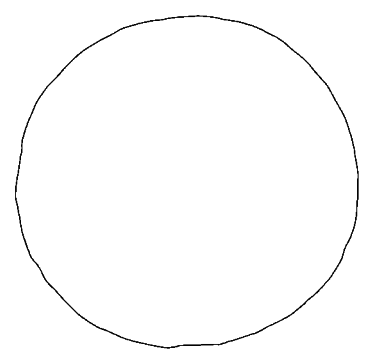
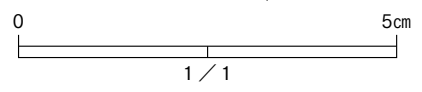
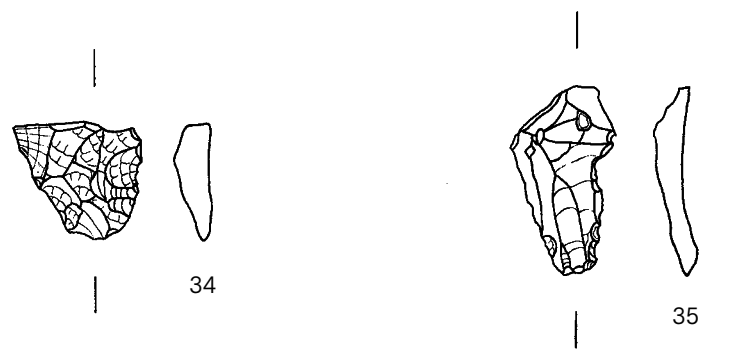
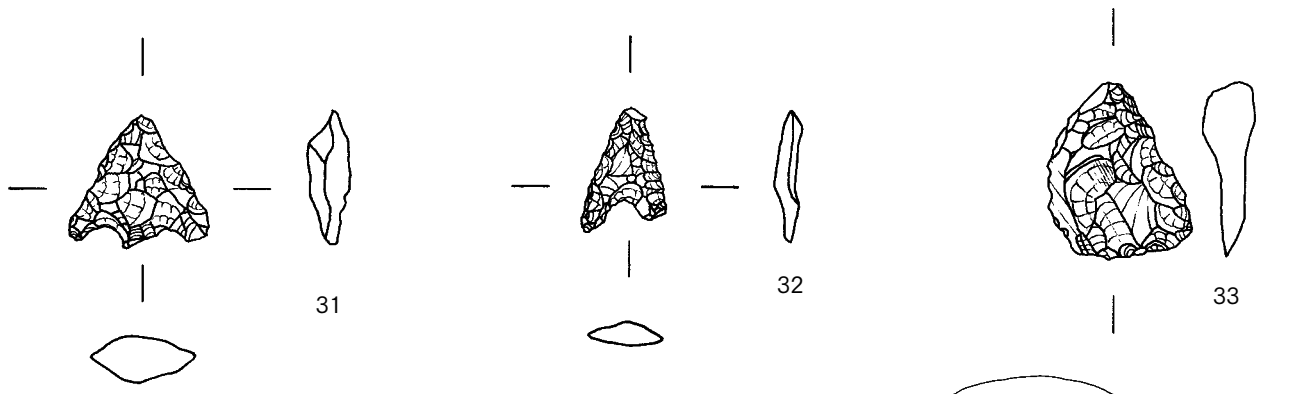
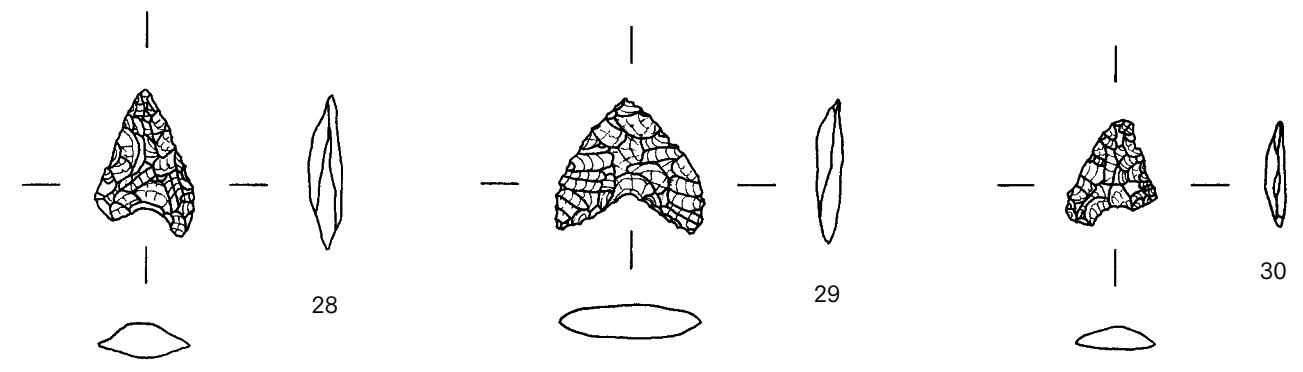
第53図 出土土器・土製品・石器(1)



第54图 出土石器(2)



第55图 出土石器(3)



第56图 出土石器(4)

第1表 土坑一覽表

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
1号土坑	16	D-44	不整円形	155	—	42	不明	
2号土坑	16	D-44	楕円形	112	78	53	不明	
3号土坑	16	D-44	不整長楕円形	66	45	35	不明	
4号土坑	16	E-43	不整楕円形	95	76	58	不明	
5号土坑	28	D-42 E-42	不整形	180	140	13	不明	
6号土坑	16	C-43	隅丸方形	150	128	30	不明	
7号土坑	16	C-43	不整楕円形	81	64	13	不明	
8号土坑	16	B-43	不整形	115	92	11	不明	
9号土坑	16	B-42	楕円形	125	93	23	不明	
10号土坑	16	C-42	不整楕円形	136	84	20	不明	
11号土坑	16	E-40 E-41	隅丸方形	101	88	21	不明	
12号土坑	17	D-36	円形	58	58	23	古墳	ミニチュア土器・台付甕出土
13号土坑	17・26	D-36	不整円形	95	80	22	不明	
14号土坑	17・26	D-36	不整楕円形	61	50	4	不明	
15号土坑	17・26	D-36	不整円形	67	58	20	不明	
16号土坑	17・26	D-36	不整円形	62	58	19	不明	
17号土坑	17・26	D-36	不整円形	100	83	26	縄文中期	
18号土坑	17・26	D-36	不整楕円形	57	44	21	不明	
19号土坑	17	E-36	不整長楕円形	—	44	12	古墳	高坏出土
20号土坑	18	E-35 E-36	円形	80	—	30	不明	
21号土坑	18	D-34	不整形	83	83	66	不明	
22号土坑	18	C-16	円形	68	68	31	不明	
23号土坑	18	C-17	楕円形	75	56	14	不明	
24号土坑	18	C-16 C-17	楕円形	70	61	11	不明	
25号土坑	18	C-17 C-18	不整円形	89	89	12	不明	
26号土坑	18	C-18	不整形	112	—	35	不明	
27号土坑	19	D-8 E-8	円形	132	120	31	不明	
28号土坑	19	D-8 D-9	円形	107	102	44	不明	
29号土坑	19	D-9	円形	128	122	69	縄文中期初頭 ～後期前葉	五領ヶ台Ⅱ式古 曾利Ⅱ～Ⅳ式 称名寺式 堀之内Ⅰ式
30号土坑	19	D-8 D-9	円形	127	122	92	縄文中期後半 ～後期前葉	加曾利E4式 堀之内Ⅰ式 石棒
31号土坑	19	D-8	不整円形	151	118	59	不明	
32号土坑	20	D-8	楕円形	74	—	12	不明	
33号土坑	20	D-8	楕円形	88	—	9	不明	
34号土坑	20	D-8	楕円形	64	49	12	不明	
35号土坑	20	D-7	楕円形	71	57	25	不明	
36号土坑	20	D-7	円形	80	71	25	不明	
37号土坑	20	D-7 D-8	楕円形	132	101	22	縄文中期初頭	五領ヶ台式
38号土坑	20	D-7	不整円形	166	138	54	縄文中期初頭 ～後期前葉	五領ヶ台Ⅰ式新～Ⅱ式古 堀之内Ⅰ式
39号土坑	15	D-6 D-7	不整形	135	97	52	縄文中期初頭	五領ヶ台Ⅱ式古
40号土坑	19	C-9 D-9	不整楕円形	183	127	60	縄文後期前葉	堀之内Ⅰ式
41号土坑	21	E-11	不整形	177	75	33	不明	
42号土坑	21	E-11	不整形	90	89	8	不明	

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
43号土坑	21	E-11 E-12 F-11 F-12	円形	130	120	59	縄文後期前葉	堀之内1式
44号土坑	21	E-12	円形	123	109	30	不明	
45号土坑	21	E-13	円形	145	121	54	不明	
46号土坑	13	D-14	円形	89	85	70	不明	
47号土坑	22	E-10	楕円形	103	87	44	不明	
48号土坑	22	E-10	楕円形	133	114	72	不明	
49号土坑	22	E-10	楕円形	74	62	30	縄文中期後半	加曾利E4式
50号土坑	22・23	D-11 D-12	不整形	257	131	79	縄文中期後半	曾利V式 加曾利E4式 土製円盤
51号土坑	21	D-12 E-12	不整形	146	113	77	縄文中期初頭 ～後期前葉	五領ヶ台II式 堀之内式
52号土坑	21	D-13	円形	78	74	25	縄文中期後半	加曾利E4式
53号土坑	24	C-29	楕円形	133	120	55	不明	
54号土坑	24	C-30 C-31	楕円形	140	105	37	不明	
55号土坑	24	C-29 D-29	楕円形	77	65	47	不明	
56号土坑	24	C-29 D-29	不整長方形	120	—	39	縄文後期前葉	堀之内式
57号土坑	24	E-11	円形	95	92	20	不明	
58号土坑	24	D-31 D-32	円形	50	47	43	縄文中期中葉	貉沢式
59号土坑	36	E-8	楕円形	140	124	82	不明	
60号土坑	36	E-7	楕円形	86	74	33	不明	

第2表 PIT一覧表

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
1号PIT	16	C-43	円形	33	33	23		
2号PIT	16	C-43	円形	33	32	27		
3号PIT	16	C-43	楕円形	31	23	26		
4号PIT		C-43	円形	35	35	18		
5号PIT		C-42C-43	不整楕円形	53	42	14		
6号PIT		C-43	楕円形	25	20	10		
7号PIT		B-44	円形	44	40	11		
8号PIT		B-43 B-44	楕円形	44	31	10		
9号PIT		B-43 B-44	楕円形	37	35	10		
10号PIT	16	B-43 B-44	不整形	37	24	11		
11号PIT		B-43	円形	32	32	17		
12号PIT		B-43	隅丸長方形	56	40	9		
13号PIT		B-43	楕円形	45	37	16		
14号PIT		B-42	円形	35	35	18		
15号PIT		B-42	楕円形	30	25	12		
16号PIT		B-41	楕円形	30	23	10		
17号PIT		B-40	楕円形	46	40	19		
18号PIT		B-40	楕円形	49	41	12		
19号PIT	25	D-40	楕円形	39	27	5		
20号PIT	25	D-40	楕円形	35	30	5		
21号PIT	17・26	D-36	楕円形	38	33	14		
22号PIT	17・26	D-36	楕円形	35	28	7		
23号PIT	26	D-35 D-36	円形	32	30	14		
24号PIT	17・26	D-36	不整形	48	34	12		

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
25号PIT	27・29	D-34	円形	60	58	48		
26号PIT	27・29	D-34	円形	41	41	47		
27号PIT	27・29	D-34	楕円形	41	35	41		
28号PIT	29	D-33	円形	58	54	44		
29号PIT		D-32 D-33	楕円形	77	61	37		
30号PIT		D-32 D-33	不整円形	54	50	35		
31号PIT		D-32	楕円形	24	23	46		
32号PIT		C-32D-32	円形	63	59	45		
33号PIT		D-32	円形	33	31	41		
34号PIT		D-32	楕円形	50	44	46		
35号PIT		D-32	円形	34	32	42		
36号PIT		D-32	円形	33	29	38		
37号PIT		D-32	不整円形	42	39	25		
38号PIT		D-32	円形	53	48	46		
39号PIT		D-32	円形	60	55	51		
40号PIT		D-32	楕円形	72	63	56		
41号PIT		D-32	楕円形	52	43	49		
42号PIT		D-31	円形	35	35	40		
43号PIT		D-31	円形	38	37	41		
44号PIT		D-31	円形	34	30	52		
45号PIT		D-31	円形?	37	—	45		
46号PIT		D-31	楕円形?	—	50	48		
47号PIT		D-31	楕円形	44	37	52		
48号PIT		D-31	円形	40	40	30		
49号PIT		D-31 E-31	不整形?	—	40	23		
50号PIT		C-32	円形	57	54	29		
51号PIT		C-32	楕円形	60	52	38		
52号PIT		C-32	円形	55	55	39		
53号PIT		C-32	円形	45	46	38		
54号PIT		C-32	円形	35	35	33		
55号PIT		B-32	円形	47	43	33		
56号PIT		C-32	円形	30	30	17		
57号PIT	24	C-31	円形	34	33	39		
58号PIT	24	C-31	円形	75	73	33		
59号PIT	24	C-31	円形	37	36	33		
60号PIT		D-33	楕円形	40	30	34		暗渠
61号PIT		D-32 D-33	楕円形	36	28	38		暗渠
62号PIT	29	E-31	不整楕円形	122	84	42		暗渠
63号PIT		C-30	楕円形	60	40	25		
64号PIT		C-30	円形	41	38	31		
65号PIT		C-30	楕円形	66	55	36		
66号PIT		C-30	楕円形	35	28	39		
67号PIT		C-30	楕円形	46	40	34		
68号PIT		C-30	不整形	103	65	50		
69号PIT		C-30	隅丸長方形	50	38	33		
70号PIT		C-30	隅丸方形	49	45	37		
71号PIT		C-29	楕円形	38	35	41		
72号PIT		C-29	円形	41	39	34		
73号PIT	24	C-29	円形	33	30	13		
74号PIT	24	C-29	円形	32	30	33		
75号PIT	24	C-29	楕円形	54	50	41		
76号PIT	24	C-29	円形	30	29	32		

遺構名	図版番号	位置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時期	備考
77号PIT		C-29	円形	37	35	32		
78号PIT		C-29	楕円形	60	49	38		
79号PIT		D-30	円形	61	58	42		
80号PIT		D-29	円形	56	53	42		
81号PIT	24	D-29	楕円形	51	44	38		
82号PIT		D-29	円形	35	35	24		
83号PIT	24	D-29	円形	46	42	28		
84号PIT		D-29	円形	22	20	29		
85号PIT		D-29	円形	56	56	25		
86号PIT	13	D-14 E-14	円形	42	42	29		
87号PIT	22	D-12	楕円形	66	51	26		
88号PIT	22	D-12	円形	45	42	19		
89号PIT	21	D-12	楕円形	60	52	13		
90号PIT	21	D-12	楕円形	41	35	27		
91号PIT	21	D-12	円形	31	30	27		
92号PIT		E-11	円形	41	41	48		
93号PIT	22	E-10	楕円形	56	51	14		
94号PIT	22	E-10 F-10	楕円形	61	58	25		
95号PIT	22	E-10	楕円形	58	40	33		
96号PIT	22	E-10	楕円形	31	27	50		
97号PIT	22	E-10	円形	52	50	50		
98号PIT	22	E-10	隅丸方形	43	43	52		
99号PIT	22	E-10	楕円形	51	44	49		
100号PIT	22	E-10	楕円形	65	53	30		
101号PIT		F-11	楕円形	20	16	16		
102号PIT		F-10	楕円形	24	20	20		
103号PIT		F-10	楕円形	66	58	14		
104号PIT		F-10	楕円形	106	66	25		
105号PIT		F-10	不整形	—	106	36		
106号PIT		F-10	楕円形	25	9	20		
107号PIT		F-10 F-11	楕円形	90	—	20		
108号PIT	36	E-8 E-9	不整形	—	—	33		

第3表 出土土器観察表 (() は推定復元値)

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
38	1	Ⅱ区1住	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・石英・金雲母	後期前葉堀之内2式
38	2	Ⅱ区2住	縄文	縄文前	深鉢	—/—/—	押引文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	前期後半諸磯式
38	3	Ⅱ区2住	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	頸部に刺突文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
38	4	Ⅱ区2住	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
38	5	Ⅱ区2住	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	押引文	にぶい赤褐色 赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
38	6	Ⅱ区29土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位縦位の沈線	暗褐色 白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
38	7	Ⅱ区29土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	X字状把手 縦位条線	暗褐色 白色粒子・石英・長石・金雲母	中期後半曾利Ⅱ～Ⅲ式
38	8	Ⅱ区29土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	条線	暗褐色 白色粒子・石英・長石・金雲母	中期後半曾利Ⅳ式
38	9	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子	後期初頭称名寺式
38	10	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	(32) /—/—	沈線 充填縄文	暗褐色 白色粒子・石英・長石	後期初頭称名寺式 P-1・3
38	11	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 波頂部に孔有り 沈線 充填縄文	にぶい黄褐色 白色粒子	後期初頭称名寺式 P-5
38	12	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 刺突文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
38	13	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
38	14	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	口縁内面に孔有り 沈線 刺突文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
38	15	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 貼付文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
38	16	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
38	17	Ⅱ区29土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
38	18	Ⅱ区30土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半加曽利E4式 P-1
38	19	Ⅱ区30土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
38	20	Ⅱ区30土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・石英・長石	後期前葉堀之内1式
38	21	Ⅱ区37土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 沈線 縄文	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子	中期初頭五領ケ台式
39	22	Ⅱ区38土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線 隆帯に爪形文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台I式新～II式古 P-1
39	23	Ⅱ区38土	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線 内面に押し引文	にぶい赤褐色 白色粒子・黒色粒子・石英	中期初頭五領ケ台I式新～II式古
39	24	Ⅱ区38土	縄文	縄文中	深鉢	—/11.0/—	押し引文 半載竹管文による横位沈線 懸垂文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・長石	中期初頭五領ケ台II式新 P-6・7・11
39	25	Ⅱ区38土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 充填縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
39	26	Ⅱ区38土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・石英・長石	後期前葉堀之内式
39	27	Ⅱ区38土	縄文	縄文後	注口	—/—/—		橙色 白色粒子・赤色粒子・石英・長石	後期前葉堀之内式
39	28	Ⅱ区38土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・石英	後期前葉堀之内式
39	29	Ⅱ区39土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	押し引文 横位沈線	暗褐色 白色粒子・金雲母・石英	中期初頭五領ケ台II式古 P-35
39	30	Ⅱ区39土	縄文	縄文後	深鉢	33/12/47.5	口唇部にきざみ 格子目文 Y字状隆帯端部に結節沈線がめぐる	にぶい赤褐色 白色粒子・金雲母・長石	中期初頭五領ケ台II式 P-1・2・3・10・13・14・19・22・24・30・31・32
40	31	Ⅱ区40土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯 沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・石英・長石	後期前葉堀之内1式
40	32	Ⅱ区43土	縄文	縄文後	深鉢	—/6.0/—	沈線	黒色 白色粒子・金雲母・石英・長石	後期前葉堀之内1式
40	33	Ⅱ区49土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文	暗褐色 白色粒子・長石	中期後半加曽利E4式 P-1
40	34	Ⅱ区49土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・金雲母・長石	中期後半加曽利E4式 P-4
40	35	Ⅱ区50土	縄文	縄文中	深鉢	30.0/—/26.5	隆帯 縄文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半加曽利E式
40	36	Ⅱ区50土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半加曽利V式
40	37	Ⅱ区50土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	中期後半加曽利V式
40	38	Ⅱ区50土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	
40	39	Ⅱ区51土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・石英	中期初頭五領ケ台II式
40	40	Ⅱ区51土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内式
40	41	Ⅱ区51土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・黒色粒子・石英	後期前葉堀之内式
41	42	Ⅱ区52土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	中期後半加曽利E4式
41	43	Ⅲ区56土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯に刺突文 沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内式
41	44	Ⅲ区58土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文 貼付文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期中葉落沢式 P-2
41	45	Ⅲ区58土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期中葉落沢式 P-1
41	46	Ⅱ区3号集石	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母・石英	中期後葉 P-2
42	47	Ⅱ区土器集中	縄文	縄文中	深鉢	(28.4) /13.6/ (43.2)	半載竹管文による縦横位沈線 貼付文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台I式新～II式古 P-22・23・24

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
42	48	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	29.6/14.9/40.1	口唇部にきざみ 半載竹管文による縦横位沈線 貼付文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅰ式新～Ⅱ 式古 P-21・23
42	49	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・黒色 粒子・石英	中期初頭五領ケ台Ⅰ式新
42	50	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 結節縄文 半載竹管文による縦横位沈線	にぶい褐色 白色粒子	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-3
42	51	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 押引文 半載竹管文による平行沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-21
42	52	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 隆帯上に押引文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金 雲母・石英	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
42	53	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	渦巻き状押引文 沈線 刺突 文 貫通孔有り	にぶい赤褐色 白色粒子・石英・ 金雲母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
42	54	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	黒褐色 白色粒子・石英・金雲 母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	55	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 内面に押引文 外面に沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・石 英・金雲母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	56	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 沈線 刺突文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	57	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 縄文 頸部 に横位沈線 交互刺突文 結節縄文	にぶい赤褐色 白色粒子・石英・ 金雲母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	58	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金 雲母・石英	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	59	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文 交互刺突文 結 節縄文	赤褐色 白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
43	60	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	平行沈線	暗褐色 白色粒子・金雲母・長 石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-15
43	61	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・金雲母・長 石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-24
43	62	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/17.0/—	沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母・石英・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-22
43	63	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文中	深鉢	—/12.6/—		にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母・長石	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古 P-11
43	64	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 縄文	にぶい赤褐色 白色粒子・黒色 粒子・金雲母	後期前葉堀之内Ⅰ式
43	65	Ⅱ区 土器集中	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母・石英	後期初頭粗製土器 P-18
44	66	Ⅰ区 表土	縄文	縄文前	深鉢	—/—/—	押圧隆帯	赤褐色 白色粒子・黒色粒子・ 石英	前期終末十三菩提式
44	67	Ⅰ区 表土	縄文		深鉢	—/ (9.8) /—		赤褐色 白色粒子・黒色粒子・ 石英	時期不明
44	68	Ⅰ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい赤褐色 黒色粒子・石英・ 金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	69	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	押引文 沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・金雲 母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	70	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 縄文 刺突 文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
44	71	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線 縄文	暗赤褐色 白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
44	72	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
44	73	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	三叉文	にぶい赤褐色 白色粒子・黒色 粒子	中期中葉井戸尻式
44	74	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯上にきざみ	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母	中期中葉井戸尻式
44	75	Ⅰ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 きざみ 沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期中葉
44	76	Ⅰ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文	にぶい赤褐色 白色粒子・黒色 粒子・金雲母	中期中葉井戸尻式
44	77	Ⅰ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子	中期後半加曽利E式
44	78	Ⅰ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯に刺突文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子	後期前葉堀之内式
44	79	Ⅰ区 表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	赤褐色 白色粒子・黒色粒子・ 金雲母	後期前葉堀之内Ⅱ式
44	80	Ⅱ区	縄文	縄文前	深鉢	—/—/—	浮線文 結節浮線文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子	縄文前期終末
44	81	Ⅱ区	縄文 前?		深鉢	—/—/—	押引文 沈線	褐色 白色粒子・金雲母・石英	前期～中期初頭?

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
44	82	Ⅱ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縦位沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子 石英・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅰ式
44	83	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅰ式
44	84	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文 結節縄文	赤褐色 白色粒子・金雲母・長 石	中期初頭五領ケ台Ⅰ式
44	85	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯に爪形文 沈線 刺突文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅰ式
44	86	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	(28.5) /—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 押引文 沈線 把手有り	黒褐色 白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	87	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 押引文	褐色 白色粒子・赤色粒子 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	88	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・金雲母・石英	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	89	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色・白色粒子・黒色 粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
44	90	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 隆帯に爪形文 口 唇部にきざみ 波頂部内面に孔有り	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式中
45	91	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 押引文	褐色 白色粒子・赤色粒子 ・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式中
45	92	Ⅱ区 Ⅰ区表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 口縁部にきざみ 貼付 文	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	93	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線 縄文 刺突文 隆帯	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	94	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	95	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 貼付文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	96	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ(不明瞭) 沈 線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	97	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 押引文 縄 文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	98	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	99	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	100	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/ (13.8) /—	縄文	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式新
45	101	Ⅱ区 E-7	縄文	縄文中	深鉢	—/13.0/—	縄文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母・長石	中期初頭五領ケ台式
45	102	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・金雲母・石英	中期初頭五領ケ台式
45	103	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ケ台式
45	104	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台式
45	105	Ⅱ区	縄文	縄文中	?	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子	中期中葉～中期後葉
45	106	Ⅱ区 E-23	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—		にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅰ～Ⅱ式
45	107	Ⅱ区 D-10	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	条線 隆帯 波状隆帯	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色 粒子・石英	中期後半曾利Ⅱ式
45	108	Ⅱ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 ハの字文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金 雲母	中期後半曾利Ⅴ式
45	109	Ⅱ区 D-10	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	にぶい橙色 白色粒子・赤色粒 子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
45	110	Ⅱ区	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 ハの字文	褐色 白色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
45	111	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	にぶい橙色 白色粒子・赤色粒 子・石英	中期後半曾利Ⅴ式
45	112	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
46	113	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
46	114	Ⅱ区 D-10	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 隆帯	明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
46	115	Ⅱ区 D-6	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 隆帯	浅黄色 白色粒子	中期後半曾利Ⅳ式新併行加曾 利E式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
46	116	Ⅱ区 表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 沈線	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・石英・金雲母	中期後半曾利V式
46	117	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	橙色 白色粒子・赤色粒子・石 英	中期後半曾利V式新併行加曾 利E式
46	118	Ⅱ区 E-10	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・長 石	中期後半加曾利E4式
46	119	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・長 石	中期後半加曾利E4式
46	120	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		明赤褐色 白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英	後期初頭称名寺式
46	121	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	刺突文	におい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母	後期初頭称名寺式
46	122	Ⅱ区 C-12	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	充填縄文 沈線	褐色 白色粒子・長石	後期初頭称名寺式
46	123	Ⅱ区 E-23	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	におい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子	後期初頭称名寺式
46	124	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
46	125	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	形骸化した8の字文 沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	後期前葉堀之内1式
46	126	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	刺突文 沈線	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式
46	127	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	貫通孔有り 隆帯に刺突文	明褐色 白色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
46	128	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	におい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母	後期前葉堀之内1式
46	129	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式
46	130	Ⅱ区 -10	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	きざみ	褐色 白色粒子・赤色粒子・石 英	後期前葉堀之内1式 P-1
46	131	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	におい黄褐色 白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
46	132	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	におい黄褐色 白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
46	133	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 内面に煤付着	褐色 白色粒子・黒色粒子・赤 色粒子	後期前葉堀之内1式
46	134	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	におい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・石英	後期前葉堀之内1式
46	135	Ⅱ区 C-12	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 石英・長石	後期前葉堀之内1式
46	136	Ⅱ区 表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 隆帯	黄褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
46	137	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 長石	後期前葉堀之内1式
46	138	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
46	139	Ⅱ区 D-11	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	黒色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内2式
46	140	Ⅱ区 E-20	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文	褐色 白色粒子	後期前葉堀之内式
46	141	Ⅱ区 E-23	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	におい赤褐色 白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内式
47	142	Ⅱ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	口唇部に指頭圧痕有り	明褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内式粗製土器
47	143	Ⅱ区	縄文	縄文後	注口	—/—/—		灰黄褐色 白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子・石英・金雲母	後期初頭称名寺式
47	144	Ⅱ区	縄文	縄文後	注口	—/—/—		褐色 白色粒子・黒色粒子・赤 色粒子・石英	後期初頭称名寺式
47	145	Ⅱ区 C-20	縄文	縄文後	注口	—/—/—		におい黄褐色 白色粒子・黒色 粒子・赤色粒子・金雲母	後期前葉堀之内式
47	146	Ⅱ区 D-20	縄文	縄文後	注口?	—/—/—	波状口縁	におい褐色 白色粒子・赤色粒 子・石英	後期前葉堀之内1式
47	147	Ⅲ区 C-32	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 隆帯 刺突文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台式
47	148	Ⅲ区 D-32・33	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 隆帯 押引 文 沈線 刺突文	におい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母・石英	中期初頭五領ヶ台式
47	149	Ⅲ区 D-34	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	爪形文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子	
47	150	Ⅲ区 E-32	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文	明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	中期中葉貉沢式

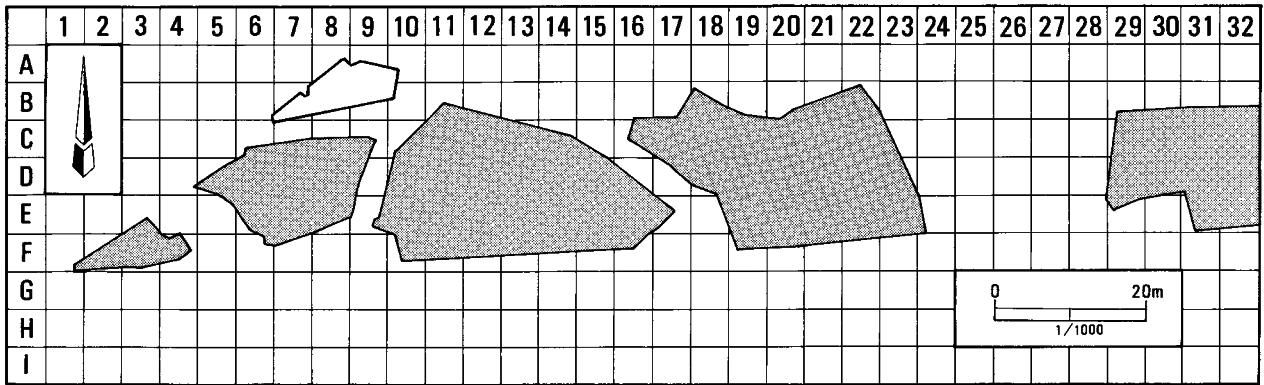
図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
47	151	Ⅲ区 C-41	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文	にぶい褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期中葉澁式
47	152	Ⅲ区 E-31	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	後期前葉堀之内1式
47	153	Ⅲ区 E-32	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
47	154	Ⅲ区 E-32	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
47	155	Ⅲ区 C-29	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
47	156	Ⅲ区 C-29・30	縄文	縄文後	注口	—/—/—	沈線	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
47	157	Ⅲ区 D-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 刺突文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
47	158	Ⅲ区 E-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
47	159	Ⅲ区 C-29*	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 刺突文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
47	160	Ⅲ区 D-34	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内式?
47	161	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
47	162	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	後期前葉堀之内1式
48	163	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	164	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	165	Ⅲ区 C・D-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	166	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式 P-2
48	167	Ⅲ区 D-29	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	168	Ⅲ区 C-29	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	169	Ⅲ区	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	170	Ⅲ区 D-29	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	後期前葉堀之内1式
48	171	Ⅲ区 C-31	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内1式
48	172	Ⅲ区 C-31	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	173	Ⅲ区 D-32・33	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	174	Ⅲ区 C-29	縄文	縄文後	注口	—/—/—		にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	
48	175	Ⅲ区 C-30	縄文	縄文後	注口	—/—/—		明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	176	Ⅲ区 C-32	縄文	縄文後	注口	—/—/—	沈線 刺突文	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
48	177	Ⅲ区 E-32	縄文	縄文晩	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	晩期前半清水天王山式
48	178	Ⅲ区 C-29	縄文	縄文晩	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	晩期前半清水天王山式
49	179	試掘リニア (八・御)	縄文	縄文前	深鉢	—/—/—	棒状貼付文	白色粒子・赤色粒子・長石	前期後半諸磯C式
49	180	リニア (八・御)	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	181	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 隆帯に竹管 文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	182	リニア (八・御) 73T上黒	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	波状口縁 口縁部にきざみ 沈線 押引文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	183	リニア (八・御) 73T西	縄文	縄文中	浅鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線 押引 文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
49	184	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	185	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 押引文 隆帯	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	186	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 格子目文	橙色 赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	187	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式古
49	188	リニア (八・御) 73T上黒	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	暗褐色 白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	189	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	190	リニア (八・御) 72T上黒	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	爪形文 きざみ	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	191	リニア (八・御) 73T上黒	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	192	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 押引文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	193	リニア (八・御) 73T上黒	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	194	リニア (八・御) 73T上黒	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい褐色 白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	195	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位・縦位沈線	赤褐色 赤色粒子・白色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	196	リニア (八・御) 74T西	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ケ台Ⅱ式
49	197	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文 楕円区画文 波状角押文	褐色 白色粒子・黒色粒子・石英・長石	中期中葉浴沢式
49	198	試掘リニア	縄文	縄文中	深鉢	(26.2) /14.0/33.6	角押文 波状角押文 楕円区画文 懸垂文	褐色 白色粒子・黒色粒子	中期中葉浴沢式
50	199	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 きざみ 角押文 連続刺突文 キャタピラ文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・長石	中期中葉浴沢式
50	200	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 楕円区画文 角押文 波状角押文 キャタピラ文	明赤褐色 白色粒子・石英	中期中葉浴沢式
50	201	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	角押文 波状角押文 隆帯	暗赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期中葉浴沢式
50	202	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 角押文 波状角押文 刺突文 キャタピラ文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子	中期中葉浴沢式
50	203	試掘リニア 89T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 角押文	褐色 白色粒子・赤色粒子	中期中葉浴沢式
50	204	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 角押文 連続刺突文	褐色 白色粒子・黒色粒子・赤色粒子・石英	中期中葉浴沢式
50	205	試掘リニア 89T1ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/14.6/ (3.5)		明褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子	中期中葉浴沢式
50	206	リニア (八・御) 74T2ピット	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 波状隆帯	褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・金雲母・石英	中期後半曾利Ⅱ式
50	207	リニア (八・御) 74T西	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	綾杉状条線 沈線	暗褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・金雲母・石英	中期後半曾利Ⅳ式
50	208	リニア (八・御) 74T西	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	明褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅳ式
50	209	リニア (八・御) 79T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	刺突文 沈線 縄文	明赤褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子	中期後半曾利4式
50	210	リニア (八・御) 74T西	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—		にぶい黄褐色 黒色粒子・赤色粒子・白色粒子	中期後半曾利E4式

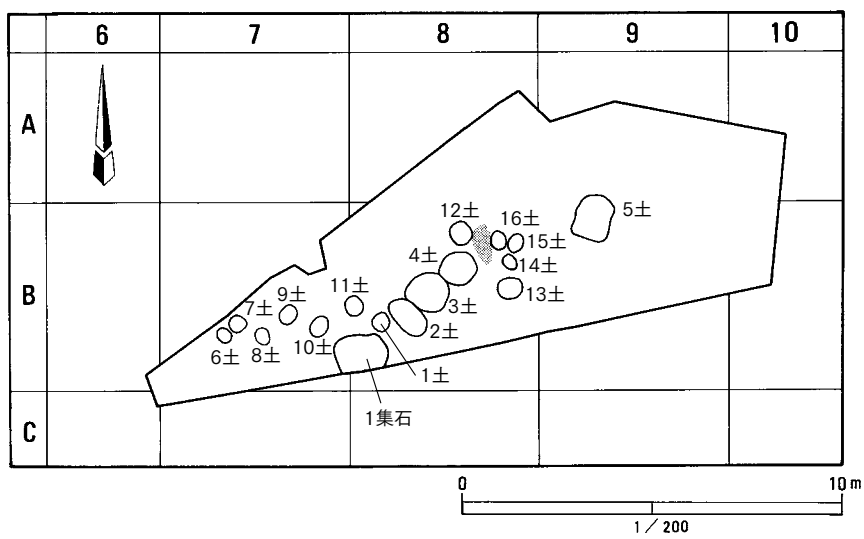
図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
50	211	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	赤褐色 黒色粒子・赤色粒子・ 白色粒子・金雲母	中期後半加曾利E4式
50	212	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	明褐色 黒色粒子・赤色粒子・ 白色粒子	中期後半加曾利E5式
50	213	リニア (八・御) 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	明褐色 黒色粒子・赤色粒子・ 白色粒子	中期後半加曾利E5式
50	214	試掘りニア 72T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	黄褐色 赤色粒子・白色粒子	中期後半加曾利E5式
51	215	試掘りニア 23T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	黒褐色 赤色粒子・白色粒子	中期後半加曾利E5式
51	216	試掘りニア 73T	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	黒褐色 赤色粒子・白色粒子 長石	中期後半加曾利E5式
51	217	試掘りニア 74T2ピット	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	充填縄文 沈線	明赤褐色 白色粒子・黒色粒子	後期初頭称名寺式
51	218	試掘りニア 89T	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	充填縄文 沈線	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子	後期初頭称名寺式
51	219	試掘りニア 75T黒	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子	後期初頭称名寺式
51	220	試掘りニア (御坂) 74T2ピット	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子・金雲母	後期前葉堀之内1式
51	221	試掘りニア (御坂) 74T東	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁	暗褐色 赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式
51	222	試掘りニア (御坂) 75T黒	縄文	縄文後	深鉢	(34.0) /—/—	きざみ 沈線	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・長石・石英	後期前葉堀之内1式
51	223	試掘りニア (御坂) 74T2ピット	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	暗褐色 赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式
51	224	試掘りニア (御坂) 74T2ピット	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明赤褐色 赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式
51	225	試掘りニア (御坂) 89T	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 赤色粒子・白色粒子・黒 色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
51	226	試掘りニア (御坂) 74T2ピット	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	橙色 赤色粒子・白色粒子・黒 色粒子	後期前葉堀之内1式
51	227	試掘りニア (御坂) 75T一括	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
52	228	試掘りニア (御坂) 74T西	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい赤褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
52	229	試掘りニア (御坂) 89T	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
52	230	試掘りニア (御坂) 73T	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
52	231	試掘りニア (御坂) 72T上黒	縄文	縄文後	浅鉢	—/—/—	沈線 縄文	にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子・金雲母	後期中葉加曾利B1式
53	232	3区 12土	古墳		ミニチュア	2.3/—/—	指頭圧痕 刷毛目	黒褐色 赤色粒子・白色粒子・ 黒色粒子	
53	233	3区 12土	古墳		台付甕	—/8.5/—	外面刷毛目 内面篋削り	にぶい褐色 赤色粒子・白色粒 子・黒色粒子	
53	234	3区 19土	古墳		高坏	(12.4) /—/—		にぶい黄褐色 赤色粒子・白色 粒子・黒色粒子	

第4表 出土石器・土製品観察表 (() は推定復元値)

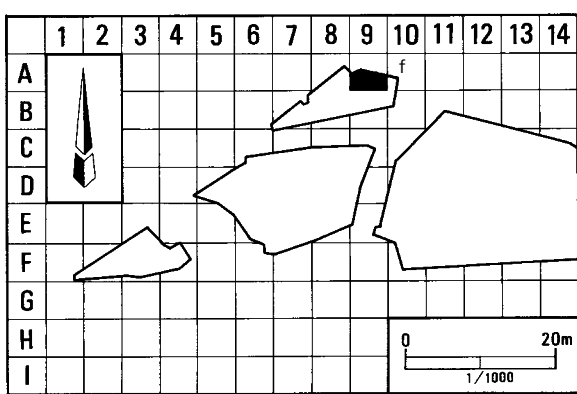
図版	No.	地点	分類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石材	備考
53	1	Ⅱ区	打製石斧	—/4.72/1.52	95		
53	2	Ⅱ区	打製石斧	(9.7) / (4.2) /1.3	61.1		
53	3	Ⅱ区	打製石斧	(9.8) /4.63/0.78	40.7		
53	4	Ⅱ区	打製石斧	—/—/0.9	51.7		
53	5	Ⅲ区E-33	打製石斧	12.1/5.2/1.8	142.8		
54	6	Ⅱ区	小型磨製石斧	—/—/—	14	緑色岩	
54	7	Ⅱ区E-7	石匙	3.45/6.71/7.01	12.3		
54	8	Ⅱ区E-22	石匙	—/3.83/0.36	1.6	チャート	
54	9	Ⅲ区C-36	石匙	2.33/ (3.68) /0.68	5.1	チャート	
54	10	Ⅱ区C-12	搔器	—/—/—	2.1	黒曜石	
54	11	Ⅱ区E-7	石鏃	1.53/ (1.28) /0.50	0.3	黒曜石	
54	12	Ⅱ区	石鏃	1.48/1.18/0.33	0.3	チャート	
54	13	Ⅱ区表土	石鏃	1.70/1.25/0.38	0.5	黒曜石	
54	14	Ⅱ区D-10	石鏃	1.78/1.53/2.65	0.6	黒曜石	
54	15	Ⅱ区D-10	石鏃	1.49/0.93/0.25	0.2	黒曜石	
55	16	Ⅱ区C-18	石鏃	(1.47) / (1.10) /0.36	0.5	黒曜石	
55	17	Ⅱ区D-20	石鏃	(1.09) /1.46/0.298	0.3	黒曜石	
55	18	Ⅱ区E-20	石鏃	2.35/1.55/0.3	1.4	黒曜石	
55	19	Ⅱ区E-20	石鏃	2.86/—/0.38	1.3	黒曜石	
55	20	Ⅱ区E-20・22	石鏃	(1.26) /1.03/0.33	0.3	黒曜石	
55	21	Ⅱ区E-20・22	石鏃	2.30/1.35/3.01	0.6	黒曜石	
55	22	Ⅱ区E-20・22	石鏃	(2.12) / (1.30) /3.01	0.6	黒曜石	
55	23	Ⅱ区E-21	石鏃	1.78/1.69/0.47	1.1	黒曜石	
55	24	Ⅱ区E-22	石鏃	(1.75) /1.30/0.31	0.5	黒曜石	
55	25	Ⅱ区E-22	石鏃	(1.59) /0.95/0.31	0.4	黒曜石	
55	26	Ⅱ区	石鏃	2.00/1.33/0.40	0.7	黒曜石	
55	27	Ⅱ区	石鏃	(1.83) /1.63/0.66	1.6	黒曜石	
56	28	Ⅲ区D-29	石鏃	1.96/1.32/0.68	0.8	黒曜石	
56	29	Ⅲ区B-40	石鏃	1.80/1.99/0.43	0.7	黒曜石	
56	30	Ⅲ区B-41	石鏃	1.40/1.22/0.31	0.2	黒曜石	P-15
56	31	表採	石鏃	1.83/1.87/0.67	1.1	黒曜石	
56	32	試掘72Tr	石鏃	1.65/1.10/0.40	0.4	黒曜石	
56	33	Ⅲ区C-34	二次加工のある剥片	2.31/1.91/0.67	1.6	黒曜石	
56	34	Ⅲ区C-34	二次加工のある剥片	—/—/0.49	0.9	黒曜石	
56	35	Ⅱ区E-20	二次加工のある剥片	2.43/1.34/0.39	1.2	黒曜石	
56	36	Ⅱ区D-11	磨石	8.3/7.6/3.2	322.9		
56	37	Ⅱ区30土	石棒	(17.60) /13.50/13.20	4,500		
53	235	Ⅱ区50土	土製円盤	4.3/4.05/1.4	30		縄文 明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英
53	236	リニア(八御)74Tピット	土製円盤	4.6/4.15/1.0	21.5		縄文 明黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母
53	237	Ⅱ区E-20	土製円盤	4.2/3.9/1.0	18.5		縄文 におい黄橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子
53	238	I区	土製円盤	2.6/2.4/1.0	8		縄文 赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子
53	239	Ⅱ区	耳栓	2.1/2.1/1.6	8.7		縄文 明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子



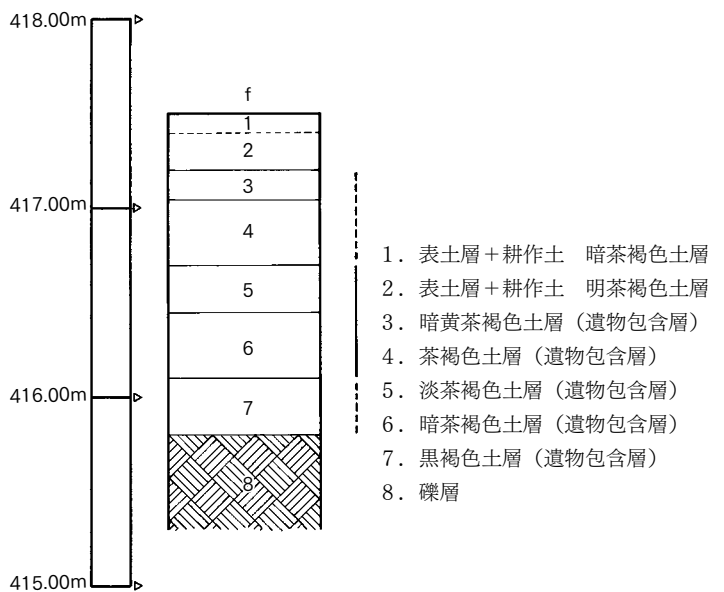
第57図 第二次調査位置図



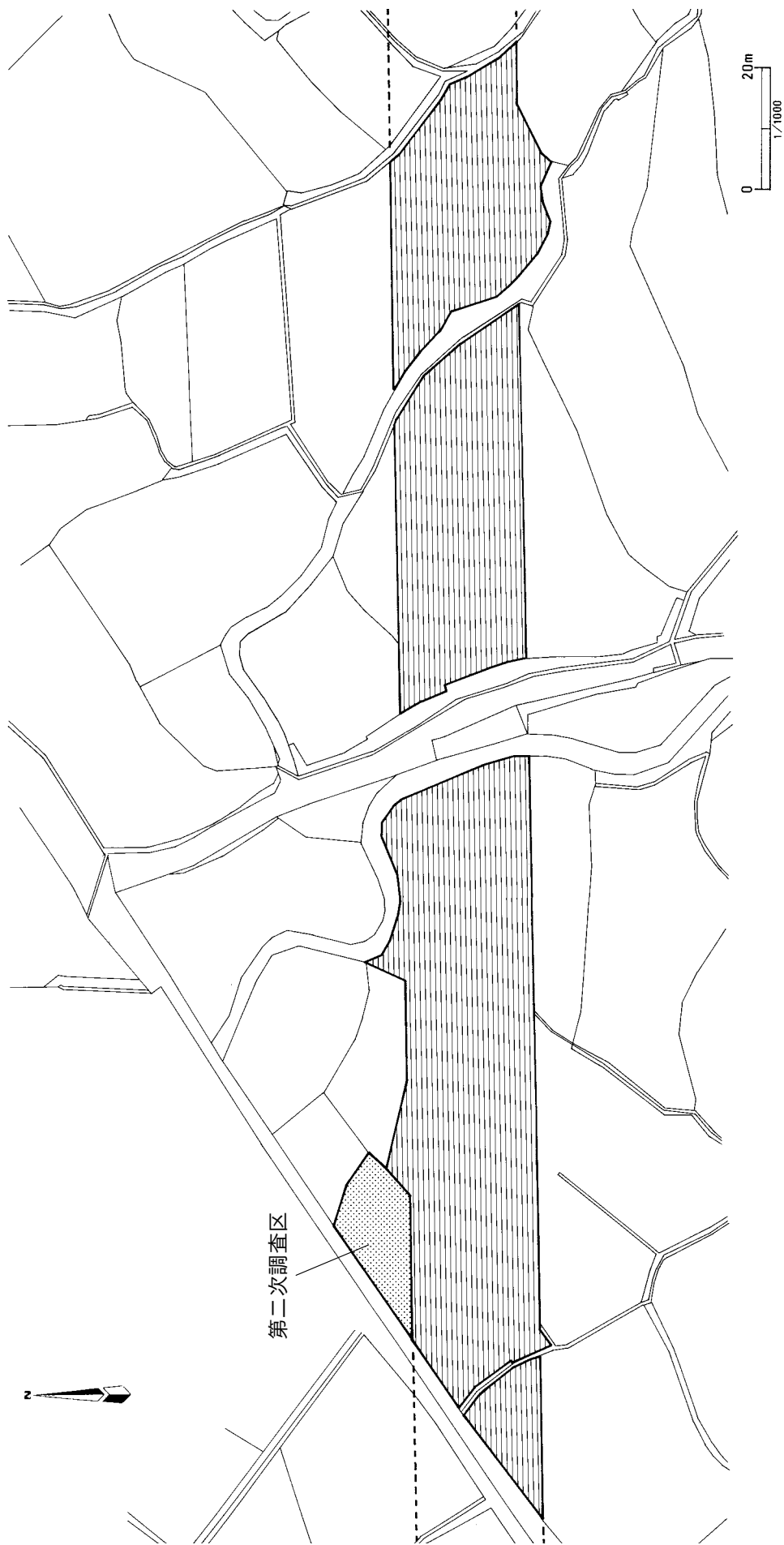
第58図 遺構配置図



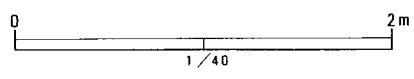
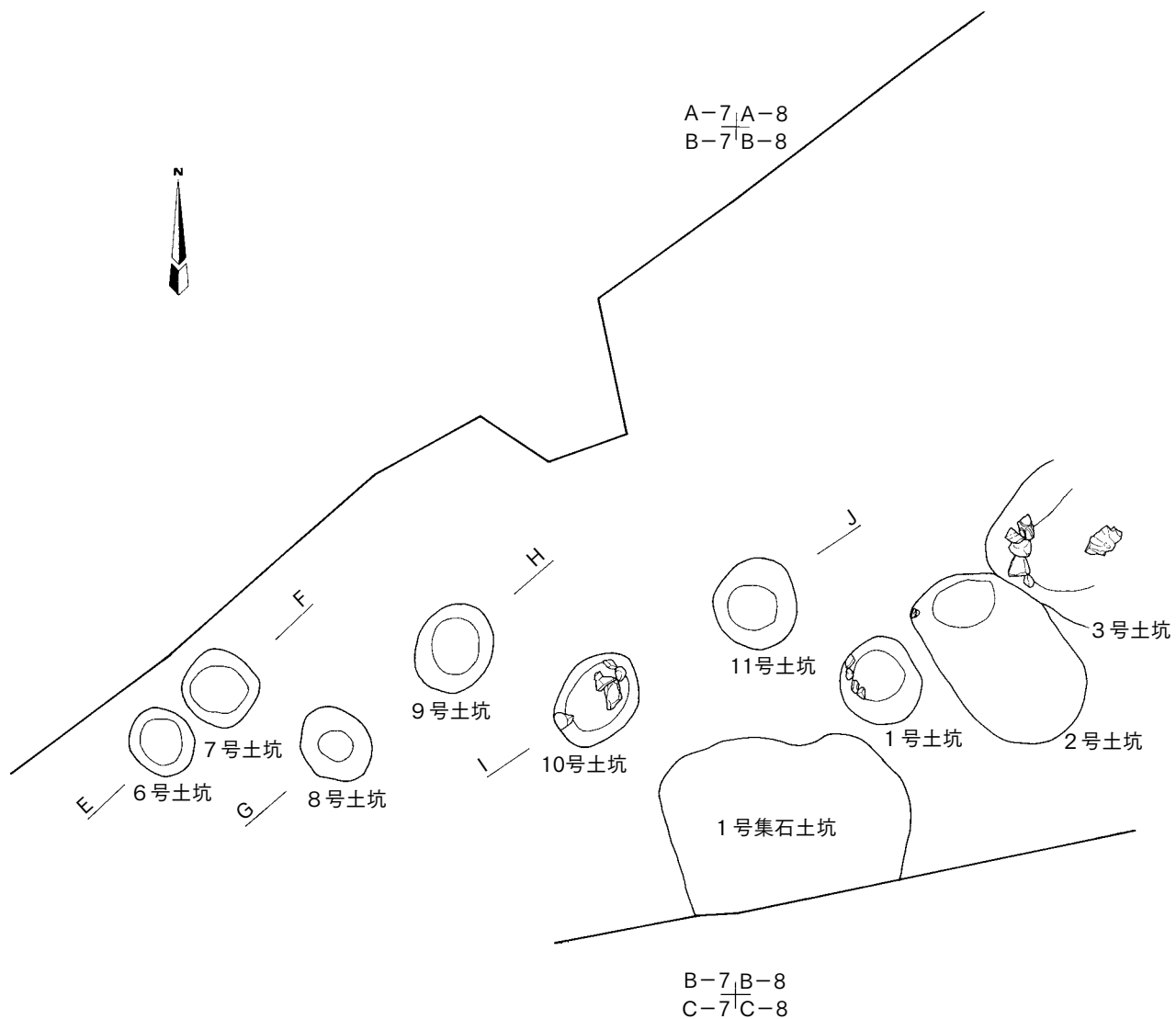
第59図 基本層序観察地点



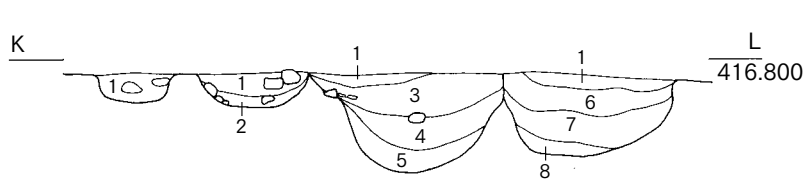
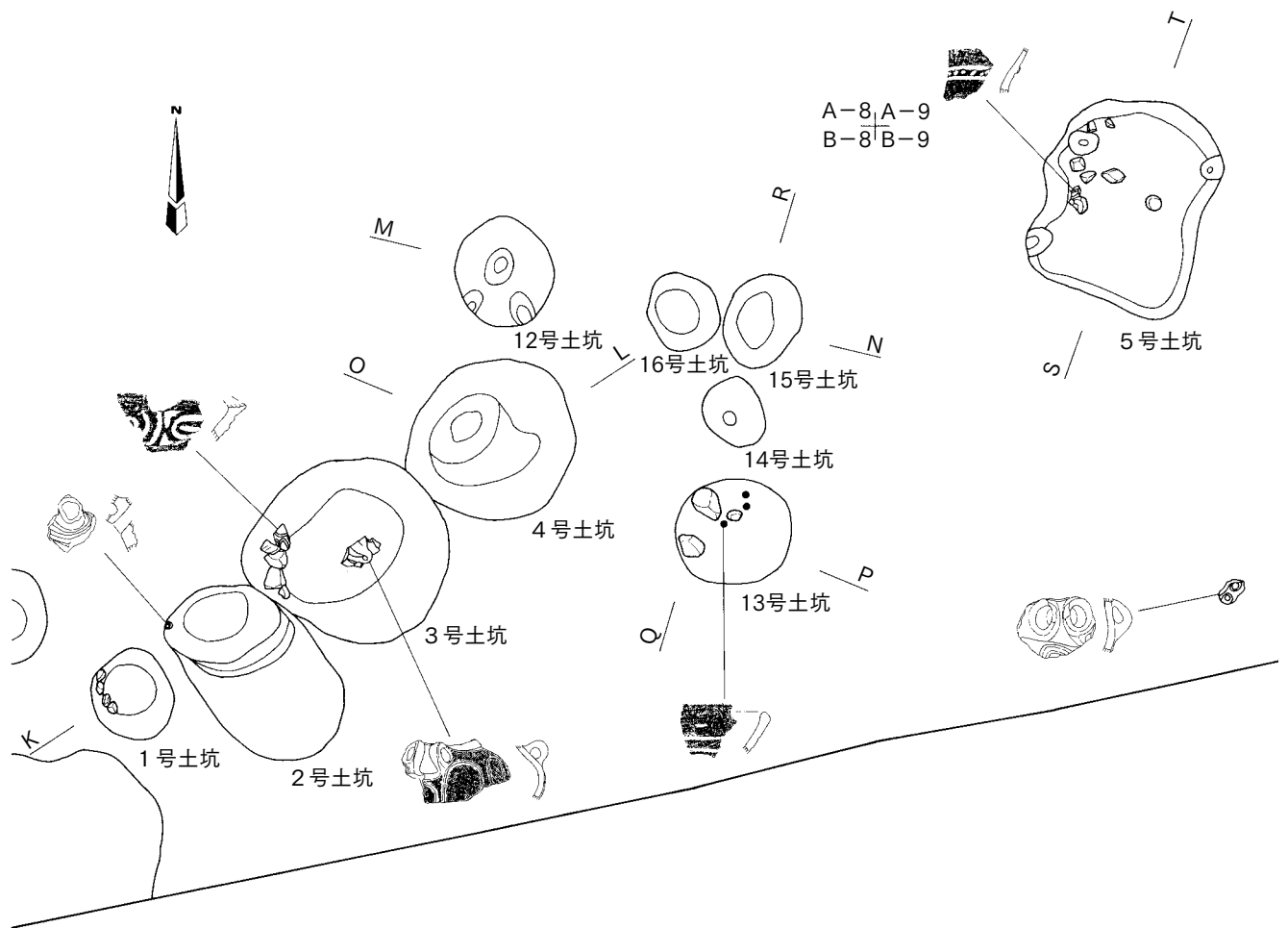
第60図 基本層序柱状図



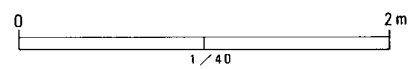
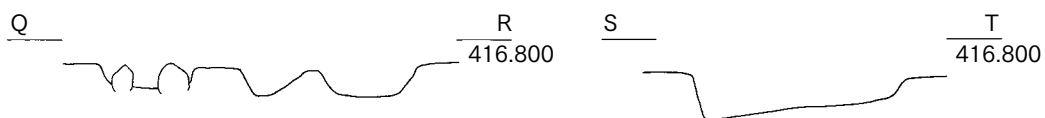
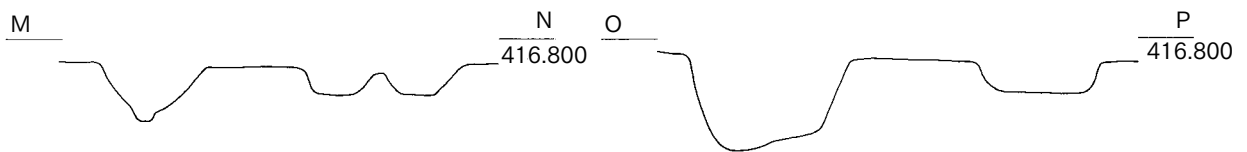
第61図 第二次発掘調査区設定図



第62图 第1~3·6~11号土坑平·断面图

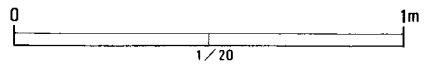
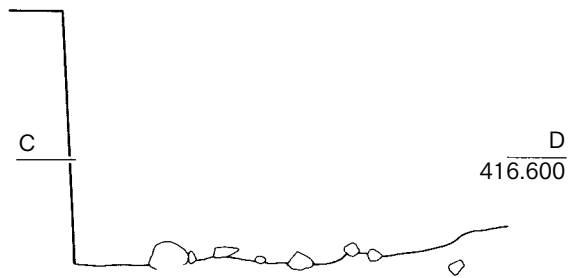


1. 薄茶褐色土層
2. 茶褐色土層
3. 淡茶褐色土層
4. 淡茶褐色土層
5. 暗茶褐色土層
6. 暗黑褐色土層
7. 淡茶褐色土層
8. 淡黑褐色土層

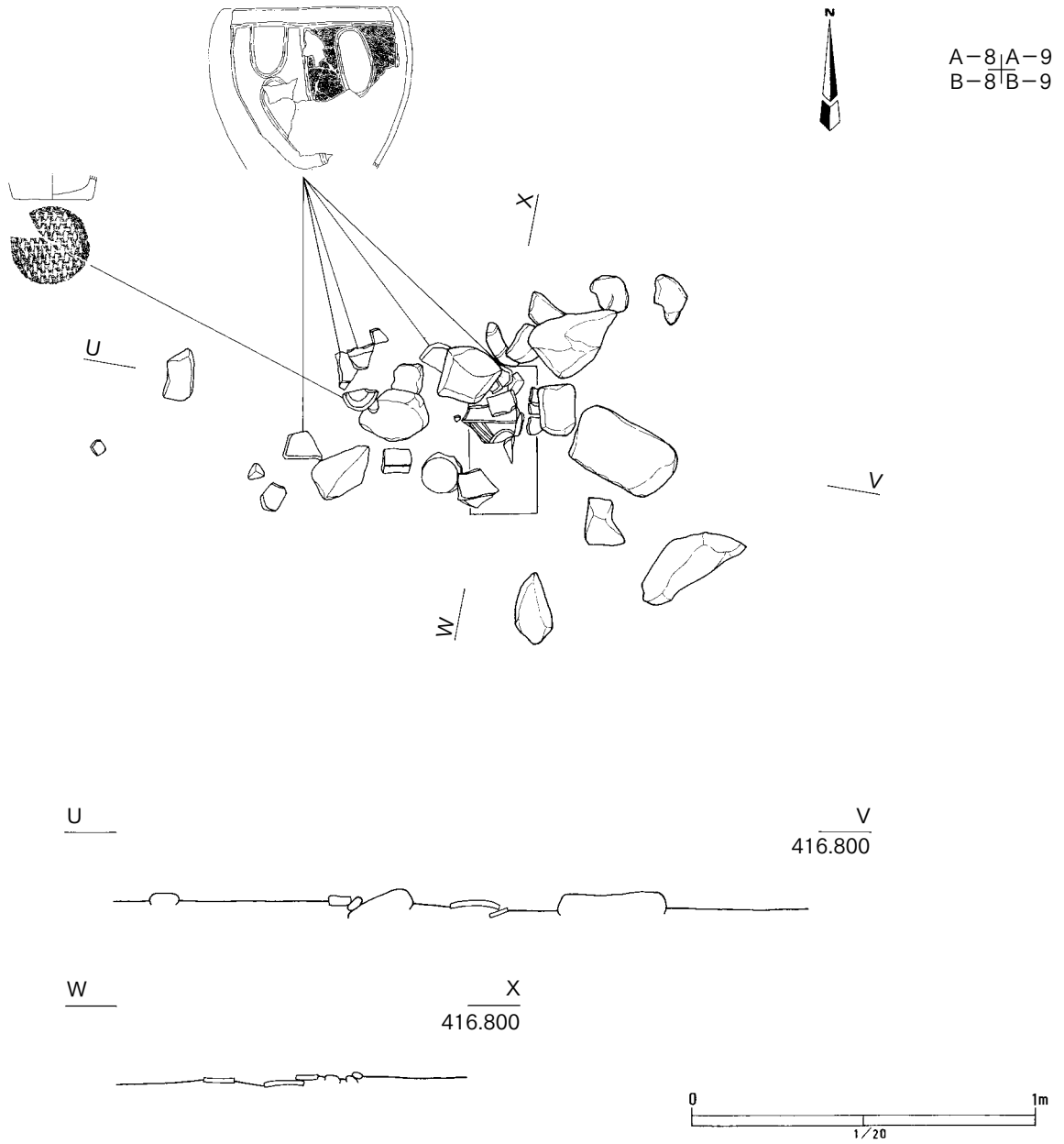


第63圖 第1~5・12~16号土坑平・断面図

C-8|C-7
B-8|B-7



第64图 第1号集石土坑平・断面图



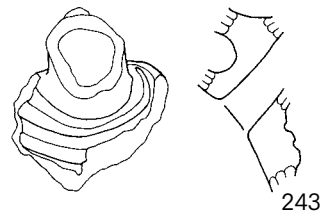
第65図 土器集中区平・断面図



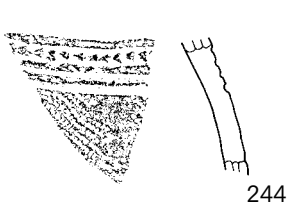
第1号土坑



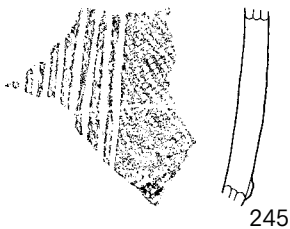
第2号土坑



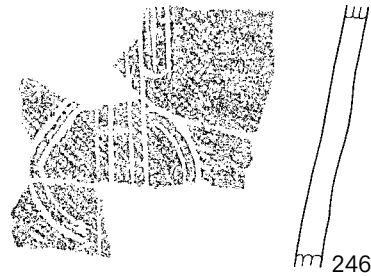
243



244



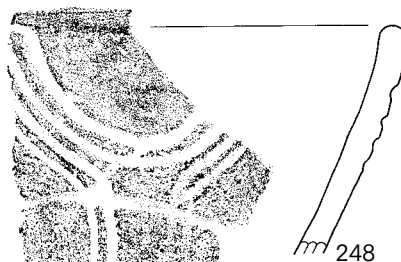
245



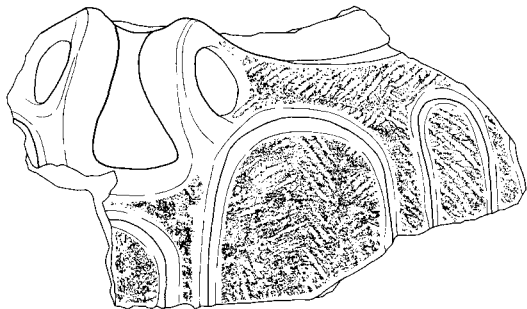
246



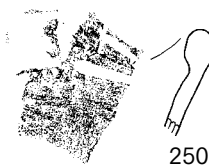
247



248



249



250



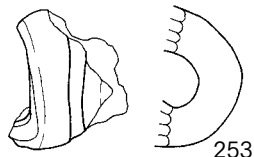
251

第3号土坑

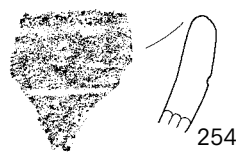


252

第4号土坑



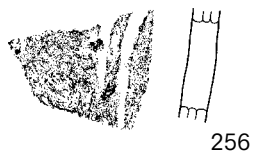
253



254



255

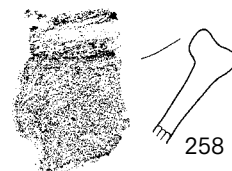


256



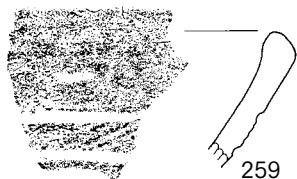
257

第5号土坑

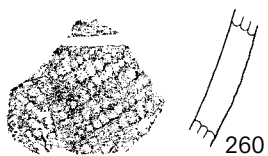


258

第12号土坑



259



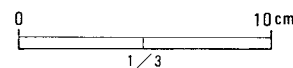
260

第13号土坑



261

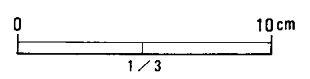
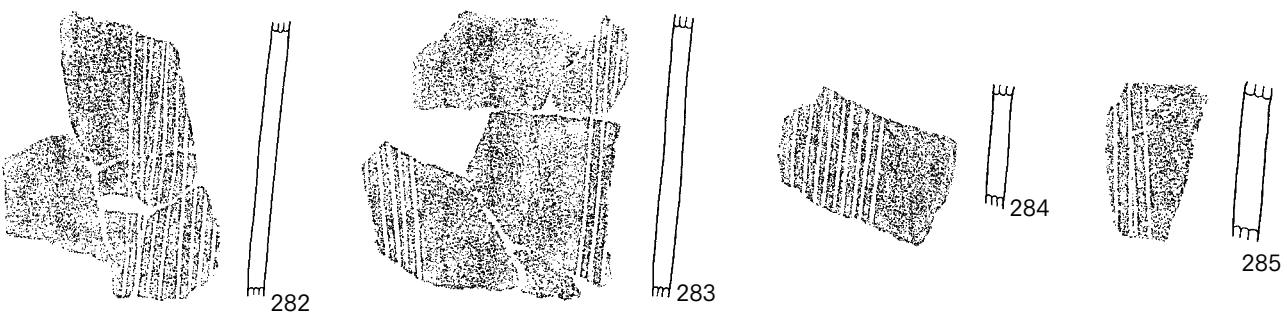
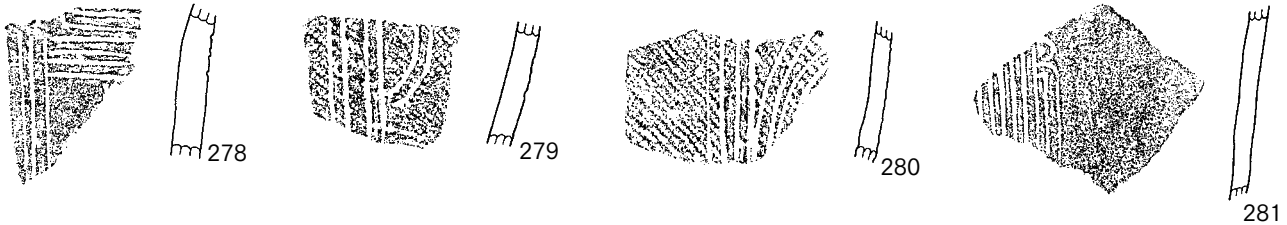
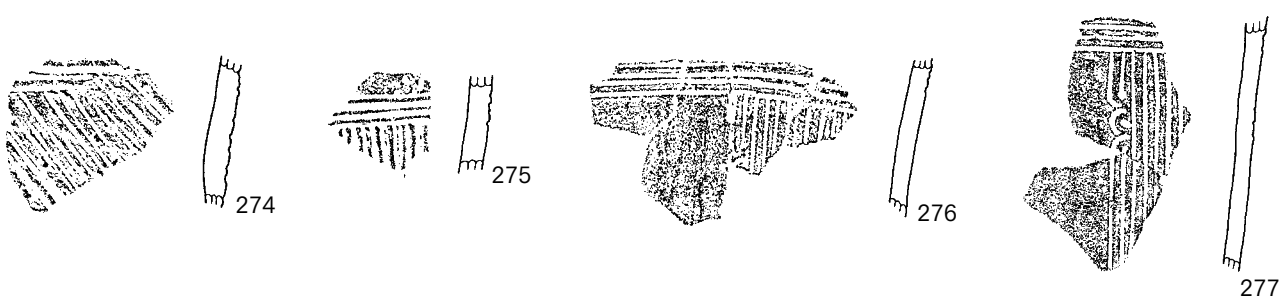
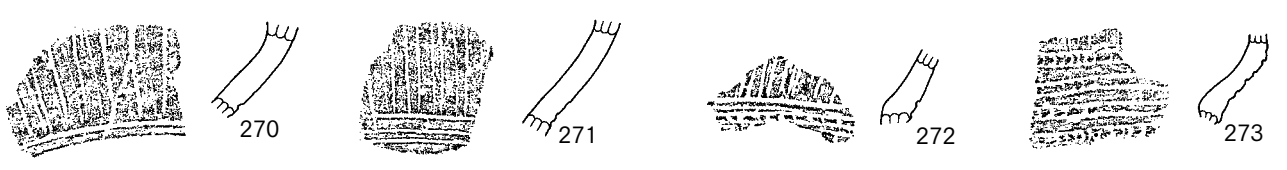
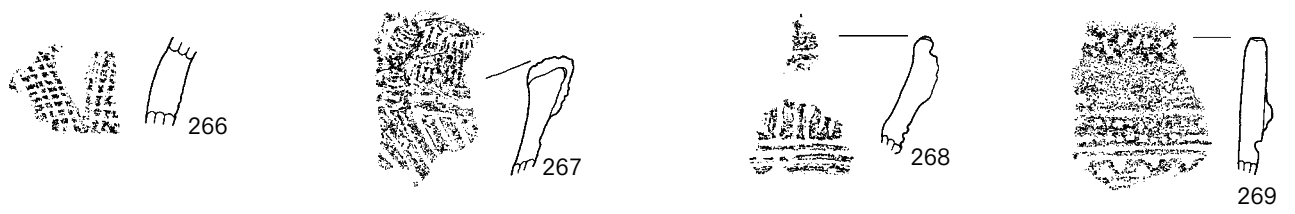
第15号土坑



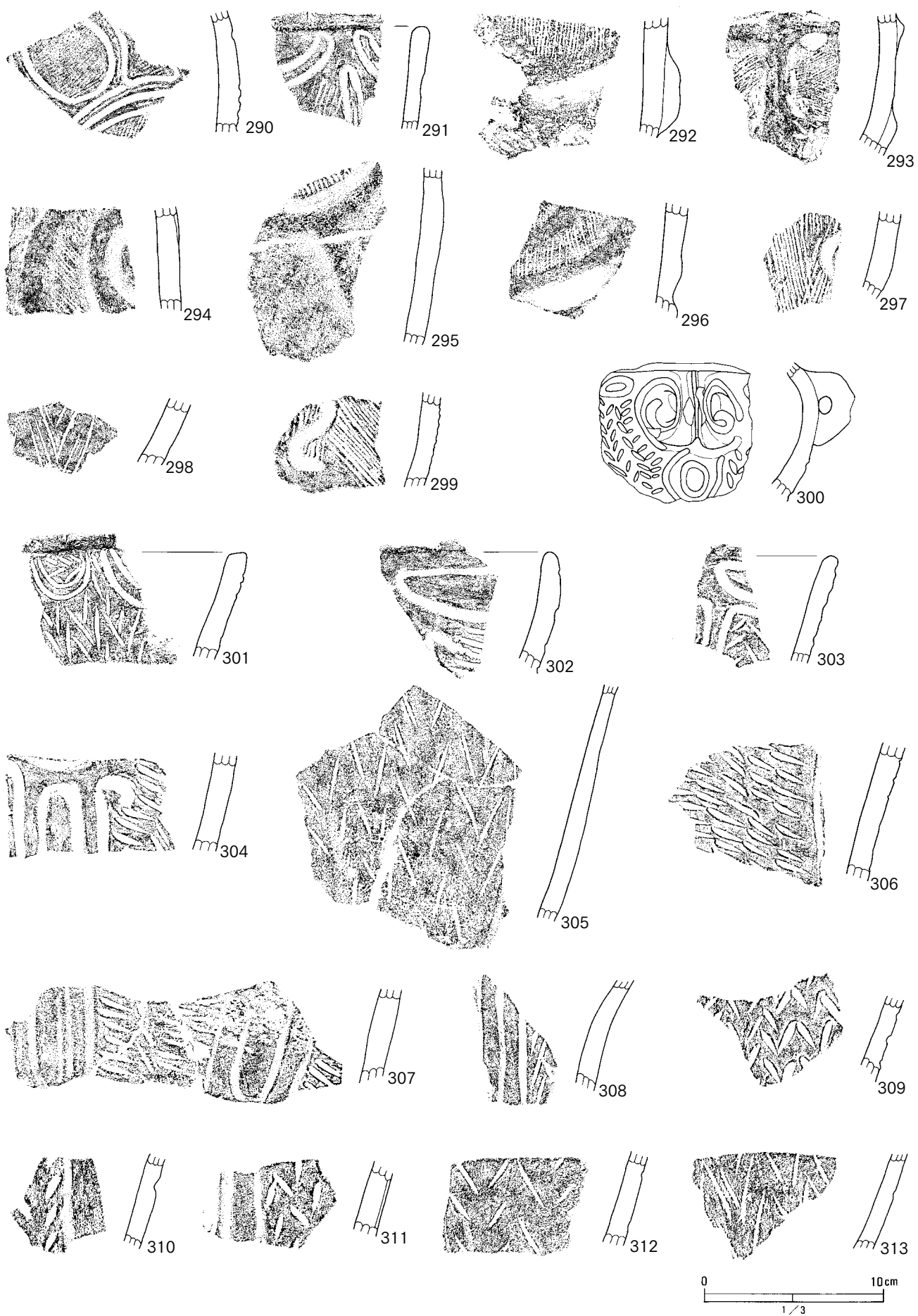
第66图 遺構出土遺物(1)



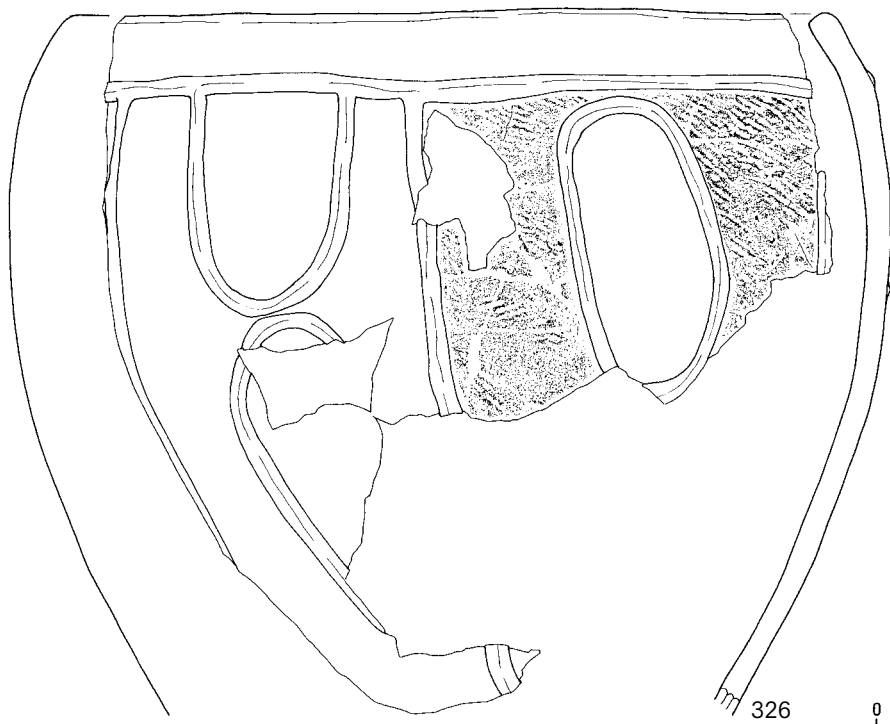
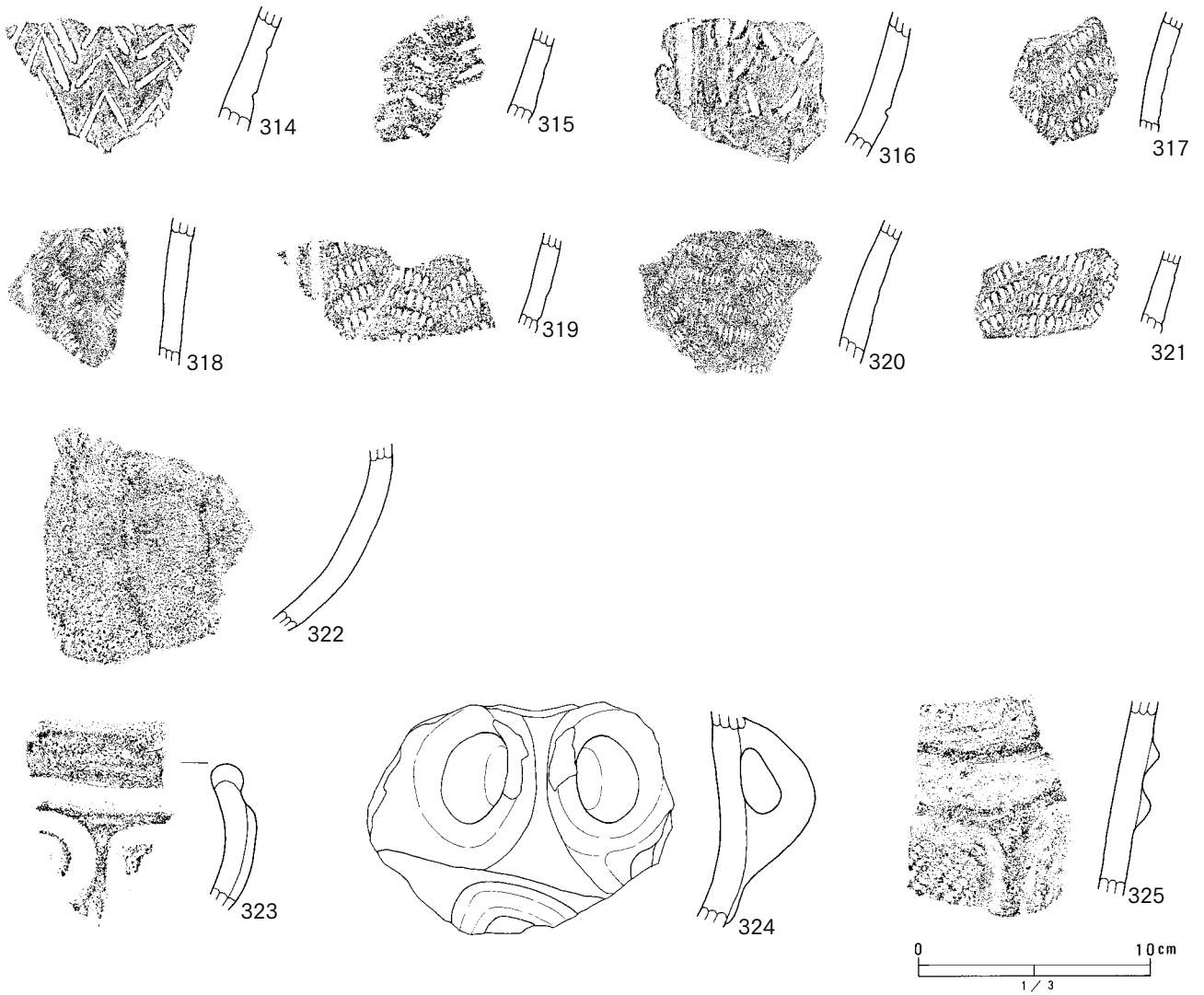
第1号集石土坑



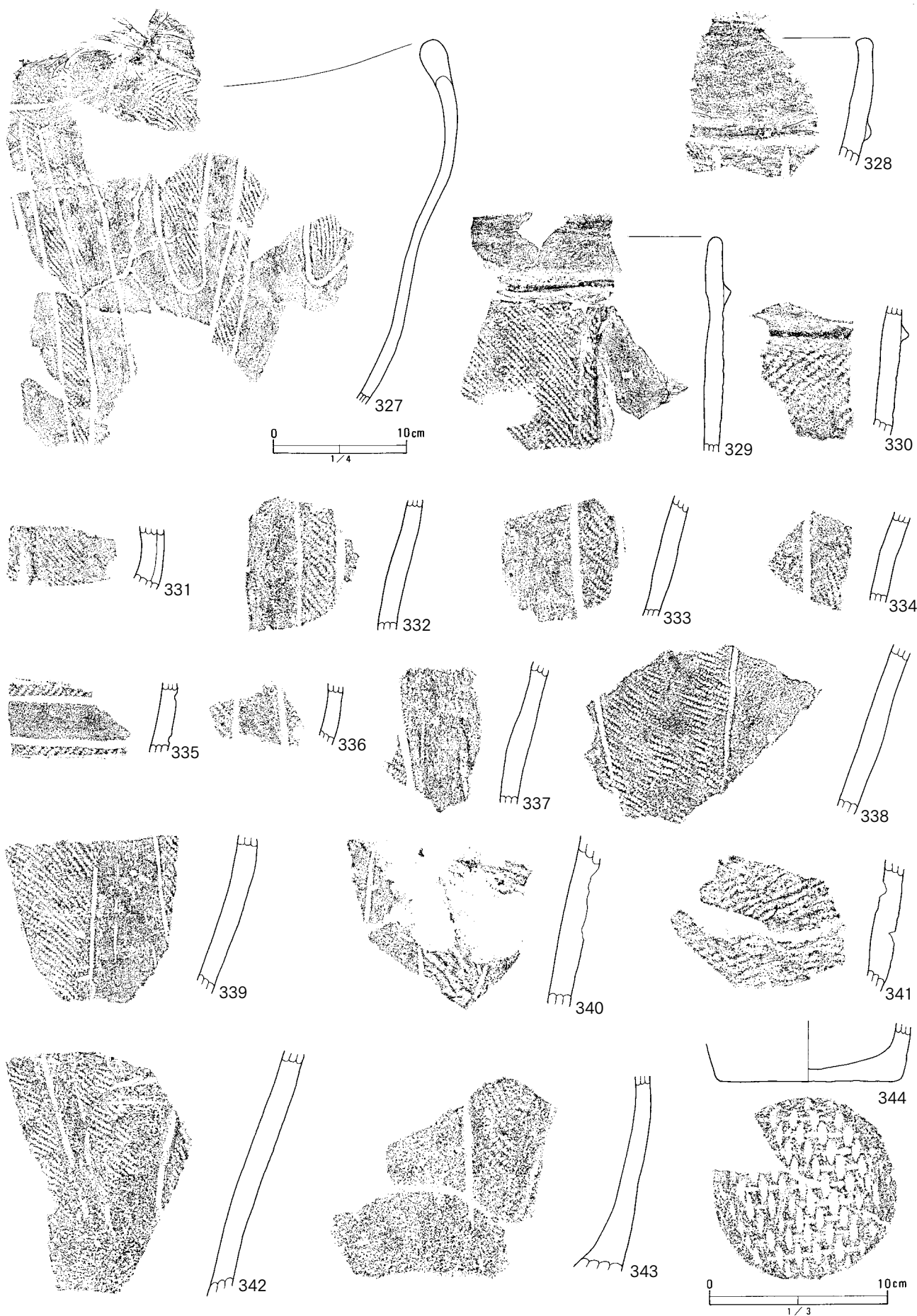
第67图 遺構出土遺物(2)・遺構外出土遺物(1)



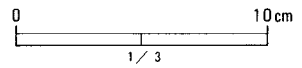
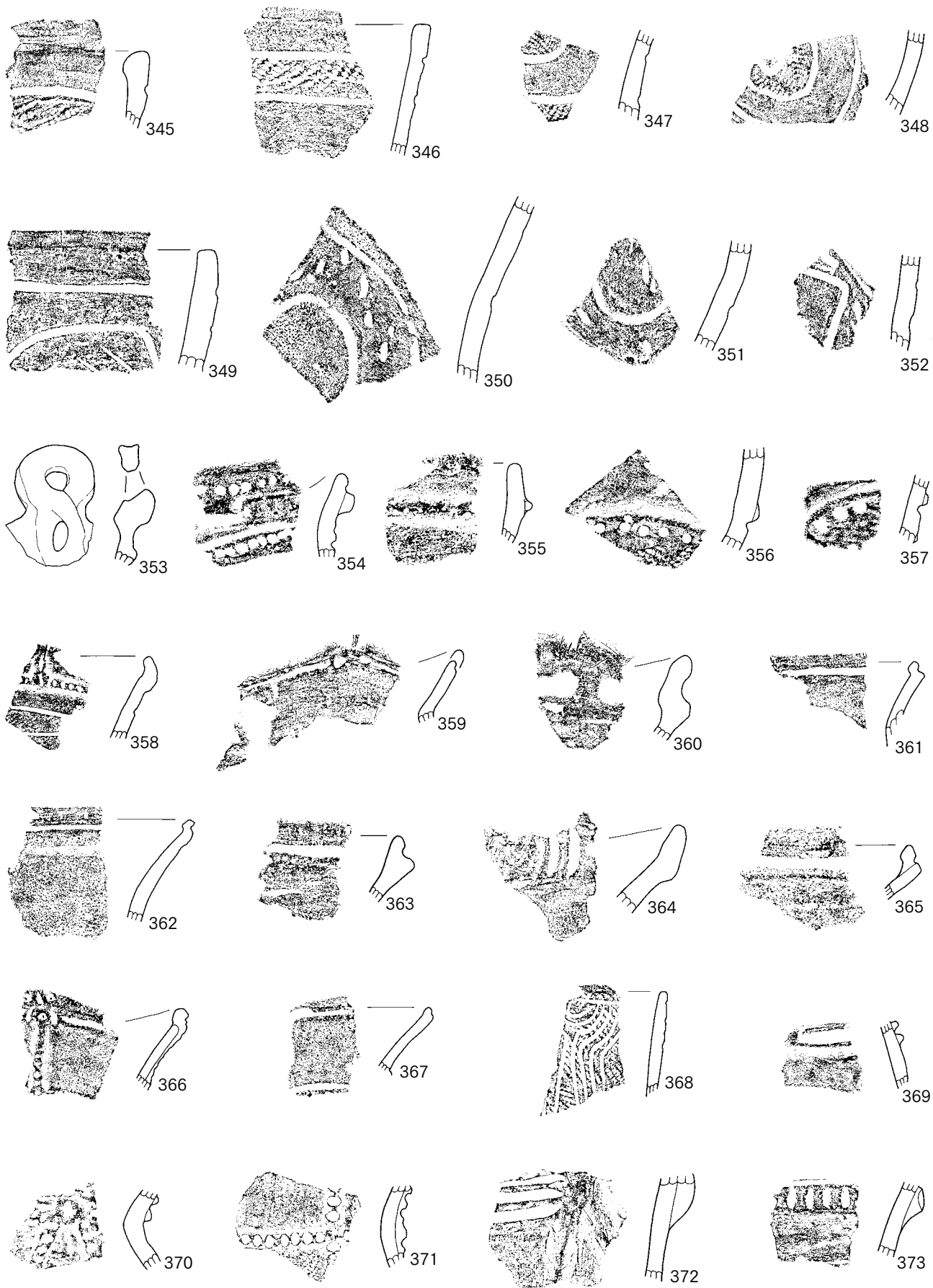
第68図 遺構外出土遺物(2)



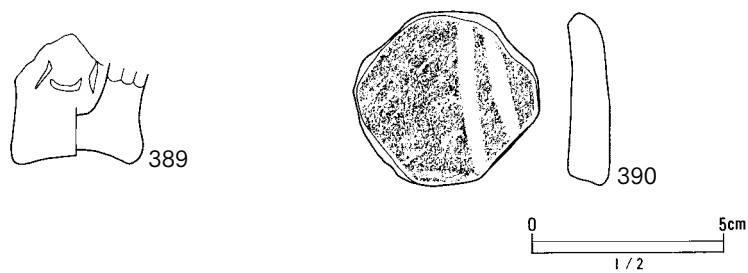
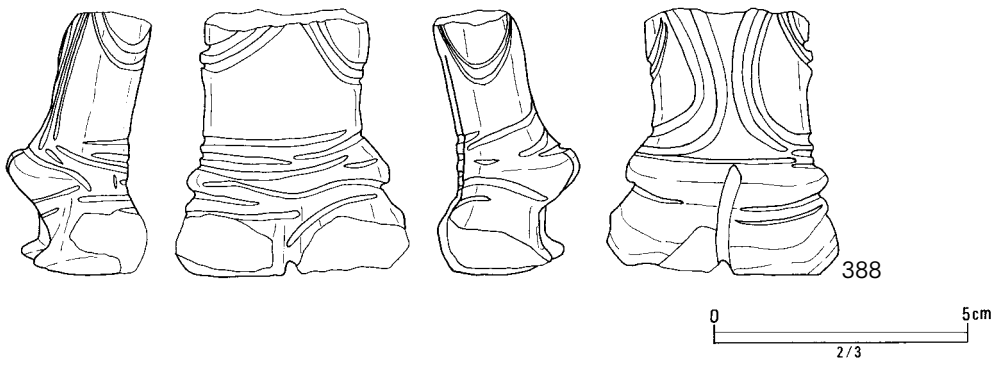
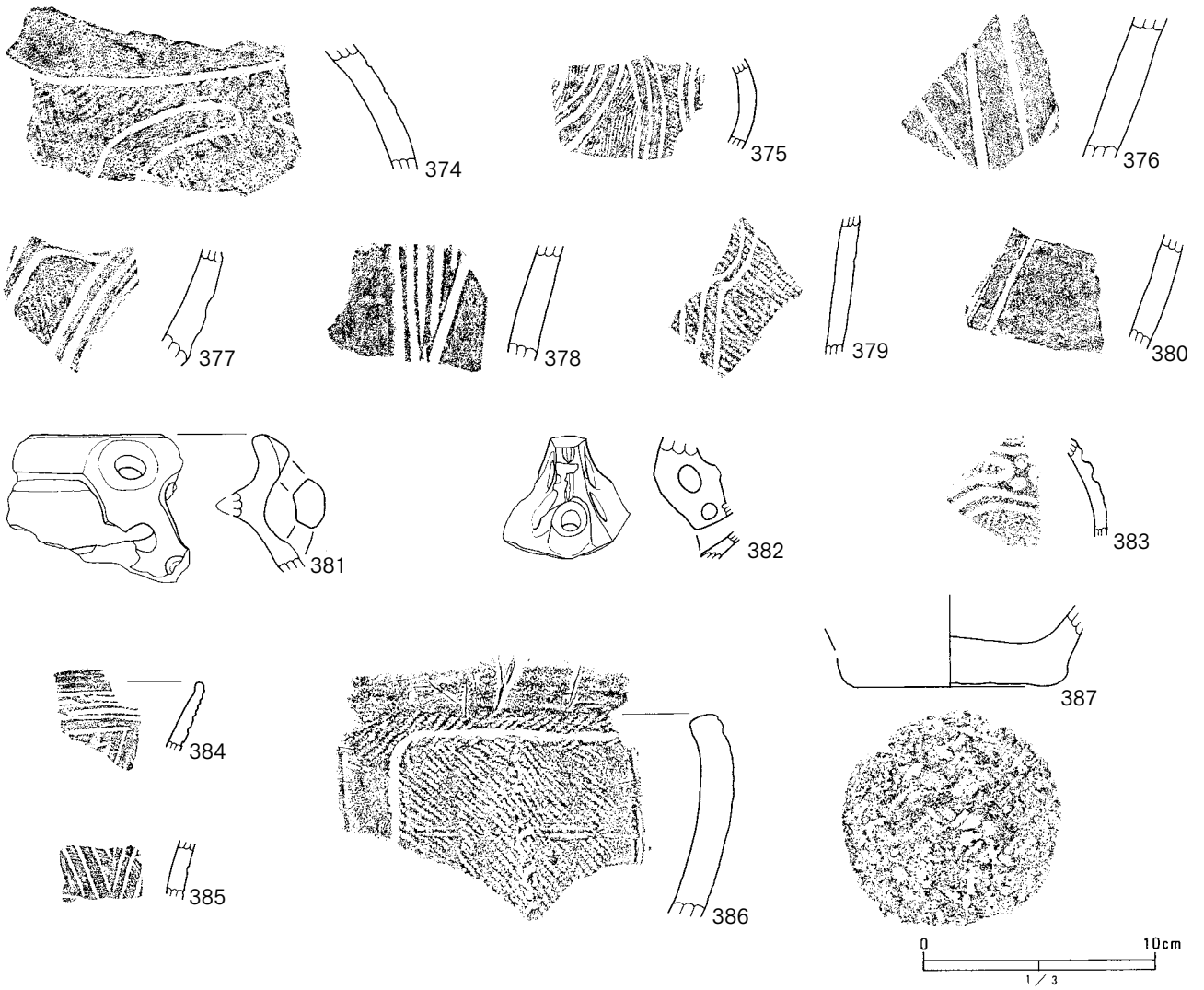
第69図 遺構外出土遺物(3)



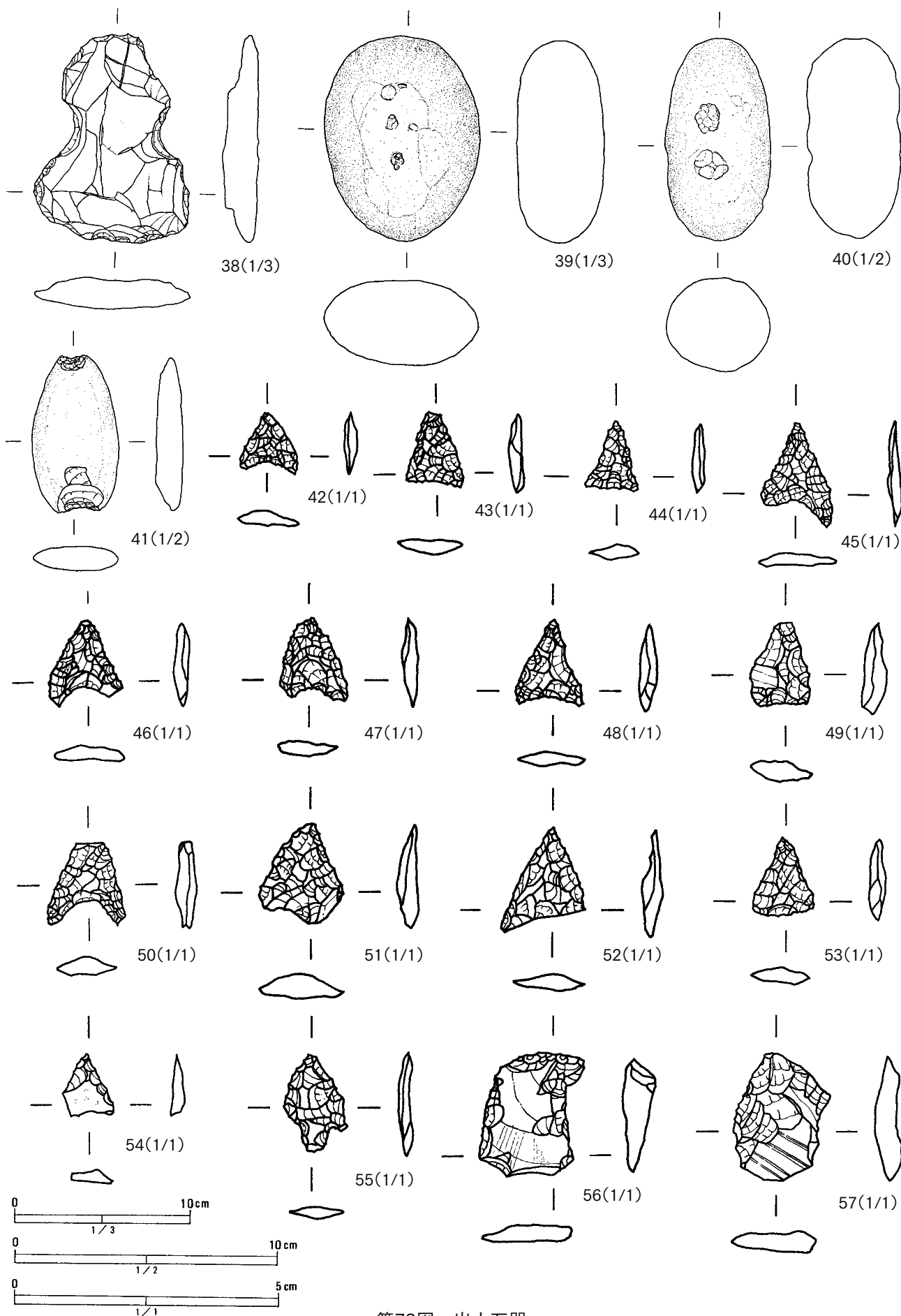
第70図 遺構外出土遺物(4)



第71図 遺構外出土遺物(5)



第72図 遺構外出土遺物(6)



第73图 出土石器

第5表 土坑一覧表

遺構名	図版番号	位 置	平面形	長軸 (cm)	短軸 (cm)	深さ (cm)	時 期	備 考
1号土坑	62・63	B-8	楕円形	50	45	16	縄文後期前葉	堀之内1式
2号土坑	62・63	B-8	楕円形	111	69	19	縄文中期後葉 ～後期前葉	曾利IV～堀之内1式
3号土坑	62・63	B-8	不整形	116	103	55	縄文中期初頭 ～後期前葉	五領ヶ台II式 井戸尻式 加曾利E3式 堀之内1式 曾利III式
4号土坑	63	B-8	不整形	96	90	50	縄文後期初頭	関沢類型式
5号土坑	63	A-9 B-9	不整形	115	93	25	縄文中期後半 ～後期前葉	加曾利E3式 称名寺式 堀之内1式
6号土坑	62	B-7	楕円形	40	35	13	不明	
7号土坑	62	B-7	隅丸方形	46	45	11	不明	
8号土坑	62	B-7	楕円形	46	39	8	不明	
9号土坑	62	B-7	楕円形	52	44	11	不明	
10号土坑	62	B-7	楕円形	58	43	12	不明	
11号土坑	62	B-7 B-8	円形	51	48	18	不明	
12号土坑	63	B-8	楕円形	61	54	30	縄文後期前葉	堀之内1式
13号土坑	63	B-8	楕円形	65	58	16	縄文後期初頭 ～前葉	称名寺1式～堀之内1式
14号土坑	63	B-8	楕円形	39	32	14	不明	
15号土坑	63	B-8	楕円形	53	43	16	不明	
16号土坑	63	B-8	不整形楕円形	45	40	14	不明	

第6表 出土土器観察表 (()) は推定復元値

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
66	240	1土	縄文	縄文後	注口	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子	後期前葉堀之内1式
66	241	2土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	綾杉状条線 沈線	黄褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	中期後半曾利IV式
66	242	2土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
66	243	2土	縄文	縄文後	注口	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式P-1
66	244	3土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	押し文 沈線 縄文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台II式
66	245	3土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文 沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台II式
66	246	3土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	中期初頭五領ヶ台II式
66	247	3土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯上に沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・金雲母・長石	中期中葉井戸尻2式P-1
66	248	3土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	連弧文系沈線	赤褐色 白色粒子・石英・長石	中期後半曾利III式
66	249	3土	縄文	縄文中	両耳壺	—/—/—	磨消縄文	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒 子・黒色粒子・長石	中期後半加曾利E3式P-2
66	250	3土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
66	251	3土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	褐色 赤色粒子・白色粒子	後期前葉堀之内1式
66	252	4土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 円形刺突文 沈線	暗褐色 白色粒子・黒色粒子	後期初頭関沢類型
66	253	5土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	X字状把手	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	中期後半加曾利E3式
66	254	5土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	褐色 白色粒子	後期初頭称名寺1式
66	255	5土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 隆帯 きざみ	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子	後期前葉堀之内1式P-3
66	256	5土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子	後期前葉堀之内1式
66	257	5土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	斜位の沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内1式
66	258	12土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—		黄褐色 白色粒子・黒色粒子・ 長石	後期前葉堀之内1式
66	259	13土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 充填縄文	黄褐色 白色粒子 赤色粒子 黒色粒子・長石	後期初頭称名寺1式P-1
66	260	13土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・長石	後期前葉堀之内1式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
66	261	15土	縄文	時期不明	深鉢	—/—/—	格子目文	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	
67	262	1号集石	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式P-5
67	263	1号集石	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	無文	褐色 白色粒子・黒色粒子・石英・金雲母・長石	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式P-4
67	264	1号集石	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	無文	褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式P-1
67	265	1号集石	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	無文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式P-3
67	266	B-8	縄文	縄文前	深鉢	—/—/—	格子目文	黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	前期終末十三菩提式
67	267	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 口唇部にきざみ 隆帯に爪形文 斜位沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅰ or Ⅱ式
67	268	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	269	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	口唇部にきざみ 隆帯上に押引文 交互刺突文	褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	270	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	271	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	272	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 刺突文	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	273	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	押引文	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	274	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	斜位・横位沈線	明赤褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	275	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	暗褐色 白色粒子・金雲母・石英	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	276	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位沈線 縦位の集合沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	277	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位沈線 縦位の集合沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	278	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	横位・縦位沈線	にぶい赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	279	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	280	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文 沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	281	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縦位の集合沈線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	282	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縦位の集合沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	283	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縦位の集合沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	284	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縦位の集合沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	285	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黄褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期初頭五領ヶ台Ⅱ式
67	286	A-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	波状口縁 角押文	暗褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期中葉落沢式
67	287	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	三角押文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英	中期中葉新道式
67	288	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	三角押文	にぶい褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期中葉新道式
67	289	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯上にきざみ 隆帯上に綾杉状のきざみ	黄褐色 白色粒子・黒色粒子	中期中葉井戸尻式
68	290	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 条線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅲ式
68	291	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅳ式
68	292	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	条線 隆帯に幅広の沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	中期後半曾利Ⅳ式
68	293	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 条線	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅳ式
68	294	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 条線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅳ式
68	295	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 条線	明黄褐色 白色粒子・黒色粒子・石英	中期後半曾利Ⅳ式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
68	296	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 条線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英・長石	中期後半曾利Ⅳ式
68	297	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 条線	にぶい橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅳ式
68	298	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	黒褐色 白色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅳ式
68	299	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	条線 沈線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅳ式
68	300	B-9	縄文	縄文中	広口壺型土器?	—/—/—	X字状把手 ハの字文 沈線	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石	中期後半曾利Ⅳ～Ⅴ式
68	301	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文 沈線	灰黄褐色 白色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅴ式
68	302	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	楕円区画文 沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
68	303	A-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	楕円区画文 沈線 ハの字文	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
68	304	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・黒色粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
68	305	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ式
68	306	B-7	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
68	307	A-9 B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅴ式
68	308	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 ハの字文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ式
68	309	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・角閃石	中期後半曾利Ⅴ式
68	310	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 ハの字文	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅴ式
68	311	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 ハの字文	にぶい黄褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	中期後半曾利Ⅴ式
68	312	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ式
68	313	A-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	314	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	315	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	ハの字文	明黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・石英・金雲母	中期後半曾利Ⅴ式
69	316	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 ハの字文	橙色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ式
69	317	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	櫛歯刺突文	明黄褐色 白色粒子・赤色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	318	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	櫛歯刺突文 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	319	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	櫛歯刺突文 沈線	明黄褐色 白色粒子・赤色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	320	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	櫛歯刺突文	明褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
69	321	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	櫛歯刺突文	褐色 白色粒子・赤色粒子	中期後半曾利Ⅴ式
69	322	A-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ式
69	323	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 沈線	黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ3式
69	324	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	把手 隆帯	明赤褐色 赤色粒子・黒色粒子・長石・金雲母	中期後半曾利Ⅴ3式P-1
69	325	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	中期後半曾利Ⅴ3式
69	326	B-8	縄文	縄文中	深鉢	(40) /—/—	微隆起線 U字文	黒褐色 白色粒子・黒色粒子・長石	中期後半曾利Ⅴ4式P-1,2,5,9,10,12,13,14,15,16,17,19,20,21,22
70	327	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ4式
70	328	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 沈線 縄文	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ4式
70	329	B-8 A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石・石英	中期後半曾利Ⅴ4式
70	330	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 縄文	黄褐色 白色粒子・黒色粒子・長石	中期後半曾利Ⅴ4式
70	331	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	隆帯 条線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半曾利Ⅴ4式
70	332	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	黒褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅴ4式
70	333	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半曾利Ⅴ4式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備考
70	334	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半加曽利E4式
70	335	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・長石・石英	中期後半加曽利E4式
70	336	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半加曽利E4式
70	337	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	暗褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母・石英	中期後半加曽利E4式
70	338	表土	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石・小石	中期後半加曽利E4式
70	339	A-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	中期後半加曽利E4式
70	340	B-7	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石	中期後半加曽利E4式
70	341	B-9	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	縄文	明黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	中期後半加曽利E4式
70	342	B-7	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石	中期後半加曽利E4式
70	343	A-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・金雲母・長石	中期後半加曽利E4式
70	344	B-8	縄文	縄文中	深鉢	—/—/9.8	網代痕	にぶい赤褐色 白色粒子・石英	中期後半加曽利E4式P-8
71	345	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子	後期初頭称名寺I式
71	346	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	明赤褐色 白色粒子・黒色粒子・石英	後期初頭称名寺I式
71	347	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 充填縄文	黒褐色 白色粒子・石英	後期初頭称名寺I式
71	348	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 充填縄文	明赤褐色 白色粒子・黒色粒子	後期初頭称名寺I式
71	349	B-7	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	赤褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	後期初頭称名寺I or II式
71	350	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 列点文	暗灰黄色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・長石	後期初頭称名寺II式
71	351	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 列点文	褐色 白色粒子・赤色粒子・長石	後期初頭称名寺II式
71	352	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 列点文	黒褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期初頭称名寺II式
71	353	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	8の字状突起	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・石英	後期初頭称名寺I式に併行する加曽利E系の閑沢類型
71	354	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 刺突列 把手	明褐色 白色粒子・黒色粒子	後期初頭閑沢類型
71	355	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆線の上下に刺突列	明赤褐色 白色粒子・黒色粒子・金雲母	後期初頭閑沢類型
71	356	B-7	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	縄文 隆帯 刺突列	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・石英	後期初頭閑沢類型
71	357	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆線 刺突列	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・石英	後期初頭閑沢類型
71	358	A-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	細い隆線上にきざみ 8の字状把手	黄灰色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	後期後葉堀之内I式
71	359	B-7	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 刺突	明褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期後葉堀之内I式
71	360	表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	赤褐色 白色粒子・黒色粒子	後期後葉堀之内I式
71	361	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母	後期後葉堀之内I式
71	362	A-10	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・石英	後期後葉堀之内I式
71	363	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内I式
71	364	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・長石・石英	後期前葉堀之内I式
71	365	表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい黄褐色 白色粒子・黒色粒子・石英	後期前葉堀之内I式
71	366	表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	波状口縁 沈線 刺突 細い隆線上にきざみ	明褐色 白色粒子・黒色粒子・長石	後期前葉堀之内I式
71	367	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・長石	後期前葉堀之内I式
71	368	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子・金雲母・長石	後期前葉堀之内I式
71	369	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯 沈線	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内I式
71	370	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯上に刺突 沈線	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内I式
71	371	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯上に刺突 縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色粒子	後期前葉堀之内I式

図版	No.	地点	種別	時期	器種	口/底/高 (cm)	整形技法	色調・胎土	備 考
71	372	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 隆帯	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・金雲母・長石・石英	後期前葉堀之内1式
71	373	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	隆帯上にきざみ	明褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・長石	後期前葉堀之内1式
72	374	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	橙色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・金雲母・長石	後期前葉堀之内1式
72	375	A-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子・石英	後期前葉堀之内1式
72	376	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・長石	後期前葉堀之内1式
72	377	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母	後期前葉堀之内1式
72	378	B-9	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	明赤褐色 白色粒子・赤色粒子・ 黒色粒子・長石	後期後葉堀之内1式
72	379	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子・金雲母・長石	後期後葉堀之内1式
72	380	表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線	にぶい褐色 白色粒子・赤色粒 子・黒色粒子・石英	後期後葉堀之内1式
72	381	A-9	縄文	縄文後	注口	—/—/—		にぶい赤褐色 赤色粒子・黒色 粒子・金雲母・長石	後期後葉堀之内1式
72	382	表土	縄文	縄文後	注口	—/—/—		灰黄褐色 白色粒子・黒色粒子・ 赤色粒子	後期後葉堀之内1式
72	383	A-9	縄文	縄文後	注口?	—/—/—	沈線 刺突文 磨消縄文	褐色 白色粒子・赤色粒子・黒 色粒子	後期後葉堀之内1式
72	384	B-8	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	灰黄褐色 白色粒子・赤色粒子	後期後葉堀之内2式
72	385	表土	縄文	縄文後	深鉢	—/—/—	沈線 磨消縄文	にぶい黄褐色 白色粒子・赤色 粒子・黒色粒子	後期前葉堀之内2式
72	386	A-9	不明	—	深鉢	—/—/—	沈線 垂下する結節縄文	灰褐色 白色粒子・赤色粒子・ 金雲母	
72	387	B-9	不明	—	深鉢	—/—/—	網代痕	橙色 赤色粒子・黒色粒子	

第7表 出土石器・土製品観察表 (() は推定復元値)

図版	No.	地 点	分 類	長/幅/厚 (cm)	重さ (g)	石 材	備 考
73	38	A-9	打製石斧	11.69/8.84/2.03	207.5		
73	39	A-9	磨石	11.13/8.750/4.720	720.8		
73	40	表土	磨石	7.680/4.032/3.573	140.1		
73	41	A-9	石錘	5.95/3.31/1.00	32.2	安山岩?	
73	42	B-8	石鏃	1.23/1.12/0.326	0.2	黒曜石	
73	43	表土	石鏃	1.45/1.10/0.298	0.3	黒曜石	
73	44	A-9	石鏃	1.35/0.97/0.89	0.2	黒曜石	
73	45	A-9	石鏃	2.00/1.38/0.210	0.3	黒曜石	
73	46	B-8	石鏃	1.68/1.35/0.30	0.4	黒曜石	
73	47	B-8	石鏃	1.58/1.30/0.30	0.4	黒曜石	
73	48	B-7	石鏃	1.63/1.30/0.33	0.4	黒曜石	
73	49	表土	石鏃	1.60/1.20/0.441	0.6	黒曜石	
73	50	A-9	石鏃	1.55/1.5-/0.310	0.6	黒曜石	
73	51	B-8	石鏃	1.91/1.57/0.472	0.8	黒曜石	
73	52	B-8	石鏃	—/—/—	0.7	黒曜石	
73	53	A-9	石鏃	1.40/1.19/0.288	0.4	黒曜石	
73	54	A-9	石鏃	1.19/—/0.225	0.2	黒曜石	
73	55	表土	石鏃	1.89/—/0.198	0.4	黒曜石	
73	56	A-9	二次加工のある剥片	2.343/1.810/0.600	2.2	黒曜石	
73	57	A-8	二次加工のある剥片	2.465/1.720/0.441	1.5	黒曜石	
72	388	B-8	土偶	5.3/4.4/2.9	49.4		縄文中期後半曾利式 黒褐色 白色 粒子・赤色粒子・石英・長石
72	389	A-9	手づくね?	—/—/—			縄文
72	390	A-9	土製円盤	4.6/4.9/1.1	27.1		縄文中期後半曾利IV式 明褐色 白 色粒子・黒色粒子・小石

写真図版



I 区の状況



II 区西側遺構検出状況



II 区中央部遺構検出状況



II 区東側完掘状況



III 区西側遺構検出状況



III 区中央遺構検出状況



III 区東側完掘状況



発掘体験セミナーの受け入れ



第1号住居跡



第1号住居跡 調査風景



第1号住居跡 カマド



第1号住居跡 完掘状況



第2号住居跡



第2号住居跡 炉



第1号集石土坑 検出状況



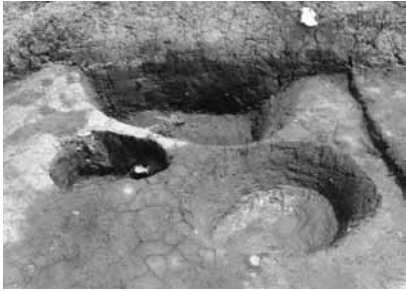
第2号集石土坑 検出状況



第3～6号集石土坑 検出状況



第3～6号集石土坑 完掘状況



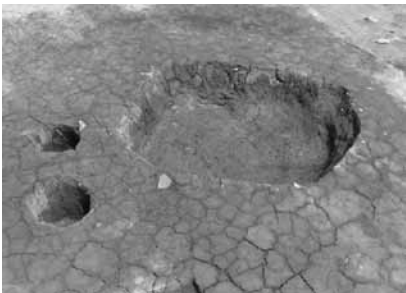
第1～3号土坑



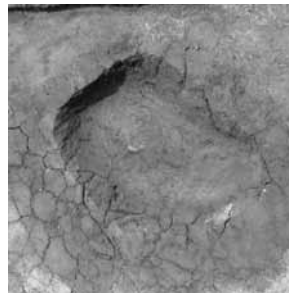
第4号土坑



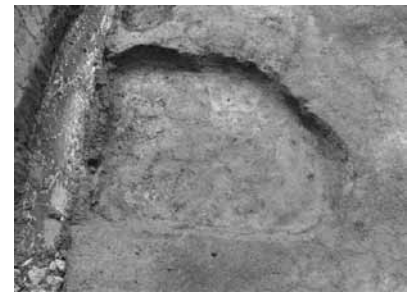
第4・5号土坑と暗渠



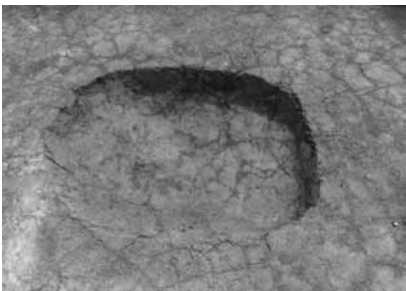
第6号土坑



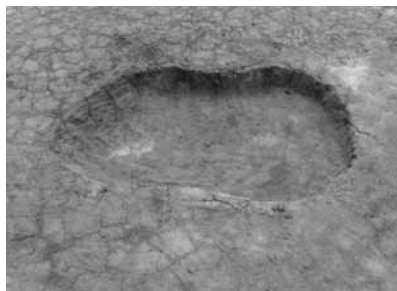
第7号土坑



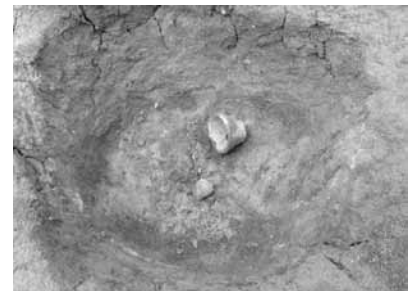
第8号土坑



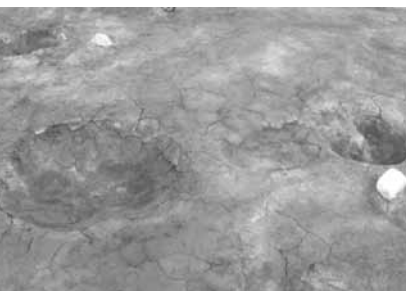
第9号土坑



第10号土坑



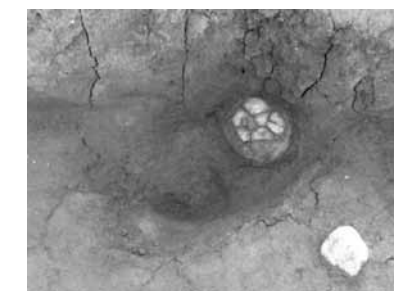
第12号土坑



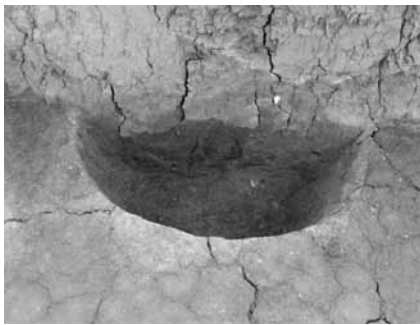
第13～15号土坑



第17・18号土坑



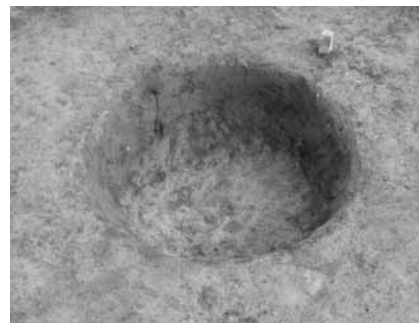
第19号土坑



第20号土坑



第27号土坑



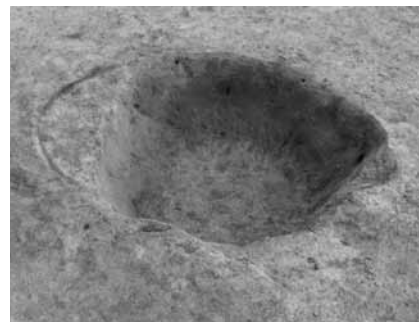
第28号土坑



第29号土坑



第30号土坑



第31号土坑



第32~34号土坑



第35・36・38号土坑



第39号土坑



第41・42号土坑



第43号土坑



第44号土坑



第47号土坑



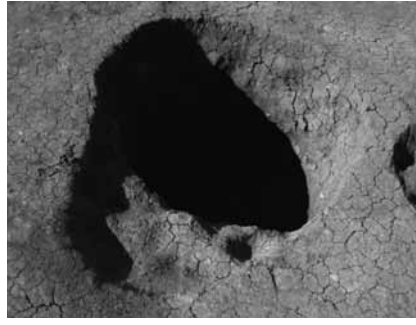
第48号土坑



第49号土坑



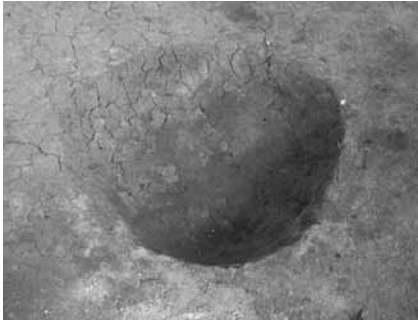
第50号土坑



第51号土坑



第52号土坑



第57号土坑



Ⅲ区 配石遺構と第4号溝状遺構



Ⅲ区 配石遺構



調査前の状況



リニア実験線工事と発掘現場



土坑検出状況 1



土坑検出状況 2



第1号集石土坑検出状況



遺物検出状況



全体写真



調査風景1



調査風景2



整理作業の様子1



整理作業の様子2



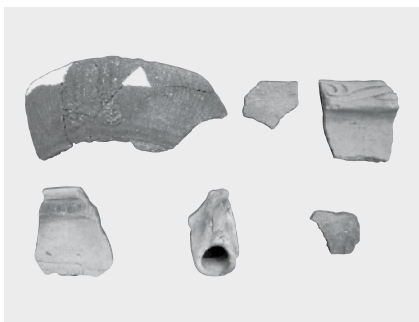
第1・2号住居跡出土遺物



第29号土坑出土遺物



第30・37号土坑出土遺物



第38号土坑出土遺物



第38号土坑出土遺物No.24



第39号土坑出土遺物



第39号土坑出土遺物No.30



第40・43・49号土坑出土遺物



第50号土坑出土遺物



第50号土坑出土遺物No.35



第51号土坑出土遺物



第52号土坑出土遺物



第56・58号土坑出土遺物



第3号集石土坑出土遺物



土器集中区出土遺物No.47・48



土器集中区出土遺物No.49・50・52～54



土器集中区出土遺物No.51



土器集中区出土遺物No.55・56・58・59



土器集中区出土遺物No.57



土器集中区出土遺物No.60～62



土器集中区出土遺物No.63～65



遺構外出土遺物No.66～79



遺構外出土遺物No.68



遺構外出土遺物No.80～85・87～90



遺構外出土遺物No.91～96



遺構外出土遺物No.97・98・99



遺構外出土遺物No.100・101



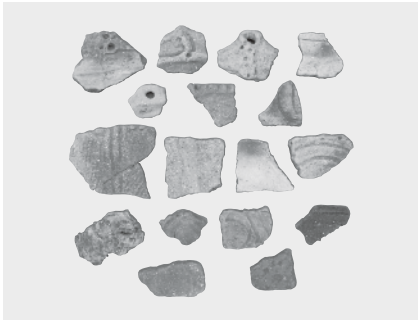
遺構外出土遺物No.102～104



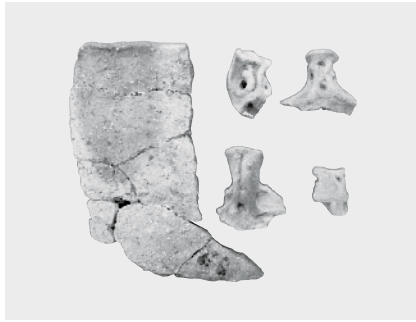
遺構外出土遺物No.105～112



遺構外出土遺物No.113～124



遺構外出土遺物No.125～ 141



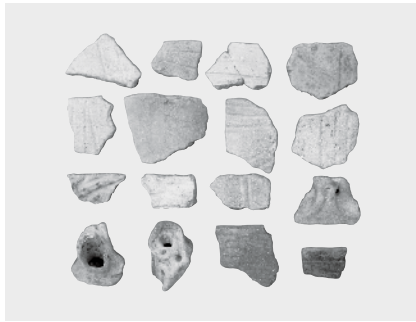
遺構外出土遺物No.142～ 146



遺構外出土遺物No.147～ 155



遺構外出土遺物No.156～ 162



遺構外出土遺物No.163～ 178



遺構外出土遺物No.179～ 196



遺構外出土遺物No.197



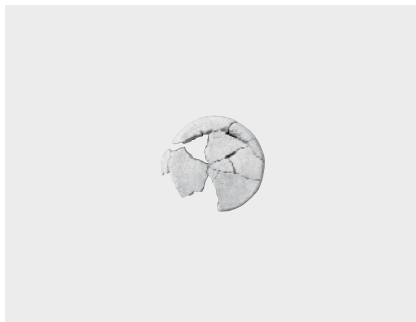
遺構外出土遺物No.199



遺構外出土遺物No.200



遺構外出土遺物No.201～204



遺構外出土遺物No.205



遺構外出土遺物No.206～214



遺構外出土遺物No.215・216



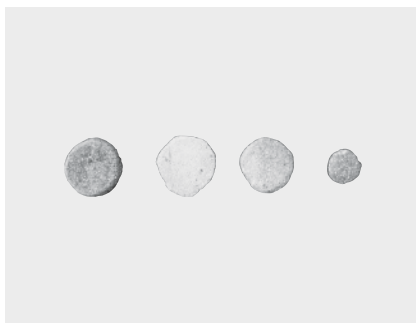
遺構外出土遺物No.217～221・223～227



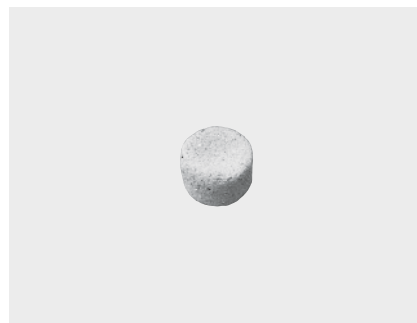
遺構外出土遺物No.228～ 231



土製品第12号土坑No.232・233
第19号土坑No.234



遺構外出土土製品No.235~238



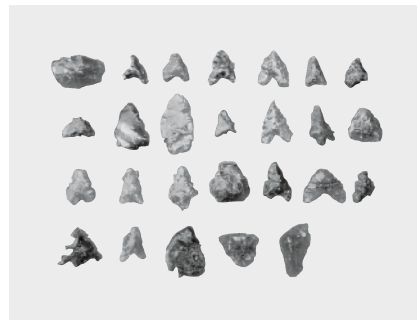
遺構外出土土製品No.239



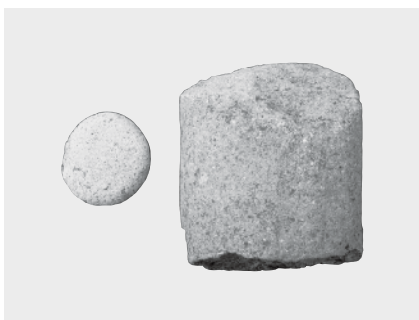
石器No.1~6



石器No.7~9



石器No.10~35



石器No.36~37



二年第1・2号土坑出土遺物



二年第3号土坑出土遺物1



二年第3号土坑出土遺物2



二年第4・5・12・13・15号土坑出土遺物



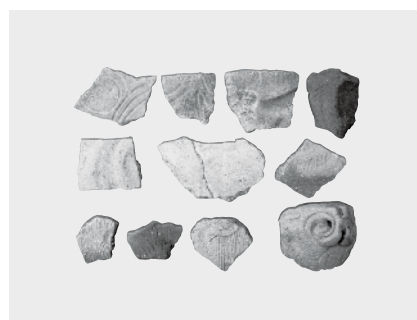
二年第1号集石土坑出土遺物



二次遺構外出土遺物No.266~281



二次遺構外出土遺物No.282~289



二次遺構外出土遺物No.290~300



二次遺構外出土遺物No.300～307



二次遺構外出土遺物No.308～318



二次遺構外出土遺物No.319～325



二次遺構外出土遺物No.326



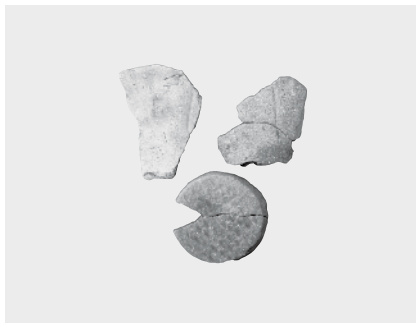
二次遺構外出土遺物No.327



二次遺構外出土遺物No.328～336



二次遺構外出土遺物No.337～341



二次遺構外出土遺物No.342～344



二次遺構外出土遺物No.358～373



二次遺構外出土遺物No.374～385



二次遺構外出土遺物No.386・387



二次遺構外出土土製品No.388～390



二次遺構外出土石器No.38～41



二次遺構外出土石器No.42～57

報 告 書 抄 録

ふりがな	さんこう いせき							
書名	三光遺跡							
副題	山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書							
シリーズ名	山梨県埋蔵文化財センター調査報告書							
シリーズ番号	第277集							
著者名	吉岡弘樹・皆川賢司							
発行者	山梨県教育委員会 独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構							
編集機関	山梨県埋蔵文化財センター							
所在地・電話	〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923							
発行年月日	2011年3月							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さんこういせき 三光 遺跡 (第一次)	やまなしけん ふえふきし みさかちょう たけい 山梨県笛吹市御 坂町竹居	19201		35°36' 10.4"	138°39' 38.8"	平成20年6月 12日～11月 28日	2,000㎡	山梨リニア 実験線建設
さんこういせき 三光 遺跡 (第二次)	やまなしけん ふえふきし みさかちょう たけい 山梨県笛吹市御 坂町竹居	19201		35°36' 10.4"	138°39' 38.8"	平成22年6月 1日～6月 30日	200㎡	山梨リニア 実験線建設
所収遺跡名	種別	主な時代		主な遺構		主な遺物	特記事項	
三光 遺跡	集落	縄文 平安		住居跡-2軒 土坑-66基 集石土坑-8基 配石遺構-4基		縄文土器 石器	縄文時代中期初頭五領ヶ 台式期と推測される住居 跡を検出。	
要約	本遺跡は、山梨リニア実験線建設に伴い発掘調査が実施された。浅川によって形成される扇状地上に所在する遺跡である。1975年に発掘調査された縄文時代後期の資料に加え、今回の縄文時代中期初頭の資料が追加されたことにより、当該遺跡の様相を知る上で新たな知見を得ることができた。							

山梨県埋蔵文化財センター調査報告書 第277集

三 光 遺 跡

山梨リニア実験線建設に伴う発掘調査報告書

印刷日 2011年3月18日

発行日 2011年3月25日

編集 山梨県埋蔵文化財センター

〒400-1508 山梨県甲府市下曾根町923

TEL 055-266-3016

<http://www.pref.yamanashi.jp/maizou-bnk/index.html>

発行 山梨県教育委員会

独立行政法人鉄道建設・運輸施設整備支援機構

印刷 株式会社 少国民社